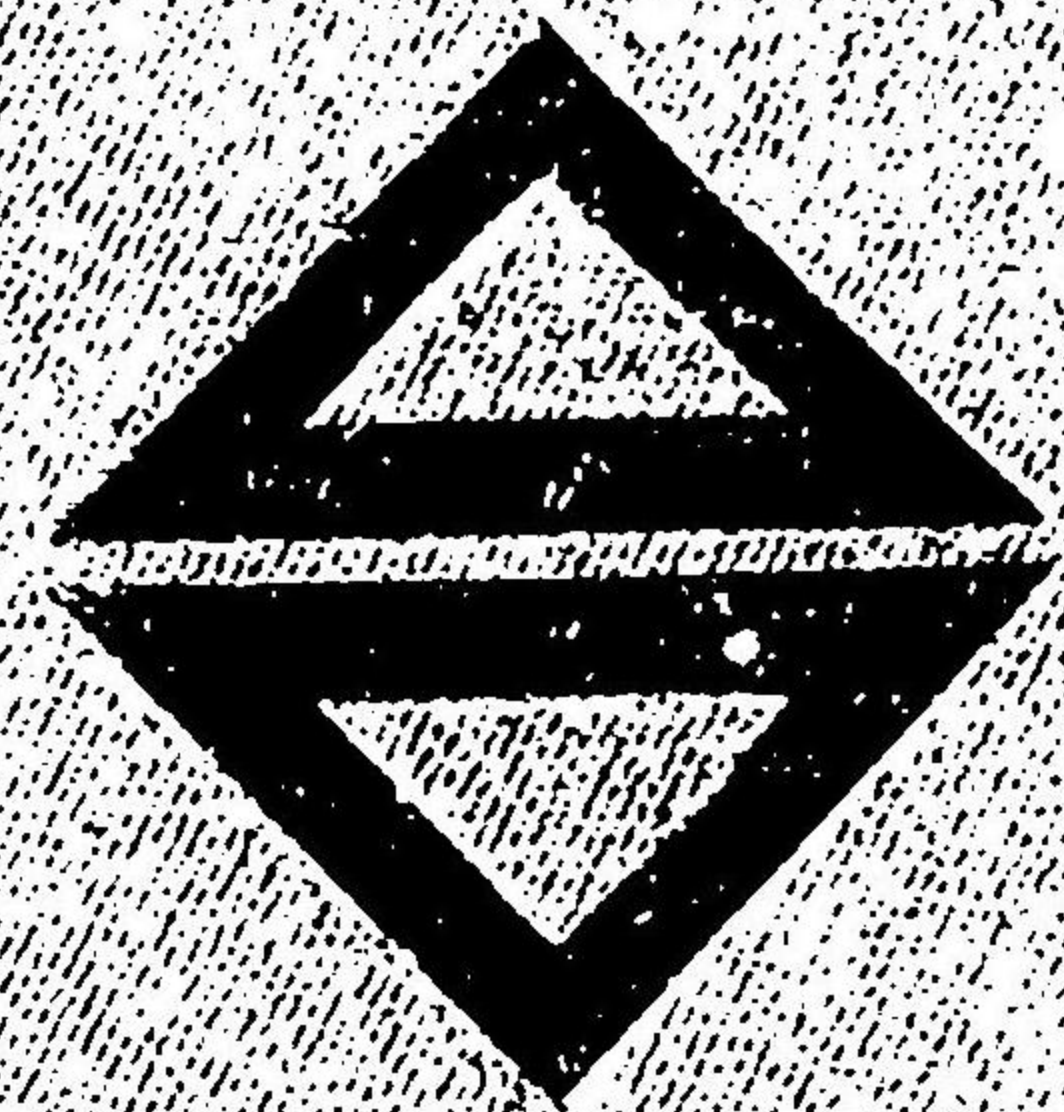


255  
177

年八十三治明

灣臺時臨

末顛查調口戶



---

課計統房官府督總灣臺

---

行刊年一十四治明

頁	行	誤	正
三三	一三	其ノ本他	其ノ本他
六一表	中基隆判任官	三一四	三一五
一九四表	頭欄外		
二六三	第三號樣式中計票再查枚數		
			(支廳別)ノ次ニ(職業項)ヲ脱ス 計票再查枚數



臨時臺灣戶口調査顛末ノ編纂成ル  
 茲ニ謹テ閣下ニ呈ス

臺灣總督府

明治四十一年三月

臨時臺灣戶口調査部長 祝 辰 巳

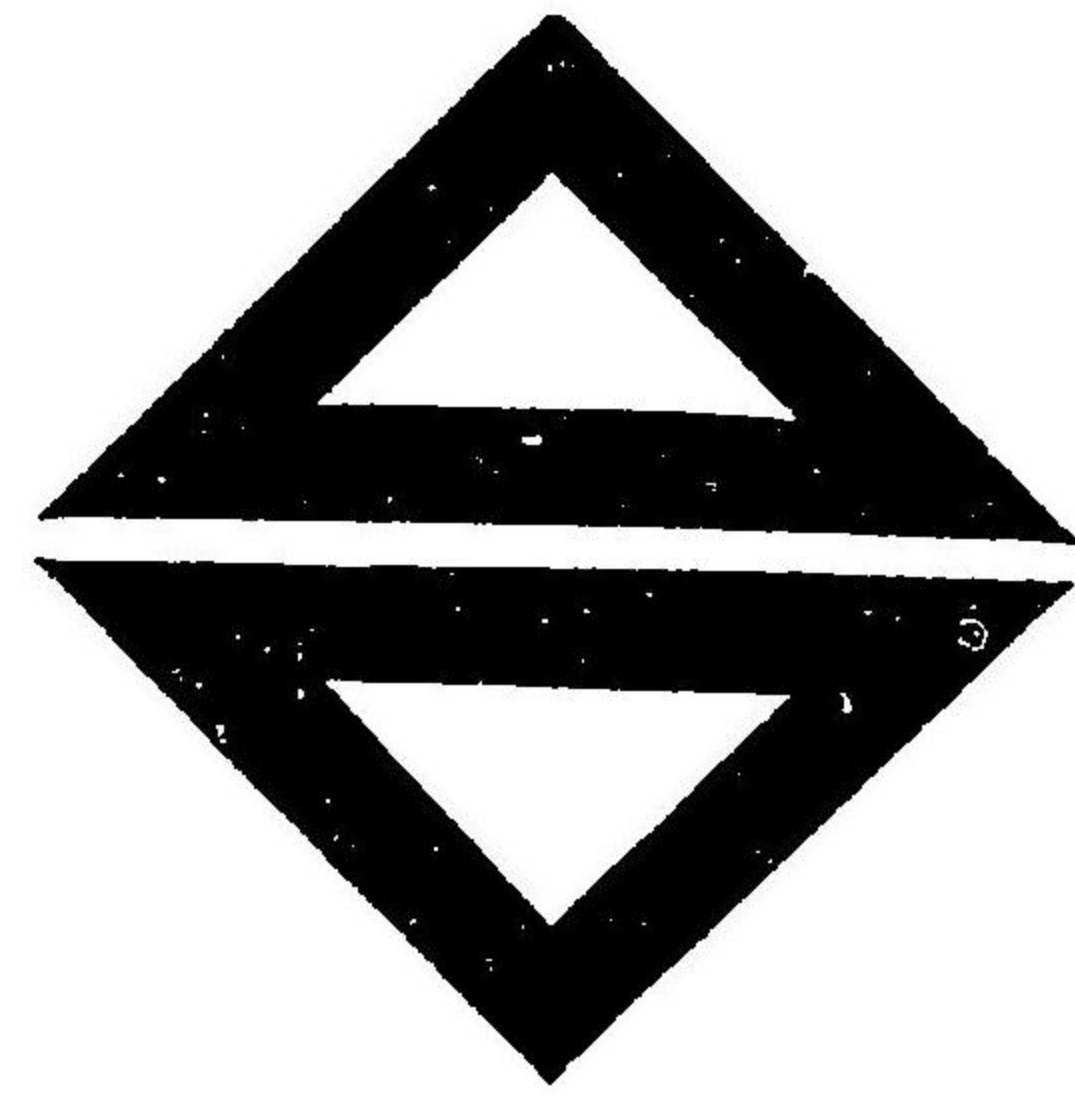
臺灣總督伯爵佐久間左馬太殿



年八十三治明

灣臺時臨

末顛查調口戶



課計統房官府督總灣臺

行刊年一十四治明

## 凡例

- 一 本編ハ明治三十八年十月一日施行ノ臨時臺灣戶口調査ニ關スル顛末ヲ敘述シ以テ一ハ本調査ノ經過ヲ示シ一ハ次回以後ノ計畫施設ニ資セムトスルニ在リ
- 二 既刊ノ報告書類ニ所載ノ事項ト重複ノモノハ力メテ之ヲ避ケタリト雖首尾一貫ヲ要スルモノハ復之ヲ收録セリ
- 三 本編ノ編纂ハ専ラ主事水科七三郎之ニ任シ屬福田眞鷹之ヲ補助セリ

# 目次

第一章 來歷	一
第一節 母國	一
第二節 臺灣	二
第二章 準備	五
第三章 實查	八三
第四章 整理	八六
第五章 檢查及製表	一一三
第一節 檢查	一一三
第二節 製表	一一六
第一 小票作成	一一六
第二 原表集計	一三九
第三 整表	二二四
第三節 倉庫	二三四
第六章 人口動態	二三八
第七章 調查機關	二四七
第八章 職員及參加章	二七五
第一節 職員	二七五

第二節 參加章……………二八三

第九章 經費……………二八五

第十章 褒賞……………二八九

第十一章 執務時間……………二九四

第十二章 出版公布……………二七五

# 臨時臺灣戶口調查顛末

## 第一章 來 歷

### 第一節 母國

要旨

模範的調査

國勢調査法

人口調査ハ古來各國ニ行ハレタリ我カ國ニ於テハ崇神天皇ノ御宇男女民數ヲ調査セシニ始マル爾來此ノ種ノ調査ナキニ非スト雖完全ナル國勢調査ハ曾テ施行セラレサリキ然ルニ今ノ法學博士杉亨二ハ夙ニ其ノ必要ヲ唱道シ明治二年駿州ノ一部ニ其ノ調査ヲ試行シ漸次他ニ及ホサムノ考案ヲ立テ同六年政府ニ建議スル所アリ政府ハ其ノ議ヲ採リ同十二年ヲ以テ同人ニ命シテ山梨縣ニ模範的國勢調査ヲ施行セシメ其ノ結果ハ甲斐國現在人別調ト題シテ同十五年統計院ヨリ公ニセラレタリ

爾來幾星霜機未タ熟セサルモ官民漸ク其ノ必要ヲ感スルモノアルニ至リ明治二十九年貴衆兩院ニ於テハ國勢調査ノ建議案ヲ通過シ又東京統計協會ノ有志者ハ國勢調査施行ノ請願ヲ提出スルニ至レリ翌三十年前ノ臺灣總督府民政長官男爵後藤新平ハ當時ノ內務大臣伯爵樺山資紀ニ國勢調査ニ關スル意見書ヲ提出セリ越テ同三十五年ニ至リ貴衆兩院ハ國勢調査法案ヲ通過シ同年法律第四十九號ヲ以テ國勢調査法ヲ發布セラレ明治三十八年ニ其ノ第一回調査ヲ帝國全版圖内ニ施行スルコトニ規定セラレタリ然ルニ時偶々振古未曾有ノ日露大戰爭ヲ開始スルニ際會シ同三十八年法律第十三號ヲ以テ國勢調査法ノ一部ヲ改正シ第一回國勢

調査施行ノ時期ハ勅令ヲ以テ定ムルコトト爲レリ當時該法案ノ貴族院ニ提出セララルヤ議員伯爵柳澤保惠ハ之ニ反對シ第一回國勢調査ハ明治四十三年ニ於テ施行スヘシトノ修正案ヲ提出シタルモ少數ニテ成立セサリシハ國家ノ爲憾事ト謂フヘシ

### 第二節 臺灣

支那ハ往古ニ於テ統計史上ニ大關係ヲ有ス即チ田制徭役地方區劃及保甲制度ニ伴ヒ戸口ヲ調査シタルコトアリ而シテ臺灣ハ我カ領有以前支那ノ行政系統ニ依リ諸般ノ施設ヲ爲シ戸口調査ノ如キモ其ノ形跡ナキニ非ス然レトモ其ノ法備ハラサルヲ以テ信スルニ足ラス又我カ領有以來定期ノ戸口報告ヲ爲サシメタルモ深ク信ヲ措クニ足ラサルコト母國ニ異ナラス

領臺前  
兒玉總督ト  
人口調査

土地調査局  
長ノ演說

是ヲ以テ兒玉前總督ハ新領土ノ統治上夙ニ人口調査ト共ニ土地調査ノ必要ヲ認メタレトモ當時ノ情勢ニ鑑ミ土地調査ヲ先ニスルコトニ決定セリ明治三十一年九月當時ノ土地調査局長後藤新平ハ局員ニ對シテ訓示ヲ爲セル中ニ左ノ一節アリ以テ其ノ意ノ在ル所ヲ知ルヘシ

世ノ諺ニ羅馬ニ至ルノ道ハ一ニアラスト言フテ幾ツモ道カアルモノテアリマスカ之ト同シク行政ニ必要ナル道モ多クアリ而シテ其ノ集合點ニ至ツテ初メテ大成スルモノテアル中ニ就テ人口ノ調査ト土地ノ調査トハ行政上是レ程必要ナルモノハナイ況ヤ新版圖ニ於テ百般ノ行政ヲ整理スルニ方リテ人口ノ調査土地ノ調査ヲ爲スニ非サレハ種々ノ混雜ヲ招キ從テ行政整理ノ目的ヲ達シナイトイフ感ヲ懷カシムルノ實例ハ日々我々ノ執ル所ノ行政ノ上ニ見ハルルノテアリマスソコテ總督閣下ハ著任以來痛ク此ノ事ニ意ヲ勞セラレ前任者ノ從事サレタ事ニ關シ夫々主任者ニ就テ意見ヲ聞カレ是非土地ノ調査ハ施行シナケレハナラヌトイフ必要ヲ認メラレ至難ナル事業テハアルケレトモ斷然タル處置ニ出テラレテ遂ニ今日ノ結果ヲ見ルニ至ツタノテアリマス前

戶口調査ノ  
進轉  
内閣書記官  
長ノ照會

民政長官ノ  
回答

内閣案ト修  
正案

段申述ヘタル通人口ノ調査土地ノ調査ハ最必要ナルカ何レノ國ニ於テモ之ヲ至難ノ事業トシナイ國ハナイノテ此ノ事ハ今茲ニ諸君ニ告クルノ必要ハナイ諸君モ既ニ其ノ至難ナル事ヲ察知シテ居ラルルコトト思フノテアリマス此ノ如ク至難ナル事業ニ當ル所ノモノハ職ニ就クノ初メヨリ用意周到ナケレハナラヌ云々

此ノ如クニシテ土地調査ハ明治三十一年度ヨリ著手セラレ同三十七年度ニ至リ完了セリ是ヨリ先國勢調査法ノ發布セララルヤ臺灣ヲ如何ニスヘキヤハ朝野ノ一問題タリシニ明治三十五年十月ニ至リ内閣書記官長柴田家門ヨリ民政長官後藤新平ニ宛左記ノ照會アリ

曩ニ帝國議會ヲ通過セル國勢調査法案裁可公布相成候ハ、明治三十八年ヲ期シ帝國全版圖ニ該調査ヲ執行セラルヘキ儀ニ有之右ニ付過般内閣ニ各廳委員ヲ召集シ内地ニ執行スヘキ調査ノ範圍條項並ニ結果表章ノ程度等審議ノ末内地ハ概略別紙ノ如キ程度ヲ以テ調査執行可相成見込ニ有之然ルニ臺灣及澎湖島ノ儀ハ内地ト同一程度ノ調査執行難相成事情可有之ト存候就テハ調査ノ方法程度等ニ就キ御意見承知致度此段及御照會候也

(別紙略ス)

臺灣總督府ニ於テ此ノ照會ニ接スルヤ重要ナル事項ト認メ關係各部局ヨリ各一名以上ノ調査主任ヲ選出シテ調査ノ事項及程度等ヲ調査セシメ後又各局署長、祕書課長、地方課長、學務課長、參事官ヲ會シテ協議ヲ遂ケ而シテ三十五年十一月ニ至リ左記ノ回答ヲ爲シタリ

本島國勢調査ノ方法並程度ノ儀ニ付十月二十二日附發第一七三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ別紙ノ如キ方法並程度ニテ調査執行可致見込ニ有之候間右様御承知相成度此段及回答候也

追テ調査費用ハ特ニ國庫ヨリ支辨可相成儀ト存候ニ付豫算添附ノ筈ニ候得共目下調査中ニ付追テ提出可致此段申添候也

(別紙略ス)

照會書ト回答書ノ別紙ヲ對照スルニ其ノ異ナル要點約左ノ如シ



<p>内閣案</p> <p>出生ノ年月日</p> <p>山林(又ハ竹林)養蠶家禽 田ノ蒔蓮根作等 畑ノ桑畑 牛馬ノ牝牡、年齢、頭數</p>	<p>修正案</p> <p>年齢 何 歳 何 月 日</p> <p>用語 <small>土人ニシテ國語ヲ話シ得ルモノハ話シ得ト記入スヘシ</small></p> <p>其ノ他 甘蔗 黄牛、水牛、豚ノ牝牡、頭數 本島人ニ對スル所帶票ハ漢譯ノモノヲ用フ</p>
<p>實行ノ端緒</p> <p>此ノ如クニシテ明治三十五年ハ終レリ同三十六年九月ニ至リ愈々其ノ準備ニ著手スル必要ヲ認メ特ニ一二ノ吏員ニ命シテ諸般ノ調査ニ從事セシメタリ</p>	

文書課時代  
調査部時代

施行ノ決定

要件

第二章 準備

準備時代ハ明治三十六年九月ヨリ明治三十八年五月勅令第七十五號臨時臺灣戸口調査部官制發布マテヲ第一期(文書課時代)トシ爾後明治三十九年九月三十日迄ヲ第二期(調査部時代)トスルコトヲ得ヘシ然レトモ事兩期ニ跨リ相關聯スルモノアリ故ニ或ハ年次ニ依リ或ハ事項ノ類集ニ依リテ之ヲ左ニ略說セムトス

國勢調査ノ準備ニ關シテハ數年前ヨリ計畫スル所アリタリト雖著々其ノ歩ヲ進メタルハ明治三十六年九月以降ニシテ翌三十七年三月二十二日兒玉前總督ハ明治三十八年十月一日ヲ期シ臺灣全島ニ國勢調査施行ノ件ヲ決定セリ其ノ要件左ノ如シ

國勢調査ニ關スル要件

- 一 總督府ニ國勢調査ニ關スル臨時機關ヲ設クルコト
- 一 立法ニ關スル機關
- 二 執行ニ關スル機關
- 一 實行ニ關シテハ主トシテ警察機關之ニ當ルコト
- 但シ必要ニ應シ他ノ機關ヲ以テ補助セシムルコトヲ得
- 一 所帶票記入事項ニシテ一定シ中ニ就キ戸口調査規程ニナキ事項ハ之ヲ該規程中ニ追加改正ヲ爲スコト
- 一 戸口調査規程ハ自今各廳ヲ通シ統一ニ勵行スルコト

經費

- 一 國勢調査施行日ニ於ケル根據ハ戶口調査簿タルヘキコト
- 一 右施行日ニ於ケル現在ヲ以テ戶籍簿ノ基礎ト爲シ以後異動ヲ嚴ニ訂正シ以テ動態調査ノ單位ヲ確實ニスルコト
- 一 本島ニ一定ノ戶籍法ヲ施行セハ右施行日ヲ以テ分界ト爲スコト
- 一 費用豫算額ハ概略別記ノ如シ
- 一 以上ノ要件確定セハ實行ノ方法ヲ審査進行スルコト

(別記) 國勢調査費豫算

各年度ノ内譯ヲ略ス

年	度	金額
明治三十七年度		七、六〇〇
同 三十八年度		七九、七四〇
同 三十九年度		五五、四一二
同 四十年 度		五〇、六八八
總計		一九三、四四〇

準備ノ要項

是レ單ニ國勢調査ヲ施行スルノ大方針タルノミナラス人口動態調査ヲ開始スルノ伏線ト爲リ戶口規則發布ノ起因ト爲リ幾多人口問題ヲ解決スルノ楔子タリシナリ

方針既ニ定レリ而シテ審査攻究ヲ要スヘキ要目固ヨリ一ニシテ足ラスト雖國勢調査ノ困難ハ萬人ノ等シク認ムル所況ヤ之ヲ新領土ノ臺灣ニ施行スルニ於テヤ用意周到ナルニ非スムハ唯國勢調査ノ價值ヲ損スルノミナラス或ハ恐ラクハ母國國勢調査期ノ伸縮ニ影響セム乃チ特ニ十分ノ準備ヲ要スル所以ナリ今項ヲ分チテ準備ノ要項ヲ舉クレハ左ノ如シ

統計講習生派遣

統計講習會開設

- 一 統計講習生派遣 明治三十五年講習生五名傍聽生一名同三十六年講習生七名ヲ東京ニ於ケル統計講習會ニ派遣ス是レ一般統計ノ智識ヲ得ルト同時ニ國勢調査ニ必要ノ智識ヲ得セシメムカ爲ナリ
- 二 統計講習會開設 明治三十六年及同三十七年臺灣總督府ニ於テ統計講習會ヲ開キ第一回ハ所屬官衙ノ吏員第二回ハ所屬官衙吏員ノ外尙陸軍幕僚ノ吏員ニ一般統計及國勢調査ニ關スル講習ヲ爲ス其ノ修業證書ヲ授與シタルモノ前後百六十九名アリ而シテ會長ハ前後兩回共財務局長祝辰巳ニシテ講習科目及講師ノ官職氏名ハ左ノ如シ

科 目	第一 回 講 師	第二 回 講 師
統計	技師 水科七三郎	技師 水科七三郎
國勢	屬 竹村 諫	屬 竹村 諫
行政	屬 竹村 諫	屬 竹村 諫
人口	參事官 新倉 蔚	屬 竹村 諫
經濟	屬 持地六三郎	屬 竹村 諫
倫理	屬 永野俊吾	屬 竹村 諫
統計	各 屬 永野俊吾	各 屬 永野俊吾

地方統計講習會

三 地方統計講習會 中央部ニ於ケル統計講習會ハ二年間繼續施行シタルヲ以テ尙地方ニ

於ケル統計講習會ヲ獎勵シ曩ニ總督府統計講習會ノ修業者ヲ講師ト爲シ尙總督府ヨリ講師ヲ派遣スル等講習上ニ便宜ヲ與ヘタリ其ノ開設セシ地方及講習生等左ノ如シ

地方統計講習會

廳	會	期	講習員	廳	會	期	講習員
宜 蘭	自明治三十六年十二月二十五日	至同三十七年二月二十二日	三七	水 港	自明治三十七年八月十五日	至同三十七年九月十五日	二四
阿 嶺	自明治三十六年十二月二十四日	至同三十七年二月二十日	九	竹 化	自明治三十七年十一月十一日	至同三十七年十二月十一日	八二
基 隆	自明治三十七年三月二十六日	至同三十七年五月二十二日	二四	中 化	自明治三十七年十二月十三日	至同三十七年十二月十三日	七五
深 坑	自明治三十七年六月二十七日	至同三十七年七月二十七日	二〇	緞 中	自明治三十七年十二月二十二日	至同三十七年十二月二十二日	二一
桃 園	自明治三十七年八月十五日	至同三十七年八月十五日	七六	關 緞	自明治三十八年三月八日	至同三十八年三月八日	六三
嘉 義	自明治三十七年八月二十三日	至同三十七年八月二十三日	一〇	春 關	自明治三十八年二月十五日	至同三十八年三月十五日	一六

又三十八年七八月ノ交特ニ臺北及臺南ニ小公學校教員夏期講習會ヲ開キ國勢調査上必要ノ事項ヲモ講習セシム

試驗調査 明治三十七年八月桃園廳ニ統計講習會アルヲ機トシ實務演習ノ爲其ノ十四日ヲ以テ桃園街ニ國勢調査ノ實地試驗ヲ爲サシム是レ立案ノ適否調査ノ難易擔當ノ輕重時間ノ多少其ノ他必要ノ事項ニ付實驗上ノ智識ヲ得セシメムトスルニ在リ

又臺北廳ニ於テハ管内戸口ノ正確ヲ得ムカ爲明治三十八年一月一日ノ現在者ヲ戸口ニ

警察官及司獄官練習所  
科目ニ國勢調査法ヲ加フ

諸會議  
地方官會議

民政長官  
ノ演說

説明

五 警察官及司獄官練習所ノ科目ニ國勢調査法ヲ加フ 本島ノ戸口調査ト警察官トハ密接ノ關係アルヲ以テ明治三十七年二月以降同練習所警察官部甲科生及乙科生ニ國勢調査法ヲ課シ殊ニ同三十八年夏季ニ入所ノ乙科生約二百名ニハ國勢調査ニ必須ノ諸規程及土語ヲ專科トシテ速成ヲ期シ各廳ノ補缺ヲ爲セリ

六 諸會議 明治三十七年六月地方官會議ヲ召集スルヤ諮問案中ニ國勢調査ニ關スル事項ヲ加ヘ計畫ノ大要ヲ示シ之ニ對スル詳細ナル各自ノ意見ハ歸任後二十日以内ニ書面ヲ以テ提出ノコトニ決ス當時ノ諮問事項ハ臺灣ニ於ケル國勢調査ノ調査事項ハ如何ニ限定スヘキヤ又其ノ施行期日ハ何月何日ヲ可トスヘキヤニシテ民政長官後藤新平演說ノ要旨左ノ如シ

國勢調査ノ施行ハ隨分大事業ナリ一方ヨリ見レハ臺灣ハ臺灣相當ノコトヲ爲シ居レハ可ナリ内地ニテサヘ躊躇スルコトヲ臺灣ニテ行フニ及ハス寧ロ此ノ經費ヲ他ニ廻ハサムト云フモノハアリソウナモノナリ然レトモ米國ハ生蕃ノ住居セル所ニサヘ之ヲ行ヒ居レリ是レ今日ノ行政上ヨリ見テ必要ナレハナリ行政上ニ於テ地籍ト人籍ハ必要ナルカ人籍ノコトハ種々ノコトニ必要ナリ國勢調査モ其ノ内ナリ戸籍ノ方ハ簡便ナル方ヲ執リ行クモ國勢調査ヲ行フコトハ猶豫スルコト能ハストノコトアリ此ノ事業ニ著手スルコトニ府議決定セリ而シテ之ニ付テハ保甲モ利用セサルヘカラス警察官モ力ヲ盡ササルヘカラス保甲ノ方ハ如何ナルヤ知ラサルモ警察官ノ方ハ是非之ヲ盡力セシメサルヘカラス諸君ハ宜敷之ニ付力ヲ盡スヘシ尙申出テラレタキコトハ書面ニテ申出ラレヘシ精キコトハ主任ヨリ申述ヘム

尙文書課長加藤尙志及技師水科七三郎ヲシテ詳細ノ説明ヲ爲サシメ且地方官ノ質問ニ

警務課長  
會議

稅務課長  
會議

地方官會  
議

民政長  
官訓  
示

對シテハ之ニ答ヘシメタリ而シテ地方官歸任後提出ノ意見ヲ綜合スルニ概シテ調査事項調査施行期日共ニ原案ニ賛同ヲ表セリ即チ調査事項ハ種痘ヲ除クノ外昨年十月實行ノ分ト異ナル所ナク施行期日ハ十月一日ヲ可トセリ  
同年十一月各廳警務課長會議ヲ開クヤ國勢調査ノ調査事項ニシテ戶口調査規程中ニナキモノハ豫メ調査シ置クノ方法ヲ注意セシメタリ之ヲ戶口調査簿ニ於ケル準備調査ノ第一著手トス

同三十八年五月各廳稅務課長會議ヲ開クヤ國勢調査ノ要領ヲ示シ且所帶票記入心得ノ讀會ヲ開カシメタリ

同月國勢調査ノ爲特ニ地方官ヲ召集シテ會議ヲ開キ調査施行ニ關スル訓示ヲ爲シ且意見ヲ徵セリ當時總督代理民政長官後藤新平ノ訓示ハ左ノ如シ

地方官會議ニ於ケル總督代理後藤民政長官ノ訓示

此ノ度ノ召集ハ戶口調査ニ關シテ特ニ諸君ヲ煩ハシタル譯ニテ戶口調査ノ前驅ヲ爲サムトスルモノナリ戶口調査ハ已ニ諸君ノ了知セラルルカ如ク我國ニ於テハ今日迄曾テ實行シタル事ナキ新事業ナルヲ以テ篤ト協議ヲ遂ケ遺憾ナカラムコトヲ期スヘシ  
此ノ度戶口調査ニ關シ官制ノ發布セラレタルハ本部ト地方トノ統一ヲ圖リ事務ノ圓滑敏捷ヲ期スルニ在リ故ニ廳長トシテ地方委員長トナルモ官制ノ示ス如ク委員長ト其ノ下僚トハ通常ノ順序ニ依ラス特別關係ヲ形成スルモノナリ故ニ支廳ノ如キハ特別官制ニハ之ヲ認メス又通常位置ノ高キモノ調査委員トナリ位置ノ低キモノ監督委員トナリ其ノ指揮ニ從フカ如キコトナキヲ保セス此等ハ多少不都合ノ感ナキニ非サルモ戶口調査ノ爲堪能ナルモノヲ選ヒ之ニ從事セシムルモノナルヲ以テ何等ノ支障アルナシ  
本調査ニ從事スルモノハ名譽ノ職トシテ從事スルナリ例之ハ貴族ノ子弟カ兵丁トナリ國家ノ職ヲ盡スコトハ名譽ノコトナルカ如シ之レカ爲官等アリ職務アル人ニモ之レカ事業ニ參與スルノ時間ヲ與ヘタリ此

警務課長  
會議及總  
務課長會  
議

等ヲ湊合シテ考フレハ思半ハニ過クルモノアラシ假令如何ナル官職ヲ有スルモ其ノ目的ノ爲働ク以上ハ當局ノ主任者タル判任官カ自分ヨリ上長ノ官吏ヲ指揮スルト云フカ如キモ決シテ順序ヲ誤ルト云フヘカス成規常例ニ照シテ事務ヲ處理シ此ノ目的ヲ達セハ足ルノミ  
之ヲ要スルニ特別官制ハ事務ノ統一ヲ圖リ執行ノ敏捷ヲ期スルニ在リ官等ノ順序等ハ敢テ論スル所ニ非ス如何ナル官職ニアルモ餘力アレハ之ニ從事セシメテ可ナリ  
土地調査施行ノ當時ニ述ヘタルカ如ク地籍ト民籍調査ハ施政ノ根本ニシテ其ノ必要ハ固ヨリ論ヲ俟タス而シテ地域ハ異動アルモ其ノ異動ヲ整理セハ其ノ事業ノ水泡ニ期スル如キコトナシ然レトモ人口ノ調査ニ至リテハ地籍ニ比スレハ甚困難ニシテ其ノ效ヲ舉クルコト亦難シ故ニ先ツ比較的容易ナル土地調査事業ヲ先ニシ今ヤ其ノ事業ヲ終了セルヲ以テ自然ノ順序トシテ戶口調査ニ著手セリ國勢調査ヲ本年全版圖内ニ施行スルコトハ帝國議會ニ於テ協賛ヲ得サリシニモ拘ラス本島ニ於テハ特ニ必要アルヲ以テ總督府ハ戶口調査ノ名ヲ以テ之カ實行ニ著手スルニ至レリ  
今回發布シタル規則ニ就キ實施上困難ノ事モアルヘシ此等ノコトハ副部長タル本會議長並主事ヨリ十分開陳セシムヘシ故ニ疑ニ存スル所ハ之ヲ質シ以テ其ノ要旨ヲ解得セラレムコトヲ望ム  
右訓示終ルヤ主事祝辰巳ヲシテ臨時臺灣戶口調査ニ關スル注意ヲ爲サシメ然ル後臨時臺灣戶口調査規則臨時臺灣戶口調査事務取扱規程所帶票所帶票記入心得監督委員心得調査委員心得等ヲ議題ニ供シ各自ノ意見ヲ徵シ最後ニ主事水科七三郎ヲシテ臨時戶口調査施行後ハ其ノ動態調査ヲモ完備セシムルノ注意ヲ爲サシメタリ  
七月八月ノ交國勢調査ノ爲各廳警務課長會議並總務課長會議ヲ開キ民政長官ヲシテ訓示セシメ且當務者ヨリ注意說明等ヲ與ヘシメタリ當時警務課長會議ノ問題ハ(一)臨時戶口調査ニ關スル一般ノ注意(二)各廳ニ於ケル臨時戶口調査準備ノ狀況及今後實行ニ對スル見込(三)臨時戶口調査諸規定ニ關スル打合(四)人口動態調査ニ關スル注意又總務課長會議ノ問題ハ(一)臨時戶口調査ニ關スル一般ノ注意(二)臨時戶口調査諸規定ニ關スル打合(三)

人口動態調査ニ關スル注意ニシテ右警務課長會議ニ於ケル民政長官後藤新平ノ訓示及  
總務課長會議ニ於ケル民政長官代理大島久滿次ノ訓示及右兩會議ニ於ケル主事祝辰巳  
ノ演說ヲ掲クレハ左ノ如シ

警務課長會議ニ於ケル後藤民政長官ノ訓示

此ノ度諸君カ召集セラレタノハ戶口調査ノ事テアル戶口調査ノ事ニ關シテハ先日廳長會議ニ於テ本官ヨ  
リ訓示シタリ今之ヲ反覆スルモ却テ徒ニ時間ヲ費スノミテアル故其ノ大要ヲ話シテ置クコトニ止メマス  
此ノ戶口調査ハ重要ナル事項テアツテ既ニ總督閣下カ心ヲ是ニ寄セラレ地籍ト人籍ノ事ヲ明カニスルニ  
非サレハ到底此ノ行政ノ基礎ヲ全ウスルコトハ出來ヌト云フ事ヨリシテ既ニ其ノ地籍ノ事ハ成功シテ居  
ルカ此ノ度ハ此ノ戶口調査ノ事ニ著手スルニ至ツタノテアル又一方ニ於テ國勢調査ハ本島ノミナラス全  
國ニ行ハレルト云フ大勢ニ遭遇シ是ト共ニ實行スルト云フ考テアリシカ内地ノ方ハ時局ノ關係ニ因テ之  
ヲ延期シタノテアル併シナカラ本島ニ於テハ必シモ内地ノ國勢調査ニ伴ウテ實行スルハカリテナク本島  
土地ノ狀況ニ依リテ必要ナリト認メラレテ居ル事ヨリシテ之ヲ實行スルト云フ事ニ成ツタノテアルソコ  
テ是カ爲ニ特ニ官制ヲ發布セラレタノテアル此ノ官制ハ何故ニ發布セラレタカト申スト先日モ申ス通り  
事務ノ統一敏活ヲ期スル爲ニ常系ヲ踏ムテ此ノ事務ノ取扱ヲスル時ニハ却テ煩冗ニ涉ル所カアル故ニ此  
ノ事務ヲ整理スルニ就テ必要ナル特種ノ系統ヲ以テスレハ必ス統一敏活ヲ期スル事カ出來ルト云フ事ヨ  
リ特ニ官制ヲ發布セラレタ譯テアル此ノ事ハ廳長ニモ訓示シ通常ノ事務ノ系統カラシテ其レニ拘泥シテ  
此ノ特種ノ系統ヲ設ケラレタル本旨ヲ誤マルコトノナイヤウニ話シテアル故ニ其ノ事ハ廳長ヨリ一同ノ  
諸君カ聞レタ事テアツテ今之ヲ繰返シテ申述ヘル必要モナイ斯様ナル特種ノ官制ヲ發布セラレタ事ニ成  
ツテ居ル點カラ考ヘテモ斯ノ事業カ如何ニ大切テ如何ニ重要ナル事件テアルカト云フ事ハ察シ得ラルル  
ノテアル又是ニ關シテハ大イニ警察官ノ力ヲ要スルノテ唯其ノ當日實行ノ時ニ力ヲ要スルハカリテナ  
イ此ノ準備ニ對シテ最警察官ノ力ヲ要スル此ノ事ハ嘗テ夫々廳長ニ對シ訓示シテアルカ此ノ度ハ其レニ  
就テ尙遺策ナキヲ期スル爲一同ヲ召集シ次第テアル之ヲ實施スルニ就テ此ノ會議ニ於テ能ク協議ヲ遂

民政長官  
ノ訓示

民政長  
官代理  
ノ訓示

ケラレムコトヲ望ム又一面ニ於テハ大島警視總長ハ本官ノ次席トシテ事ヲ助ケ且祝財務局長水科技師ハ  
主事トシテ事ヲ助ケ此ノ度諸君ト共ニ熱議ヲセラルル筈テアル是ニ就テ意義ヲ質シ疑ヒヲ解キ以テ此ノ  
實行ヲ完全ニ達セシムコトヲ希望スル所ノ念カラ訓示トシテ此ノ一言ヲ述フル次第テアル

總務課長會議ニ於ケル民政長官代理警視總長大島久滿次ノ訓示

開會ニ先立チマシテ諸君ニ一言申シマスカ今日諸君ヲ御召集ニ成ツタノハ臨時戶口調査ノ準備ニ就テ各  
地方ノ疑義ヲ解キ解釋ノ統一ヲ計ルト云フ御主旨ニ外ナラヌノテ曩ニ警務課長ヲ召集セラレタノモ此ノ  
主旨テアル段々諸君ノ御盡力ニ因リ各地方トモ夫々準備ニ御著手ニ成ル事ト信シマスカ之ヲ實行スルニ  
當ツテハ種々ノ疑義ヲ生シ解釋ニ就テ區々ヲ生スルト云フ虞カアリマス就テ今回ノ會同ニ於テ諸君カ御  
質疑アル所ハ服藏ナク徹底スル迄御質問アルヤウニシ又曩ニ講習員カ講習シテ歸リマシテ其ノ後警務課  
長ノ會同ニ於テ講習員ハ斯ウ云フ解釋ヲスルカ何ウテアルト云フ質疑モアリマシタ所カ時ニ依リ講習員  
カ又誤解ヲ傳ヘタト云フ事カアルヤウニ見受ケマスカ段々諸君カ今度ノ會合ニ於テ十分此ノ解釋ヲ會得  
セラレテ御歸任ニ成ツタナラハ曩ニ會合シタ警務課長モ又講習員モアルノテアリマスカ是等ノ人カ相  
寄り十分熱議セラレタナラハ恐ラク各地方トモ大シタ狂ヒヲ生セスニ統一ヲ期スル事カ出來ヤウト考ヘ  
ルノテアリマストウカ其ノ御心得ヲ以テ今度ノ會合ヲ期シテ十分ニ御研究アラントヲ希望シマス

警務課長會議及總務課長會議ニ於ケル臨時臺灣戶口調査部主事祝辰巳ノ演說

只今民政長官閣下ノ御話ノアリマシタ通ニ本年十月一日ニ於テ行ハルヘキ戶口調査事務ニ就テハ極メテ  
重要ナル關係ヲ有テ居ラレマス警務課長諸君ノ會議ノ席ニ於キマシテ戶口調査事務ニ關スル大體ノ事  
ニ就テ説明ヲ致スヘキ命ヲ受ケマシテ爰ニ一通ヲ申上ケルノテアリマス

此ノ事ニ就テハ明ニ規定モ發布ニ成ツテ居リ又先般廳長會議モ開カレ廳長諸君ニ對シテ夫々御訓示ノ次  
第モアリシ故廳長諸君ヨリ御聞キニ成ツテ居ルコトモアリ既ニ夫々御研究ニ成ツテ居ル事テ此處テ申  
上ケル事ハ或ハ既ニ御承知ノ事カ多イノテアラウト思ヒマスカ大要ヲ纏メテ之ヲ一貫シテ申上ケマス  
此ノ度ノ國勢調査ハ戶口調査ト云フ文字ヲ用キテ居リマスカ此ノ戶口調査ハ調ヘル實際ノ點ニ於テハ所  
謂純然タル國勢調査テアリマス併シ國勢調査ト云フ文字ヲ用ウルトキハ左ナキタニ猜疑ノ念ニ深キ本島  
人ニ於テハ文字ノ大ナルカ爲ニ種々ノ事ヲ附會シテ流言ヲ放チ調査ノ實行ニ阻害ヲ來ス虞アリト認メタ

祝主事  
ノ演說

ノテアリマス今日既ニ流言モ起ツテ居ル勿論斯ノ如キ事ノ起ラウトハ兼テ豫期シテ居タル事ニシテ調査ニ於ケル實際ノ結果タニ正確ヲ得ルナラハ文字ノ如キハ如何ニテモ宜イ寧ロ本島人ニ耳馴レタル戸口調査ト云フ名稱カ宜シカラウト云フ事カラシテ戸口調査ト云フ標榜ヲ掲ケテ之ヲ行フ事ニ規則モ發布ニ成ツテ居リマスカ調査スヘキ事柄ハ前申ス通純然タル國勢調査テアリマス

サテ國勢調査トハ如何ナル事カト申スニ御承知ノ通或一定ノ時期ヲ限リテ現在人口ノ天然上及社會上ノ組立ヲ調ヘ其時ノ人口ノ状態ヲ明ニスルト云フノカ即チ國勢調査テアルテ夫ハ何ノ爲ニスルカト云フト單ニ或時期ノ人口ノ状態ヲ調ヘ上ケルト云フノミテナイ本島ニ於テハ此ノ度初テ實行セラレルノテアルカ今後ハ一定ノ時期ヲ以テ即チ五年置キ又ハ十年置キニ實行セラレルノテ本年ハ其ノ初期ノ調査ヲシテ次期ノ調査ヲシタ時ニ前期ノ調ヘト比較シテ結果ニ因リ人口ノ組立ハ斯ノ如ク社會上ノ關係ハ斯ノ如ク變化シテ來テ居ルト云フコトヲ明ニシ行政上或ハ學問上ノ斷定ヲ下タシ變化ノ起ツタ原因及有様ニ就テ夫ハ斯ウ云フコトヲ爲ナケレハナラヌト云フ其ノ土臺ヲ極メルノテアリマス詰マリ國勢調査ナルモノハ我國ニ於テ今迄斯ノ如キコトヲ全國ニ對シテ行ハレタ事ハ無イノテアルカ外國ニ於テハ殆ト普通ノ行政事務ト致シマシテ何レノ國ニ於テモ三年置キ五年置キ或ハ十年置キニ殆ト普通ノ事務トシテ行ハレテ居ル事テアリマス歐羅巴各國ハ重ニ五箇年毎ニ實行スルト云フヤウナ風ニ成ツテ居ル亞米利加ニ於テハ開國以來十年毎ニ實行シ居ルト云フコトニ成ツテ居リマス夫レテ之ヲ平易ニ申上ケレハ詰マリ人口ニ對スル決算テアル或時期ヲ限リテ決算シテ見レハ人口カ幾人アツテ之ヲ男女ニ區別スレハ何ウナル家族ノ關係ハ何ウナルト云フ人口全體ノ決算テアル金錢上ノ決算ト云フ事ハ政府ニ於テモ又ハ民間ニ於テモ年々一回又ハ二回宛決算ヲ立テ居ル併シ人口ノ決算ナル國勢調査ハ頗ル煩雜ナル事ニシテ時日モ要シ人手モ要シ金モ要スル事テアリマス御聞キ及ヒニモ成ツテ居リマシヨウカ亞米利加ニ於ケル菲律賓ノ如キハ領有後未タ數年ナラスシテ早ク既ニ一昨年國勢調査ヲ行ヒ今日ハ既ニ其ノ結果ヲ世上ニ發表シテ居ル事ニ迄進ムテ居ルト云フ有様テコサイマス先刻長官閣下ヨリ御話モコサイマシタ通國ノ施政ノ基礎トナルヘキ人籍ト地籍トノ其ノ一ナル人籍ノ調査タル國勢調査カ我カ國ニ於テ今日迄行ハレヌシテ居ツタコトハ洵ニ不思議ナル事テアリマス帝國ニ於テハ御承知ノ通明治三十五年ノ法律ニ依テ本年十月一日ニ實行セラルルコトニ成リマシテ是カ爲ニ三四百萬圓ノ經費ヲ要シ準備モ出來テ居リマシタカ時局ノ關係ヨリシ

テ内地ニ於テハ延期ニナリマシタ臺灣ニ於テハ長官閣下ヨリ御説明ノ通本年行ハルルト云フコトニ極ツタノテアリマス然ルニ之ヲ一寸考ヘマスト云フト何モ左程ニ大業ニ殊ニ莫大ナル經費ヲ使ツテ之ヲ實行スル必要モナイカノ如クニモ見エマスケレトモ併シ臺灣ノ人口調査ハ最必要ニシテ今日ニ於テ是非之ヲ實行セネハナラヌ時期ト認メラレテ居ルノテアリマス從來臺灣ノ人口統計ノ如キ例之ハ明治三十七年十二月末日ノ現在トシテ統計報告ニ掲載シテアリマスカ是カ果シテ十二月末日ノ現在ナルヤト云フニ文字ニハ然ウ書カレテアルカ其ノ實十月トカ或ハ十一月トカニ調ヘタモノヲ帳簿ノ上カラシテ十二月末日ノ調ト爲シテ掲ケテアルノテ十二月末日實際ノ人口ヲ示シテ居ルノテナイノテアリマス又統計ノ數字ノ上カラ見ルト臺灣ノ人口ハ増加ノ數カ甚低イ比例ヲ示シテ居ル是ハ果シテ事實ナルヤ否ヤ甚疑ハシキ譯テアリマス併シ今日ハ此ノ如キ不正確ナル調査ヲ以テ是ニ因テ諸般ノ行政ノ方針ナリ標準ナリ其ノ他ノ土臺トシテ方針ヲ立テテ居ルノテアル痛切ニ之ヲ評スルトキハ當局者自ラ欺イテ居ルノ甚シキモノテアル夫カラ内地ニ於ケル國勢調査ハ初ハ五箇年目ニ行ヒ其ノ次ハ十箇年目ニ行フコトテアリマスカ本島ニ於テ本年實行サレルト此ノ後五箇年目ト其ノ次期ノ十箇年目ト即チ第一期第二期第三期ト比較シテ斯ノ如キ變遷ヲ生シタリト云フ事ヲ知ルコトカ出來ル元支那ノ民族カ日本政府ノ施政ノ下ニ在ツテ如何ナル變遷ヲ來シタカ始テ明瞭ニ統計上ノ數字ニ表ハレテ參ルノテアリマス此ノ事ハ日本帝國ノ新領土ニ對スル施政ノ上ニ於キマシテ非常ナル重要ノ意味ヲ有スル結果ヲ生スル事テアリマス即チ支那ノ民族カ日本政府ノ下ニ治メラレル結果カ始テ判然ト分ツテ往クノテアリマス斯ノ如キ重要ナル事テアリマシテ總督府ニ於テ段々此ノ事業ノ實行上ニ苦心セラレ準備サレテ參ツタコトテコサイマシタ或ハ統計講習生ヲ東京迄派遣セラレ其ノ後年々統計講習會ヲ臺北ニ開イテ一般ニ統計ノ進歩ヲ計ルト共ニ國勢調査ニ關スル智識ノ普及ヲ計リ其ノ職ノ人々ヲシテ統計ノ練習ヲセシメラレ警官練習所ニ於テハ科目ニ加ヘテ練習シ又近クハ花房統計局長ノ來臺ヲ請ヒ本島ノ實況ヲ調査シテ當局者ニ意見ヲ與ヘラレ又其ノ後統計主任ノ人ヲ召集シテ規則ヲ講習シ又特ニ廳長モ召集セラレ又此ノ度ハ諸君ヲ召集セラレタノテアリマス其ノ外種々總督府トシテハ準備ノ手段ヲ執ラレ此ノ事業ヲ全カラシムル爲ニ出來得ルタケノ手段ヲ執リ來ツテ居ラルル次第テアリマス

夫テ此ノ調査スヘキモノ竝此ノ調査スヘキ事柄ニ就テハ既ニ所帶票ヲ御覽ニ成リ御研究ニ成ツタ諸君ニ

申上ケル必要ハナイカ要スルニ此ノ調査スヘキモノハ十月一日ノ午前零時ニ於ケル現在ノ人口ヲ調ヘルト云フ主意ニシテ從來ノ戸口調査簿ヲ基トシテ此ノ期日ニ調ヘルテアリマスカ此ノ戸口調査簿ハ住居ヲ有シテ居ル人口即チ現住人口ト云フモノハ此ノ戸口調査簿ニ調ヘ上ツテ居ルノテアルカ其ノ上國勢調査上カラ調ヘ上ケルニハ住居ヲ有シテ居ラストモ一夜泊リノ客ニテモ内地人外國人ニテモ兎ニ角十月一日午前零時ニ所帯ニ在ツタ人間ハ漏ス事ナク總テ調ヘ上ケルト云フコトニ成ツテ居リマス其ノ人間ニ就テ何ヲ調ヘルカト云フ事ハ所帯票ニアリマス通氏名トカ種族トカ男女ノ別生年月職業テアルトカ一カラ二十三迄ニ區別シテアルカ其ノ内十七箇條ハ十月一日ノ零時ノ現在人口ノ總テニ就テ調ヘ上ケルノテアリマス夫カラ臺灣ノ土人ニ限リテ調ヘルコトハ其ノ外ニ阿片吸食癮足ヲ加ヘ十九箇條ハ臺灣土人ニ就テ調ヘ内地人ニ就テハ十七箇條ノ外ニ渡臺ノ年ト出生地ト原籍トノ三箇條ヲ調ヘ外國人ニ於テハ十八箇條ヲ調ヘルト云フ事ニ成ツテ居ルカ此ノ事ニ就テハ詳シク申上ケストモ御承知ニ成ツテ居ル事ト存シマス夫テ此ノ調査ノ方法テアリマスカ調査ノ方法竝調査ノ機關カ外國杯ニ行ハレテ居ル國勢調査ト臺灣ニ於テ行ハルヘキ戸口調査トノ間ニハ相違カアリマス夫ハ臺灣ハ特種ノ關係アル上カラシテ斯ノ如クシナケレハ臺灣ノ今日ノ場合ニ於テハ十分國勢調査ノ目的ヲ達シ得ラレナイテアラウト云フ事カラ段々ニ研究シテ斯ウ云フ工合ニ成ツタノテアリマスカ各國ニ於ケル調査ノ方法ヲ申シマスト一ハ獨逸流義テ一人一人ニ票ヲ配布シテ置イテ夫ニ書込マセル例之ハ一所帯五人ノモノナレハ五枚ノ單名票ニ別々ニ書込ムノカ獨逸流義テアル所カ臺灣ニ於テハ一所帯一票ニ調ヘ上ケテ往ク方法ニ成ツテ居ル此ノ方法ハ近來英米各國ニ普通ニ行ハレテ居ルノテ所帯票ノ方カ調ヘル上ニ於テ便利テアリマス單名票ノ方カ調ヘ惡イ其ノ代リニ單名票ハ集計スル上ニ於テハ便宜カアルト云フ事テアルカ普通此ノ所帯票ヨリ調ヘ上ケルノカ各國共通シテ居ル方法テアリマス夫テ其ノ所帯票ニ記入シタモノヲ更ニ要計表ニ舉ケルノカ普通ノ方法組織テアリマス夫カラ其ノ所帯票ニ記入スルニ豫メ其ノ票ヲ調ヘル當日以前以テ各戸ニ配布シテ置イテ向フテ書込マセルモアリ又調査委員カ取纏メニ往ツテ其ノ時分ニ書込シテ來ル方法モアル然ウテナケレハ其ノ當日票ヲ持テ往ツテ一人一人ニ就テ書込ム方法モアルノテコサイマスカ夫レラノ事ハ多クノ調査委員監督委員ト云フモノテ歐羅巴アタリニ於テハ能ク行ハレテ居リマスカ此ノ臺灣ニ於テハ是レニ從事セシメ得ルモノハ官吏ノ外ニハナイノテアルカ歐羅巴杯ニ於テハ何人モ廣ク此ノ仕事ニ對シテ從事シ苟モ其

ノ國ニ現在シテ居ルモノハ獨リ自國ノ人ハカリテナク外國人モ互ニ進ンテ國勢調査委員トナリ監督委員トナリテ是レニ從事シテ取纏メルト云フ事ニ成ツテ居ルノテコサイマス夫テ是レハ申ス迄モナク非常ニ人手ヲ多ク要スルノテ到底官吏一部ノモノテハ調査スルコトハ無理ナノテアリマス夫故ニ臺灣ニ於テハ實施ハ十月一日午前零時ノ事ナレトモ其ノ後三日間ヲ調査期間トシテ許シテアル組織ニ成ツテ居リマス夫ハ止ムヲ得スシテ此ノ組織ヲ採リタルノテ成ルヘクハ同日ノ中ニ早ク調ヘ上ケテ了フ主意テアリテ一時間ナリ二時間ナリ經テハ經ツホト間違ヒラ生シ易イノテ其ノ日ノ中ニ調ヘ上ケテ了フノヲ良トスルノテアリマスカ臺灣ノ戸口調査ニ於テ十分ナルコトヲ謂ハシムレハ全島ニ七千人内外ノ調査委員監督委員ヲ使用スルニ止マラス此ノ四倍五倍ヲ用キタイノテアリマス併シナカラ其レ丈ケノ人ヲ用キテ調査ヲスルコトハ臺灣ノ事情カ許サヌノテ餘儀ナク官吏部内丈ケニ限リテ從事セシムル事ニシテ其ノ調査ヲ纏メルノヲ三日以内ト極メラレタノテアリマス然ウイフ譯テアリマスカラ將來臺灣ノ人カ進歩シテ參リマシナラハ今日行ヒマス人員ニ限ラス一般人民ニ廣ク從事セシムルト云フ事ニ成ルノテアリマス本年ハ歐羅巴ノ組織ニ依ル譯ニ往カスト云フノテ官吏部内ノモノ丈ケニ限リテ從事セシメラレル事ニ成ツタノテアル一體是ハ然ウイフ譯テアリマスカラ國勢調査ニ當ル事ハ其ノ調査ノ當日所帯票ナリ單名票ナリニ向フニテ書込マシムルカコトヲニテ書込ムカ或ハ其ノ日ニ往ツテ遣ルト云フノカ普通ノ方法テアリマスカ其レヲ本島ニ於テハ適當ナル調査ヲ成シ得ル丈ケノ人ヲ十分ニ得ラレス僅ニ得ラレルノハ七千人八千人ノ人テアリマス而シテ其ノ人ノ中言語ニ通シテ居ル人カ幾人アリマセウカ警察官ニ籍ヲ列シテ居ル方ハ別段テアルカ其ノ以外ニ於テ土語ニ通シテ居ル人ハ十人一人カ二人シカナイト云フ譯テアル夫故ニ本島ノ戸口調査ハ格別ノ方法ニ由リ調査ヲ仕遂ケル事ニナリマシタ曩ニ水科技師花房統計局長カ實際ヲ視察サレタノモ之レカ爲テアリマス夫テ從來ノ戸口調査簿ヲ土臺トシテ此ノ戸口調査簿ヲ持ツテ往ツテ突合セテ調査シ之レヲ土臺トシテ行フノテアルカラ是レナラハ多少言語ニ不十分ナル調査員ヲ以テスルモ大イニ調査シ易イト云フ事ニナリ即チ此ノ戸口調査簿ヲ以テ十月一日零時ノ所帯ニ於ケル事實ヲ突合セテ調査シ其ノ後七日間ニ所帯票ニ寫シ取リテ取纏メヲスルト云フ手續キニ定メラレタノテアリマシテ是レハ特種ノ方法テ恐ラク何レノ國ニ於テモ斯ノ如キ方法ニ依リテ國勢調査ノ行ハレタ所ハ無イ本島ニ於テモ此ノ次ニ行ハルヘキ國勢調査ハ此ノ如キ方法ヲ再スルヤ否ヤハ問題テアリマス又本年ノ國勢調査カ警

察ノ戸口調査簿ニ依リテ實行セラルルヤウニ内定セラレタルカ爲昨年十一月ニ必要ナル簡條ヲ追加セラレ又其ノ後モ追加セラルルコトナリマシテ今ハ警察ノ戸口調査ノ調ト所帶票ニ掲ケテアル事項トハ殆ト全ク一致セシメ唯一ハ現住人口調テアリ一ハ現在人口ノ調テアルト云フ相違ノミニナツテ來テ居リマス是ニ由テ調査スルノテアリマシテ此ノ方法ヲ以テスレハ今日臺灣ノ不十分ナル人ヲ以テシテモ其ノ結果ニ至リテハ各國ニ行ハレタル國勢調査ノ結果ト相讓ラス所ノ十分ナルモノカ出來ヤウト云フ事カラシテ斯ノ如キ方法ヲ本島ニ用キラレルヤウニ成ツタ次第テコサイマス夫故ニ本島ノ戸口調査ヲ行ヒマシムニ於テハ戸口調査簿ノ整理カ非常ナル關係ヲ有テ居リマス段々記入ノ手續ニ就テナリ整理ノ事ニ就テナリ御承知ノ通りニ訓令モ出テ居リ通達モ往ツテ居リ是レニ就テ警察本署ニ於カレテモ非常ニ力ヲ用キテ此ノ事ノ整理ニ八ケマンク言ツテ居ラルル事ハ右申ス關係カラ致スノテアリマスカラシテ同日調査ノ行ハレマス迄ノ間ニ戸口調査簿ノ整理ト云フモノヲ十分ニ特別ニ御配慮ヲ要スル事ハ斯ノ如キ順序ニ成ツテ居ルカラテコサイマス

夫カラ又此ノ臺灣ニ於キマシテ今ノ調査委員ナリ監督委員ナリヲ官吏丈ケニ限ツタト云フノハ戸口調査簿ヲ土臺ニ採リタルカ爲ニテ一般人民ニ此ノ戸口調査簿ヲ見セルト云フ事ハ不都合ナル故ニ斯ノ如キ組織ニ成ツタ譯テアリマス夫テ段々調査委員監督委員杯ノ割振リニ就キマシテ既ニ各廳カラ御提出ニナリマシタモノヲ拜見致シマスト隨分地方ニ依リマシテ困難ナ所モ有ル様ニ思ハレマス是レハ他日臺灣一般ノ進歩ニ從ツテ好都合ニ成リマセウカ本年丈ケハ致シ方ナイノテコサイマス先ツ斯ヤウナル仕事ニ成ツテ居リマスノテ本年行ハレマス國勢調査ヲ十分ニ豫定通ノ結果ヲ收メ得ルヤ否ヤト云フニ至ツテハ今申上ケル戸口調査簿ノ整理ト云フノカ第一ノ關係テコサイマス

其ノ次ハ段々發布ニ成リマシタ所帶票記入心得トカ調査委員心得、監督委員心得、調査事務取扱規程及検査ノ手續等ハ御承知ノ通發布ニ成ツテ居ル事テアリマスカ是等ノ事ハ調査ニ臨ムテ調査委員ナリ監督委員ナリノ頭ニ誤解ノナイヤウニシ殊ニ所帶票記入心得ノ如キハ調査委員監督委員共ニ解釋ヲ區々ニスル事ナク七千人八千人ノ頭カ總テ一ツニ成ツテ記入心得ノ解釋ヲシテ其ノ間ニ銘々意見ヲ異ニスルコトノナイヤウニセネハナラヌ苟モ此ノ調査ヲ十分ニ統一ヲ保ツテ往クニ就テハ之カ殊ニ困難ナル事テアリマス故ニ種々之ヲ練習致シテ見マスニ矢張り人々ニ依リ解釋ヲ異ニスル點カアルノテアリマス併シナ

カラ是レハ避ケ得ラレヌ事テナイ是非此ノ解釋ヲ異ニスルト云フコトヲ今日排除シテ置カネハ完全ナル結果ハ得難イ若甲ト乙ト異ナツタ解釋ヲ以テ所帶票ニ記入スルナラハ夫ヲ集計スル上ニ於テ誤リヲ生スルノテアリマス若然ウイフ誤解ニ基イテ調査セラレタルモノヲ集計シテ此ノ度ノ調査ノ結果ヲ誤リマシナラハ單ニ此ノ度ノ調査ノ缺點ハカリニ止マラス未來永劫ニ涉リ統計上比較研究ノ基ヲ誤マルト云フコトニ至ルノテ獨リ此ノ度ノ誤リハ此ノ度ヲ濟マスシテ歴史ノアラム限り誤リヲ貽ス基トナリ容易ナラヌ事テアリマス又是ハ唯、日本ハカリテナク世界各國ノ研究ノ材料ニ關係ヲ及ホシ廣ク大ナル誤リトナル譯テアリマスカラ此ノ解釋ヲ同一ニシテ實行スルヤウニ爲ナケレハナリマセヌ之カ爲ニ御同様此ノ仕事ニ從事スルモノハ全力ヲ盡シテ此ノ誤リヲ避ケルヤウニ努メネハナリマセヌ現ニ亞米利加杯ニ於テ行ハレマシタ國勢調査ニ於テ解釋ヲ異ニシタル爲ニ折角大金ヲ投シテ行ヒマシテモ斯ヤウナル缺點アリシ爲大ナル誤謬ヲ生シ遂ニ何ニモナラスシテ非常ナル失敗ニ了ツタ實例モアリマス殊ニ本島ニ於テハ此ノ度始メテ行ハルル國勢調査テアツテ調査スル機關ハ十分テナク調査ヲ受クル人民ハ歐米ニ比シテ文明ノ程度低キ人民テアリ流言ニ惑ハサレ事實ヲ隱蔽シ猜疑心ニ富ムタル人民ヲ相手ニシテスルコトナレハ本島ノ戸口調査ハ餘程ノ困難ヲ前ニ控ヘテ居ル次第テコサイマス

其ノ次ニ調査ヲ完ウスルニ就テ必要ナルハ人民ニ接シテ戸口調査簿ヲ以テ突合セテスル時ニ兎角隱シタル其ノ隱サレタ事實ヲ誤リテ所帶票ニ記入カ出來タトスルト前ニ申シタル調査ニ對シ十分ノ準備モ整ヒ解釋ノ統一モ保テタ所テ人民ニ嘘偽ノ陳述カアルト云フト夫レカ爲ニ誤ツタ結果カ出來ルノテアリマスカラ成ル可ク人民ニ嘘偽ノ陳述ナカラシムル事ハ最必要ナル事柄テアリマス就テハ此ノ嘘偽ノ陳述ノナイヤウニ前以テ理屈ノ解ル者ニハ戸口調査ト云フコトハ斯ノ如キ事テ民間ニテ噂ヲスルヤウニ徵兵ノ材料トカ或ハ稅ヲ課スル爲ノ材料ニスルトカ種々ナル浮言ノ行ハレテ居ルノヲ然ウ云フ誤解ノ起ラサルヤウニシ又其ノ誤解ヲ解イテ置クコトハ極メテ必要ナル事柄テアル夫レヲノ點ニ向ツテハ直接ニ諸君ノ御配慮ニ依リテ虛偽ノ陳述ナキヤウニ御盡力ヲ請ヒタイノテアリマス夫テ此ノ段々各廳トモニ夫々御準備ニ成ツテ居ラレ既ニ調査區テアリ監督區テアルト云フ様ナモノノ御計畫ヲ拜見致シテ居リ又夫ニ當テリ月末迄ニハ辭令書ヲモ交付スル御運ヒニ成ツテ居ルノテアリマス其ノ調査委員ナリ監督委員ナリノ御



選定ニハ隨分御困難テアツタコトハ拜聽致シテ居ル總テ是等ノ事ハ總督府ヨリ内訓モ出テ居リ今日ハ解ツテ居ルト思ヒマスカ未タ何分ニモ國勢調査ト云フ大體ノ事柄カ一般ノ人ノ頭ニ這入ツテ居ラヌカ爲ニ調査委員監督委員ノ選任ヲ避ケルト云フ事ハ遺憾ナル事テコサイマス是レハ成ルヘク然ウ云フ事ナク一ノ名譽ノ仕事テアル又此ノ度ノ調査ニ關係シタル者ハ生涯ニ於テ履歷ノ一箇條ヲ加ヘル事柄テアルト云フ事ヲ知ラシメテ互ニ進ムテ從事スルト云フ事ニ致シタイモノト考ヘテ居リマス此ノ本月末日迄ニ夫々辭令カ交付サレテ監督委員調査委員モ決定ニ成ル事テコサイマセウカ解釋ノ統一ヲ計ル爲ニ八月十五日迄ニ監督委員ノ訓練指導ヲ爲シ又九月十五日迄ニ調査委員ノ訓練指導ヲセネハナラヌ事ニ成ツテ居リマス此ノ事ハ委員長タル廳長ヲ補佐サレマスル位地ニ立テ居ラルル諸君ノ仕事トシテ最重要ナル一ツノ仕事テアリマス此ノ訓練指導ヲ十分ニ行キ涉ラセテ參リマスコトハ即チ此ノ解釋ノ統一ヲ保ツト保チ得サルトノ分カルル所テアリマス故ニ是レニ御注意アツテ全體ニ解釋ノ統一ヲ保ツヤウニ致シタイト思ヒマス尙前ニ申上ケタル人民カ嘘偽ノ陳述ヲ爲シテ事實ノ答ヲ避ケルト云フ事ハ調査ニ往ク人カ權柄ツクテ無暗ニ普通日本人カ土人ニ對シテスルカ如キ舉動ヲシテ傲慢ナル態度ヲ以テ調査ニ臨ムニ於テハ大イニ感情ヲ害シ夫カ爲ニ眞實ヲ告クヘキ事柄ヲ殊更ニ偽リヲ以テスルト云フコトハ間々有リウチノ事テアル故ニ成ルヘク調査委員トシテ取ル所ノ必要ナル態度ヲ以テシ徒ニ人民ノ感情ヲ害セヌヤウニ致シタイノテアリマス是レハ特ニ監督委員調査委員ノ練習ノ折リニ諸君ニ御注意ヲ願ツテ置ク一箇條テアリマス又調査委員ノ問ニ對シテ答ヲ避ケテ事實ヲ隱蔽シタリスルコトニ就テハ規則ノ上ニハ罰金ノ例カ出テ居リマスカ夫カ有ルカラト云ウテ直ニ罰則ヲ適用シテ罰金ヲ徵スルノカ目的テナイ夫ニ依テ事實ヲ陳述サセヤウト云フノカ目的テアルカラ出來得ル限リ成ルヘク罰則ヲ適用スルコトナイヤウニセネハナラヌノテアリマス然ウ云フ嘘偽ヲ避ケテ事實ヲ得ルノカ目的テアリマスカラ若答フルニ無實ノ言ヲ以テスレハ罰金ニ處セラレルカラト言フコトヲ戒告シテ其ノ實ヲ吐カシムル様ニ致シ實際ニ於テハ罰金ニ處スルト云フ事ナク事實ヲ得ル事ニ努ムルヤウ豫メ諸君ニ御含ミテ願ツテ置キタイノテアリマス右申上ケマシタヤウナ方法ニ依リ準備シ調査委員、監督委員及監督補助委員等ノ機關ヲ用キマシテ十月一日ノ當日ニ調査ヲ行ヒマスノテアルカ當日調査ヲ行ヒマシテ御承知ノ通其レヲ七日以内ニ所帶票、要計表ニ記入致シ調査委員ヨリ監督委員ニ提出シ監督委員ニ於テ其レヲ取纏メテ本部ニ提出スルノテアル

戶口調査規則講習會

七

戶口調査諸規則講習會 明治三十八年五月各廳ヨリ各二名各醫院税關及監獄ヨリ各一名ノ吏員ヲ召集シテ臨時戶口調査ニ關スル訓練ノ講習ヲ爲サシム蓋シ國勢調査ノ統一

先刻長官閣下ヨリ御話ノコサイマシタ通是ハ調査委員ヨリ監督委員ニ提出シ監督委員カラ廳長ニ出シテ廳長カラ本部ニ提出スルノカ普通ノ順序テアリマスカ其ノ順序ヲ省イテ調査委員ヨリ監督委員ニ出シ監督委員ヨリ委員長ヲ經テ本部ニ提出スル順序ニ成ツテ居リマス斯様ナル變例ニ依リマスノハ敏速ニ目的ヲ達セシメヤウト云フ事カラ起リマシタノテ普通ノ行政系統ノ上カラ見ルト違ツタ順序ヲ採ラレタ次第テアリマス

夫カラ之ヲ本部ニ集メマシタ所テ所帶票カラシテ本部ニ於テ單名票ト申スヤウナモノニ書込ミ之ヲ集計スル順序ニ成ツテ居ル此ノ集計ト云フハ誠ニ專門ノ技術テアリマス

今日中央集計ノ方法ニ依ル事ハ各國ニ於テ其ノ例モコサイマスノテ臺灣ニ於テモ其ノ方法ニ依ツタ譯テアリマス夫カラ其ノ中央集計ノ方法ニ依リ中央ニ於テ調査シ不審ノ事カアレハ主トシテ監督補助委員ニ調ヘサセル即チ派出所ノ巡查ヲ監督補助委員ニシ監督補助委員ハ巡查ニ限ルト致シマシタノハ後日誤謬ヲ發見シ訂正ヲ求メル時ノ便宜上巡查ニ限ルト云フ事ニ致シタ譯テコサイマス

夫レカラ尙一ツハ戶口調査ニ從事スル人ニハ總テ徽章ヲ下ケサセ夫レテ以テ調査スルヤウニ爲タイト云フ考ヲ有チマシテ其ノ計畫カ進ムテ居リマス是ハ遠カラス發表ニナリ徽章カ出來マスルト配布スル事テコサイマス

先ツ申上クヘキ大體ノ事ハ略々悉シタル積リテコサイマスカ尙各心得テアルトカ規定テアルトカ云フコトハ更ニ又追々御議リ致ス事テアリマス要スルニ事業ノ大體ニ於ケル仕組ト云フハ斯ヤウナル事テアリマス尙此ノ事業ハ極メテ困難ナル事テアリマス故此ノ困難ヲ排除シテ目的ヲ達シナケレハナラヌノテアリマス萬一御互ニ盡ス所ニ於テ缺點カコサイマシテ豫定ノ結果ヲ收ムル事カ出來ヌヤウナコトカアレハ其ノ結果ノ及フ所ハ單ニ此ノ度ノ調査ノ缺點ヲ表ハスニ止マラス廣キニ涉ツテ將來ニ迄及ホスト云フ事ニ成リ重大ナル事ニ成ルノテアリマストウカ御同様ノ頭ヲ同一ニシテ有終ノ美ヲ成ス事ヲ努メタイノテアリマス先ツ大體右申上ケタ所テ略々主意ヲ悉シテ居ル次第テコサイマス

講師

ヲ期スルニハ一定ノ訓練ヲ要スルヲ以テナリ  
右統一ヲ期スル爲講師ハ主事水科七三郎ヲシテ一切訓練ノ任ニ當ラシム開會ノ際調査  
部長後藤新平ノ訓示副部長大島久滿次ノ訓告主事祝辰巳ノ演說左ノ如シ

部長ノ訓示

臨時臺灣戸口調査諸規則講習會ニ於ケル臨時臺灣戸口調査部長後藤新平ノ訓示  
此ノ度ノ召集ニ付一言致シマス今回ハ此ノ臺灣ノ戸口調査ノ爲ニ召集致シタル事ニ就テハ此  
ノ度カ初テナクシテ總督府ハ既ニ夫レニ任スル者ヲ導イテ之ヲ指導誘掖ニ著手シテ居ツタノテアル所カ  
愈々本年十月一日ニ之ヲ實行スルコトナリ曩ニ官制カ發布セラレ臨時臺灣戸口調査部長ニハ本官カ任  
セラレ從テ副部長主事等ノ任命カアツタノハ諸君御承知ノ通テアル備此ノ官制ノ系統ヲ立テラレテ本部  
ヲ統轄スルコトハ何ニ因リテ斯様ニナツタカト云フコトニ就テ茲ニ一言スルノ必要アリト考ヘル多クハ  
此ノ戸口調査其ノモノニ就テ十分了解シナケレハナラヌ人ハ了解シテ居ル即チ茲ニ召集ノ諸君ノ多數ノ  
如キハ既ニ講習ヲ經タノテアルカラ其ノ趣旨ヲ十分了解セラレテ居ルニ違ヒナイ併シ斯ノ如キ官制ヲ發  
布シテ此ノ實行ヲ爲サネハナラヌト云フニ至ツタ所以ノ事ハ或ハ十分ニ其ノ意ヲ了セラレテ居ラヌ人モ  
アルテアラウト思フ是レ全ク前古未曾有ノ事業ニ著手スル故ニ官制ヲ或一系統ノ下ニ統一スル必要ヲ認  
メラレタノテアルソコテ通常ノ順序ヲ經テ地方廳ニ在リテハ廳長其ノ他支廳ニ在リテハ支廳長又其ノ以  
下ニ及フト云フヤウナ方法ヲ到底之ヲ敏捷ニ遂行スル事ハ出來ヌソコテ之ヲ一系統ノ下ニ統一ヲシテ  
成ル丈ケ敏捷ヲ期スル方法ヲ講スルト云フ所カラ此ノ官制ヲ立テラレタノテアル故ニ地方ニ就テノ委員  
ナル人ハ廳長ノ選ニ任シ廳長ハ地方戸口調査專任ノ主長トナツテ戸口調査部長ニ直接シ相一致シテ事ヲ  
執リ尋常ノ系統ニ由ツテハ敏捷ノ程度ニ於テ大ナル差ヲ生スルノテアル夫レ故ニ此ノ系統ヲ取り又地方  
調査委員長ハ廳長トシテ此ノ事ニ從フノテナク本部長ニ從屬スル所ノ委員長トシテ此ノ事務ヲ統轄シ而  
シテ監督委員調査委員等ヲ統一シテ此ノ事務ニ從事スルト云フコトニナルヤウナ次第テアル其ノ間ニ於  
テ茲ニ召集セラレタル講習生諸君ハ戸口調査ノ智識ヲ以テ廳長ヲ補佐シテ遺策ナカラシムルヤウ致シタ  
イノテアル是レ其ノ任甚重大ノコトテアリマスカラ能ク疑義ヲ質シテ之ヲ實行スルコトヲ希望シマス  
前日此ノ統計ノ講習ノ時ニ申述ヘタコトカアツタ統計材料ノ記載ト云フモノハ拵ヘタノテハナクシテ實

副部長ノ訓告

際有ルモノヲ其ノ儘ニ記スルノテアツテ丁度金一圓五圓ト云フヲ記入シタノト同シク其ノ人ノ記入シタ  
モノハ札ノ價ト同シク信用セラレテ世ノ中ニ通用スルノテ一ツ二ツ數カ多イカラ是ハ之ニ合セテ置クト  
云フノテナク恰モ紙幣ノ數字ヲ記入スル如クテアルト云フ考ヲ以テ一ヲ一トシテ記入シ夫レカラ成立ツ  
タ統計材料ハ頗ル精確ナルモノニナルノテアルト云フタコトカアル此ノ事ハ移シテ以テ戸口調査ノ所帶  
票記入ニ用ウヘキコトテアルカラ此ノ事ハ獨リ諸君ノミナラス此ノ度從事スヘキ何千人ノ人ニ向ツテモ  
貫徹シナケレハナラヌ夫ハ勿論地方ニ在ツテハ廳長ノ指導カアツテ實行スルニ間違ヒハナイ筈テアルケ  
レトモ之ヲ扶ケ此ノ趣旨ヲ普及サセ敏捷ニ行ハルルコトニスルハ諸君ノ輔佐ノ力ニアル事テアル故ニ十  
分其ノ邊ニ注意セラレタイノテアル又戸口調査ニ從事スルト云フ事柄ハ非常ナル名譽ノ事テアル況ヤ監  
督委員タリ調査區ニ於ケル調査委員タルコトニ於テハ普通ノ補助員タル人ト違ツテ十分名譽ヲ以テ從事  
スヘキ事柄テアルケレトモ左程ニ人カ之ヲ名譽ノ事業テアルト心得ヌモノモアルカラ其ノ邊ニ就テモ十  
分ニ諸君カ之ヲ名譽ノ事業テアル正確ニ記入スヘキ事柄テアルト云フ精神ヲ克ク貫徹スルヤウニシナケ  
レハナラヌ此ノ精神カ透徹セサレハ此ノ事業ノ效果ニ影響ヲ及ホスコトハ少クナイ特別官制カ出テ或統  
一ノ下ニ此ノ運動カ行ハレムトスルニ至ツタコトハ斯ノ如キ譯テアル此ノ精神ヲ皆能ク了解シ特別ニ盡  
力セラレムコトヲ希望シマス若夫實際細目ニ渉ル條項ニ就テハ副部長カラモ本日諸君ニ御話スル筈テア  
ル又祝主事カラモ御話スルコトテアルカラ本官ハ唯、特別官制ヲ設ケテ或統一セル機關ノ下ニ實施スル  
必要アリ地方ニ於ケル委員長ハ廳長之ニ當リ此ノ廳長ヲシテ十分效果ヲ收メシムルハ諸君ノ補佐如何ニ  
在ルノテアル夫故召集シタルノテアルト云フ事ニ外ナラヌ此ノ精神ヲ克ク貫徹スルヤウニ希望致シマス

臨時臺灣戸口調査諸規則講習會ニ於ケル臨時臺灣戸口調査部副部長大島久滿次ノ訓告

私ハ此ノ度臨時臺灣戸口調査部副部長ノ重職ヲ贖シマシテ諸君ト共ニ此ノ名譽アル戸口調査事務ニ從事  
スル事ヲ得マスノハ洵ニ私ノ光榮トスル所テアリマス只今長官閣下ヨリ此ノ臨時臺灣戸口調査部ト云フ  
特別官制ノ布カレマシタ御趣意ニ就テ懇篤ニ御訓示ニ成リマシタ通我々ハ其ノ御趣旨ヲ飽迄服膺シテ此  
ノ名譽アル大事業ヲ完成スルヤウニ諸君ト共ニ責任ヲ有テ居ルモノテアリマス此ノ戸口調査ト申シマス  
ハ普通警察ヲ今日迄行リ來ツテ居ル所ノ戸口調査トハ其ノ内容ニ於テ全ク違ツテ居ルノテアリマシテ即  
チ所謂國勢調査テアルノテアル此ノ國勢調査ヲ實行セララルニ付キマシテハ只今長官閣下ヨリ普通行政

機關ノ系統ニ由ラスシテ特別機關ヲ設立セラレタ事ヲ御訓示ニナリマシタカ是ハ各國ニ於テモ各其ノ國ノ行政組織又ハ國々ノ事情ニ依テ機關ヲ異ニシテ居ルコトハ諸君御承知テアラウト考ヘルノテアリマス  
 カ元來本島ニ於テ下級行政機關トシテハ街庄社長アリ一面ニ警察機關トシテハ保正甲長ト云フモノカアリ若其ノ保正甲長ト云フモノカ十分ノ働キヲ有スルモノテアリマスナラハ此ノ度ノ戸口調査ニ於テハ實ニ有力ニシテ最適當ナル機關テアラウト考ヘルノテアリマス併シナカラ如何セム此ノ街庄社長ナル者竝保正甲長ナル者ハ御承知ノ通未タ之ニ依リテ戸口調査ヲ爲スヘキ知識ノ程度ニ達シテ居リマセヌ是レ亦止ムヲ得ナイ次第本島ニ於テ眞ニ頼ミト致シタイ人間ハ殆ト頼ミニナラヌト云フ現狀テアルノテアリマス夫レ故ニ一般行政官吏ハ勿論學校職員公醫等ヲ舉ケテ此ノ戸口調査ノ任ニ當ルト云フ組織ニセラレタノテアリマシテ所謂街庄社長保正甲長ノ如キハ唯之ヲ補佐スルニ足レハ我々ノ希望ハ十分達シタルモノト思フノテアリマシテ果シテ諸君カ戸口調査ヲスルニ當ツテ之カ補助機關ト爲リ得ルヤ否ヤモ疑ハシイ位テアルス如ク行政官吏並公醫、學校職員等カ一團體トツテ戸口調査ニ從事スルコトテアリマスカラ凡人員ニモ限リアル話テアツテ本島戸口調査委員ノ分擔スル戸數ヲ考ヘテ見ルニ一調査委員ノ負擔戸數カ百戸以内ト云フコトニ成テ居ル獨逸杯ニ於テハ一調査委員ノ負擔區域ノ戸數ハ五十戸以内ト承ツテ居ルス如キ開明ノ國ニ於テスラ五十戸以内ノ負擔區域ヲ以テ調査シテ居ル然ルニ本島ニ於テ百戸以内ト云フコトテアレハ此ノ負擔ハ重イ負擔ト言ハチハナラヌ況ヤ言語不通人情風俗ヲ異ニスル所ニ於テ百戸ヲ一區域トシテ一調査委員カ負擔シテ遺憾ナク此ノ大事業ヲ完成スルコトハ困難ナル事テアルト考ヘマステアルカラ諸君ト共ニ十分奮發シテ斯ノ事ニ從ハナケレハ或ハ長官ノ御希望ニ副フコトカ出來ヌヤウニナリハセヌカト云フ心配ヲ有テ居ル又御承知ノ通此ノ人民ハ兎角浮言流説ヲ傳ヘ易イモノテ今日戸口調査ノ聲ヲ聞イテ是ハ徵兵ノ爲テアルトカ租稅賦課ノ爲テアルトカ種々様々ノ浮說流言ヲ傳ヘテ居ル調査ノ進行スルニ從ヒ益々種々ノ流言カ行ハルルコトハ疑ナイコトテアルスウイフ一面ニ浮說流言ヲ排斥シテ以テ負擔區域ノ戸口調査ヲ完全ニ行フコトハ困難ナルコトテアルト考ヘルノテアリマス要スルニ只今申ス通り街庄社長保正甲長ハ殆ト頼ミニナラヌ機關テアリ又調査委員ノ負擔ハ重イノテアル夫カラ又調査サル所ノ人民カ無智ナル爲戸口調査ノ何物タルヲ知ラサルノミナラス却テ種々ノ浮說流言ヲ放チテ忌避妨害ヲ爲ス事カナイトモ限ラヌノテアリマス凡此ノ三ツノ困難ヲ排斥シテ此ノ大事業ヲ完成

スヘキ任ヲ御同様ニ有テ居ル故ニ我々ハ諸君ト共ニ協力一致シテ一團體ト成ツテ此ノ事務ノ完成ヲ期スル覺悟ヲ要スル次第テアル只今長官閣下カラモ御示シニナリマシタ通此ノ系統一貫ノ組織ヲ以テ戸口調査部ヲ設ケラレ異種ノ行政系統ノ者相集マルカ故ニ平常ノ官等階級ト云フモノモ場合ニ依リ顛倒錯雜スルコトモアラム即チ場合ニ依リ系統ノ違ツタモノカラ監督ヲ受ケル場合モアラム又自分ヨリ官等ノ低キモノカラ監督ヲ受ケテ調査スルコト云フ事モアラウ平生ノ官制及官等階級カラノ地位ヲ以テ見テ若諸君ノ間ニ於テ妙ナ不快ノ感シヲ起サシムルヤウナ事カアツテハ由々敷大事テアラウト考ヘル此ノ一團ト成ツタ混成團體カ事業ニ參加スル以上ハ此ノ事業ハ全ク別物ト考ヘテ平生ノ系統階級ヲ意トセス唯、專心誠意以テ事業完成ヲ期スル覺悟ヲ要スルコトテアルト考ヘル又來ル十月一日ヲ以テ戸口調査ヲ實行セラルト云フコトテアルカラ今日カラ考ヘテ見レハ最早時日切迫シテ居ルノテアリマス是レカラシテ諸君ト共ニ準備ニ著手シ駐ケ足テシナケレハ十月一日ノ間ニ合ハヌト云フ虞モアルニ依リ一日モ忽ニスヘカサル事テアル諸君ハ其ノ御積リテ以テ十分ナル駐ケ足ヲ以テ準備ニ著手セラレムコトヲ希望シマス夫レカラ私ハ職ヲ警察ニ奉シテ居リマスカラ特ニ此ノ講習會ニ出席セラレタル警察出身ノ方ニ申シタイコトカアリマス併シ是ハ必シモ警察出身ノ方ハカリテナク他ノ方モ其ノ事ヲ能ク心得ラレタイ事テアリマス此ノ度ノ戸口調査ハ凡百戸ヲ以テ一調査區トスルコトテアリマス其ノ源ヲ考ヘテ見レハ矢張り百戸ヲ以テ一保トシタ所カラ出來タモノト考ヘラル又此ノ戸口調査ノ準備トシテナシタル所ノ戸口調査簿ハ警察ノ監視區域ニ依テ作ラレテ居ルカラ國勢調査區ハ警察ノ區域ニ依ラチハナラヌコトニ成ツテ來ルテアラウト思ヒマス曩ニ御通達ニ依リ國勢調査ニ必要ナル事項ヲ警察ノ戸口調査ニ加ヘ各廳ニ於テ戸口調査準備トシテ已ニ調査セラレツアルノテアリマス尙此ノ頃決定致シマシタ所帶票記入事項ニ依リテ多少之ニ増加ヲ要スルコトテアラウ何レ其レハ御通達ニ成ルコトテアリマセウカ是ニ依ツテ始テ所帶票記入ノ事項ト警察ノ戸口調査ト合致シタ譯テアリマシテ調査期日マテニハ日夜兼行テ行カナケレハ此ノ準備カ出來ヌ事テアラウト考ヘルノテアリマス此ノ警察ノ戸口調査カ十分ニ出來テ居レハ調査委員カ實地ノ調査ヲ爲ストキニハ殆ト其ノ後ノ異動ヲ調フレハ其レテ總テノ所帶票記入カ出來ルコトトナテ置キマスカ獨リ諸君ハカリテハナク諸君カ御歸任ノ後ニ於テ警察官一同ニ此ノ旨ヲ傳ヘラレ相一致シ

テ此ノ準備ニ付違算ノナイヤウニ希望致シマス尙先刻申ス通愈、戸口調査ノ實行ニ著手スル以上ハ或ハ公醫アリ或ハ學校職員モアリ或ハ税關官吏ノ如キモ調査委員トナリ種々ナル人間ノ混成團體カ出來ルノテアリマスカラ巡査補ナリ保正甲長等ヲ道案内トシテ使用スル必要カアルカラ能ク調査委員ト地方ノ保正甲長等トヲ結ヒ著ケルコトハ警察官ノ責務ヲアルト考ヘル即チ實施前ニ於テ地方ノ調査委員ト地方ノ保正ナリ甲長ナリト十分結ヒ著ケテ往ツテ一ツノ確カナル調査ノ組合ヲ造リ實際調査ノ時ニ臨ムテマコソク事ナク圓滑ニ實行ノ出來ル様ニスルコトハ警察官諸君ノ務メネハナラヌコトアル又一面警察官以外ノ調査委員諸君モ是等保正甲長等ト親密ニ圓滿ノ關係ヲ保チ努メテ此ノ事業ヲ完成セラレムコトヲ希望致スノテアリマストウカ此ノ準備事務カ完全ニ行ハレルヤウ諸君ト共ニ努メタイコトテアリマス聊カ此ニ一言ヲ申述ヘテ諸君ノ注意ヲ望ミマス

祝主事ノ

演說

臨時臺灣戸口調査諸規則講習會ニ於ケル臨時臺灣戸口調査部主事祝辰巳ノ演說

只今民政長官閣下ヨリ御話カコサイマシタ通臺灣ニ於キマシテ空前ノ事業タル戸口調査ニ關シ最重要ナル仕事ヲ分擔セラルル爲今同召集ニナリマシタ諸君ノ前ニ於キマシテ此ノ事業ノ大體ヲ御話申スコトハ私ノ甚榮譽トスル所テコサイマス此ノ仕事ハ戸口調査ト云フ名ヲ標榜致シテ居リマスカ是レハ戸口調査ニアラスシテ其ノ實ハ國勢調査アルト云フコトハ今副部長閣下ヨリ御話ノアツタ通テアリマス國勢調査ノ事柄ハ如何ナル事柄テアルカト云フニ茲ニ召集セラレタ多數ノ方ハ先年以來ノ講習會ニ於テ講習セラレタ方テアラウト存シマス故ニ私ノ申上ル迄ノ必要モコサイマセヌカ講習會ニ御出席ナカツタ方ノ爲ニ一言ヲ約メテ申シマスナラハ本年十月一日午前零時ニ於ケル臺灣ニ現在スル人間ニ付所帶票記載ノ各事項ニ付實際ノ状態ヲ記入シ其ノ事柄ニ就テ調上ルト云フ事テアル言ヲ換ヘテ云ハハ臺灣開關以來ノ人間ニ就テ本年十月一日午前零時ノ状態ニ於テ總決算ヲシテ見ルト云フ事テアル事柄ハ右申上タ様ナ事テモ其ノ内容ハ所謂國勢調査アルノテコサイマス併シ國勢調査ト云フ名詞ハ左ナキタニ流言浮説ニ惑ハサレ易イ本島人ニ於キマシテハ國勢調査ト云フ名詞ヲ用キルトキハ此ノ調査ヲ一層困難ナラシムル事情カアルノテアリマスカラ寧ろ衆人ノ耳慣レタル戸口調査ト名ツケ人民ノ耳ヲ驚カサスシテ效果ヲ擧ケヤウト云フ主義ヲ戸口調査ト云フ名ニ定メラレタ次第テアル故ニ其ノ事柄ニ至ツテハ純粹ノ國勢調査テアルノテアリマス次ニ本年十月一日ニ戸口調査ヲ實施セラルルト云フコトニ成リマシタ經歷ニ就テ一言申

上ケテ置カネハナリマセヌカ是レハ明治三十五年ニ於キマシテ法律カ發布セラレ内地ニ於テハ本年十月一日ニ全國ノ國勢調査ヲ實行セラルルコトニ成ツテ居タコトハ諸君御承知ノ事テアル其ノ當時臺灣ニ於キマシテモ空前ノ大事業タリシ土地調査ト云フコトモ三十七年度ニナレハ完結致マスノテ其ノ翌年即チ本年十月ニ全國ノ國勢調査ヲ施行セラルルノテアルカラ此ノ國勢調査ハ最臺灣ノ經營上極メテ必要テアリマスノテ此ノ事業ハ臺灣モ結ヒ著イテ行フト云フ事ニナリマシタノテアルカ固ヨリ知識ノ程度等調査セラレル人間ハ内地ト異ナリ本島ニ於テ國勢調査カ好結果ヲ得ラレヌカモ知レマセヌカ兎ニ角臺灣モ同時ニ施行スルト云フ事ニ御決定ニナツタノテアリマス然ルニ内地ニ於ケル國勢調査ハ日露事件ノ爲ニ延期セラレタノテコサイマスカ臺灣ニ於テハ前申上ケマス通特ニ必要ヲ認メラレテ本年決行セラルル事ニナツタ次第テアリマス

夫レテ此ノ本年十月一日ニ行ハルル所ノ戸口調査ト云フモノニ對シテ總督府ハ如何ニ重キヲ置カレテ居ルカト云フニ只今長官閣下並副部長閣下ヨリモ大略御話ニナツタコトテアリマスカ總督府ハ此ノ事業ニ對シテハ非常ニ重キヲ置カレテ夫レニ準備ヲ施設シ來ツタノテアリマス其ノ來歴ヲ申シマスレハ三十五年以來總督府ニ於キマシテ人ヲ選拔シ東京ニ於テ開カレタル統計講習會ニ派遣シテ講習セシメラレタコトハ先ツ第一ニ此ノ臺灣ノ戸口調査ノ目的ニ備ヘラレタノテ豫メ今日アルコトヲ期シテ決行セラレタノテアリマス而シテ其ノ講習生カ歸ツテ參リマシテ昨年モ一昨年モ各應ヨリ諸君其ノ他ノ人ヲ召集シテ二回マテ講習會ヲ開カレマシタノモ戸口調査ノ完成ヲ期セムカ爲ニセラレタ一ツテアリマス又昨年十二月戸口調査簿ニ副業ノコト不具ノ種類原籍其ノ他二三ノ事項ニシテ今迄戸口調査簿ニ載ツテ居ラヌコトヲ追加シテ記入セヨト達セラレタコトモ今日戸口調査ノ準備ニ外ナラヌノテアル又モ一ツハ本年ニナリ總督府ヨリ内閣ヘ照會セラレ花房統計局長カ出張ニナリ本島ノ狀況ヲ視察セラレタコトモ此ノ戸口調査ヲ實行セララルル爲テアリマス又先程長官閣下ヨリ御話ノアリマシタ如ク此ノ度戸口調査ノ特設機關ヲ設ケラレマシタト云フ事モ此ノ事業ニ重キヲ置カルルカ爲テアリマス今日諸君ヲ各應ヨリ呼ビ集メラレマシタノモ固ヨリ此ノ爲テアル又諸君カ臺北ニ滞在セラレテ居ル中ニ各廳長ヲ召集セラルルノテアリマスカ是レ亦全ク十月一日ノ戸口調査ノ爲テアリマス今後猶來月學校ノ休業ヲ利用シ夏期ノ講習ヲ兼ネテ職員ヲ召集セラレルコトモ此ノ事アルカ爲テアル斯ノ如ク種々此ノ事業ヲ完カラシメムカ爲準備トシテ計畫

施設セラレタコトハ實ニ一日テナイノテアリマス借テ左程ニ慎重ニ左程ニ重キヲ置カレテ調査セラルヘキ事柄ハ奈何其ノ調査スヘキモノハ何テアルカト云フニ即チ十月一日ニ現存スル人ニ付如何ナル状態テアルカ此ノ所帯票ヲ見レハ分ルヤウニ調ヘルノテアル調査スル事項ハ全體ニ於テ二十三箇條アリ更ニ之ヲ細別シテ見ルトキハ本島人、外國人、内地人ノ三ツニ分チテ見テ此ノ三ツニ共通スル調ヘカ十七箇條アル例之ハ氏名トカ種族トカ男女ノ別、出生ノ年月日トカ云フ様ナ十七箇條丈ケハ總テニ付テ調ヘテハナラヌ夫カラ本島人丈ケニ就テ調ヘネハナラヌ事カ二箇條アル即チ阿片烟吸食者、纏足者ト云フモノ内地人丈ケニ就テ調ヘテハナラヌ事カ三箇條即チ渡臺ノ年月日、原籍、出生地、夫カラ外國人ニ就テ調ヘル事カ一箇條即チ國籍、サウイフヤウナ譯ニ各箇條ニ依テ所帯票ニ記入スル事ニナツテ居ル總計二十三箇條ノ内容ニ於テ本島人ハ十九箇條内地人ハ二十箇條外國人ハ十八箇條ヲ調ヘルトイフ事ニナツテ居ルノテコサイマス

夫レテ此ノ調査ヲ豫定ノ通完ウスルコトカ出來ルヤ否ヤト云フコトニ就テ極メテ必要ナル條件ハ唯一ツテアルト思ヒマス即チ先程長官閣下又副部長閣下ヨリ御話ノアツタ通協同一致ヲ以テスル事テアリマスカ多勢ノ人カ寄集ツテスル仕事ハ極メテ協力カ大切テアルコトハ申ス迄モナイカ此ノ調査ハ單ニ協力ト云フ丈ケテハイケヌ心カ一ニナラナケレハイケヌノテアリマス恐ラク此ノ調査ニ從事スヘキ人ハ總計六千人内外テアリマセウ其ノ六千内外ノ人カ一ツ頭ト爲リ責任ヲ以テ全島六十萬戸ノ人民ニ當ラテハナラヌ是レ最必要ナル事柄テアル此ノ六千ノ人ノ頭ヲ一ツニスル即チ解釋ノ統一ヲ保ツコトカ出來ルヤ否ヤ若夫レカ出來ヌナラハ此ノ戸口調査ノ目的ハ十分ニ達スルコトカ出來ヌト云フ事ニナルノテアリマス是ハ歐米ニ於テモ著々其ノ實例ノアルコトテ國勢調査ニ於ケル諸般ノ組織準備等ハ完全ニ立派ニ整頓シテモ實際ノ調査ヲ行フニ當ツテ調査委員監督委員等カ各別ニナツテ調査ノ一致セサルカ爲折角大金ヲ掛ケテ出來上リタル調査カ甚不完全ニ了リ役ヲ爲サヌト云フコトニ立至ツタ例ハ各國ニ於テ乏カラヌコトテアリマス本島ノ戸口調査カ果シテ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤハ今ノ六千ノ調査委員、監督委員等ノ頭ヲ一ツニスルコトカ出來ルヤ否ヤニ歸スルノテアル而シテ此ノ六千ノ人ノ頭ヲ一ツニセムカ爲ニ諸君ハ茲ニ召集セラレタノテアル又廳長ヲ召集セラルノモ夫レカ爲テアリマス其ノ次ハ調査ノ方法ノ事テアリマスカ是ハ只今副部長閣下カラ御話ノコサイマシタ通臺灣ニ於ケル此ノ度ノ戸口調査ノ方法ハ特種ノ方法テ

アツテ各國ニ其ノ例ノナイ戸口調査簿ヲ土臺ト致シテ豫メ其レヲ完全シタモノニシテ置イテ其ノ當日ニ於テ戸口調査簿ヲ以テ戸ニ當リ實地ノ狀況ト照合シ歸來所帯票ニ書込ムト云フ是レカ臺灣ニ於ケル調査ノ方法テアツテ特種ノ方法テアル申上ケル迄モナク外國ノ國勢調査ハ此ノ所帯票ヲ豫メ各戸ニ配布シテ置イテ記入サセルカ或ハ其ノ時ニ調査員カ往ツテ書込ムカ孰カノ方法ニスルノテ之カ普通ノ順序テアル臺灣ニ於テハ然ウテナイ所帯票ニ書込ムコトハ後ニシテ戸口調査簿ヲ持テ往ツテ調査スルノテアル是ハ副部長カラ御話ノアツタ通言語ニ精通シテ居ル者ハ至少ナク民情風俗ヲ異ニシ調査ヲ爲スニハ甚困難カ多イ此ノ臺灣ノ戸口調査ヲ完全ニ目的ヲ達シ好結果ノ得ムトスルニハ之ヲ歐米ニ於ケル國勢調査トハ趣ヲ異ニシ斯ノ如キ特種ノ方法ヲ以テ爲ナケレハ真正ナル結果ヲ得ラレヌノテアリマス戸口調査簿ノ整否ハ此ノ度ノ調査カ目的ヲ達シ得ルヤ否ニ付テハ大ナル關係ヲ有シテ居ル次第テ此ノ事ハ副部長カラモ御話ノコサイマシタ通戸口調査簿ハ此ノ度ノ調査ノ根本テアリマスカ其ノ局ニ當ツテ居ラルル警察官ノ方ニハ十分御盡力アラムコトヲ切望スルノテアリマス若シ是レカ十分ニ出來テ居リマセヌ時ニハ警察官諸君ノ如キハ言語ニモ通シテ地方ノ状態モ能ク判ツテ居ルカラ宜カラウカ其ノ以外全體ノ人々六千人ノ中ニ半分ハ外人ヲ使ハネハナラヌカラ其ノ人等ノ爲ニハ戸口調査簿カ十分テナカツタ時ニハ調査委員ハ十分責任ヲ盡スコトカ出來難イコトテアリマス故ニ此ノ點ニ付テハ特ニ御注意ヲ希望致シテ置キマス其ノ次ニ申上ケルコトハ調査機關ノ事テアリマスカ是ハ大體長官閣下ヨリ御話ノアリマシタ通ノ事テアリマス

臨時臺灣戸口調査部機關系統

事務ノ敏活ヲ圖ルニ此ノ如キ簡潔ナル系統ヲ立テラレタノテアル

戸口調査評議員會 會長 幹事 書記 評議員 九人

主事 二人 一人ハ庶務課長 一人ハ調査課長 屬

部長

副部長

第一監督區監督委員

監督補助委員

- 第一調查區調查委員
- 第二調查區調查委員
- 第三調查區調查委員
- 第四調查區調查委員
- 第五調查區調查委員

委員	第二監督區監督委員	同上
各一人合計	監督補助委員	同上
二十人各區長	第三監督區監督委員	同上
	監督補助委員	同上
	第四監督區監督委員	同上
	監督補助委員	同上
	第五監督區監督委員	同上
	監督補助委員	同上

(表ノ説明)

中央部ノ機關トシテ部長、副部長、評議員會、主事ヲ設ケラレテ議事機關タル評議員會ハ根本ニ關スル諸規則ヲ議決スルノテアル

庶務課長ハ不肖之ニ任セラレ調査課長ハ水科技師之ニ任セラレマシタ其ノ下ニ屬官カアル

地方ノ機關ハ戶口調査委員長カアリテ各廳長之ニ充タリ其ノ下ニ監督區カアル此ノ監督區ハ此ノ表ニハ五ツテアルケレトモ實際ハ十モ二十モ出來ル其ノ第一區ノ監督委員ハ一人テ監督補助委員(幾人モ出來ル)カ出來ル其ノ下ニ調査委員カ幾人モ出來ルノテアル第二區第三區モ同様テアル

委員長トシテスヘキ事務、監督委員ノスヘキ事務、調査委員ノスヘキ事務ハスヘテ印刷物ニ出來テ居ル要スルニ簡單ナル直屬系統ニ依リテ働クノテアル

諸君カ此ノ練習ヲ了ヘテ御歸任ノ上ハ第一ニ調査區又ハ監督區ヲ定メネハナラヌ是レカ定マツテカラ後夫々調査委員ヲ選定スル此ノ調査委員ニハ可成事情ニ通シタ者テアツテ其ノ調査區ノ近傍ニ住スル者ヲ選ハチハナラヌ夫レカラ事務所ヲ設クル調査委員ヲ訓練スル等當日迄ニナスヘキ色々ノ準備ヲ終ヘテ借調査ヲナシタル後ハ調査委員ハ夫レニヨリテ調査委員ノ要計表ヲ作り監督委員ニ差出ス監督委員ハ區内各調査委員ノ差出シタルモノヲ檢査シテ監督委員要計表ヲ作ル夫カ了レハ委員長ノ處ヲ經過シテ本部ニ差出ス本部ニ於テハ之ヲ集計シテ表ニ作ルノテアル廳ノ集計ヲ省クノハ整理ノ事務ノ敏活ヲ圖ル爲テアツテ本部ニテハ進歩シタル機械ヲ使用シテ熟練ナル者カ之ニ當ルト云フ利益カアル

夫レテ尙茲ニ御集リノ諸君ノ職責ニ就テハトウイフ事テアルカ一言申上ケテ置キタイノテアリマス其

戶口調査事項  
追加

統計局ト協  
商

八

レハ先刻長官閣下ヨリ御話ノアツタ事柄テアリマス第一トシテハ委員長タル廳長ヲ補佐シ廳長ノ計畫スル所並監督ノ責任ヲ全カラシムルノハ先ツ諸君ノ第一ノ義務テアリマス又調査委員其ノ他ノ選定ナリ或ハ調査區ヲ定メ監督區ヲ定ムルコト或ハ調査委員タリ監督委員ト爲ルヘキ人ノ頭ヲ一ツニシ諸規定、所帶票其ノ他訓令セラレタル事ヲ能ク一般ニ通曉セシムルヤウニスルコトハ第二大切ナル事務テアリマス尙其ノ上ニ自分カ監督委員トナラレ監督ノ事務ニ從事セラルル方モアリマセウ又調査委員ト爲ラレテ調査ヲ擔當スルコトニナル方モアリマシヨウ兎ニ角種々ノ事柄ニ就テ諸君ノ力ヲ借ラナケレハ此ノ事業ヲ全カラシムルコトハ出來ヌノテアリマス

斯ノ如キ職責ヲ有テ居ラルル諸君ト他ノ六千ノ人ノ頭トヲ一ツニシテ此ノ度ノ調査ノ仕事ニ當ルノテアル此ノ名譽アル仕事ニ從事スル爲ニ是レヨリ諸君カ規則、手續ヲ明ニスル爲水科技師ハ其ノ指導ノ任ニ當ラルル事ニナツテ居ル諸君ハ此ノ目的ヲ以テ訓練セラレナケレハナラヌ而シテ諸君カ訓練サレタ所ヲ以テ廳長ヲ佐ケ各地方ニ於ケル監督委員ナリ調査委員ナリヲ訓練シナケレハナラヌ要スルニ地方ニ於テハ諸君カ大切ナル指導ノ任ニ當ラレ臺灣ニ於ケル空前ノ大事業タル此ノ戶口調査ヲ完カラシメネハナラヌノテアリマス諸君十分御研究ニナツテ其ノ職責ヲ全ウセラレムコトヲ切望スル次第トコサイマス

九

戶口調査簿ニ調査事項追加 三十七年十一月警務課長會議ノ際既ニ國勢調査ノ調査事項ニシテ戶口調査簿ニナキモノハ追加スヘキコトヲ命シタルモ尙各廳ノ統一ヲ計ルノ必要ヲ認メ三十七年十二月副業以下七項ノ増加ヲ通達シ越テ三十八年六月再ヒ種族以下九種ノ増加ヲ通達シ同時ニ其ノ記入方ハ前後共ニ所帶票記入心得ニ準據スヘキ旨通達セリ蓋シ戶口調査簿ノ整備ハ第一回戶口調査ト最密接ノ關係ヲ有スルニ由ル

統計局ト協商 第一回臺灣戶口調査ノ結果ニハ内地ト共通ノ性質ヲ有スルモノト否サルモノトアリ其ノ共通ノ性質ヲ有スルモノハ可及的同一方針ニ出ツルヲ可トス依リテ三十七年十二月實地調査ニ關スル要項ヲ携ヘ當務者ヲシテ内閣統計局長ニ協議セシム

諭告

十

而シテ同局長ハ翌年二月渡臺シテ實況ヲ觀察シテ更ニ協定ノ步ヲ進メ且同局員ニ囑託  
 ヲ命シ同局員ヲ採用シタル等孰モ準備ノ周密ヲ期セシニ外ナラス

諭告 由來本島人ハ新設ノ事業ニ對シテ或ハ疑懼心ヲ懷キ或ハ想像ヲ逞ウスル等其ノ  
 例ニ乏カラス故ヲ以テ第一回戸口調査ニ關シテモ其ノ誤解ナカラムコトヲ欲シ其ノ實  
 質ニ於テハ疑モナク「センサス」ナルニ其ノ名稱ヲ國勢調査ト言ハスシテ殊更ニ戸口調査  
 ト稱シタルナリ蓋シ國勢調査ト云フカ如キ漠然捕捉シ難キ標榜ヲ掲ケ未曾有ノ事業ヲ  
 成サムトセハ流言浮説ニ惑サレ易キ本島人ニ在リテハ如何ナル調査ヲ施行セラルルヤ  
 モ知ルヘカラスト漫ニ其ノ視聽ヲ聳動シ隱然疑懼ノ念ヲ懷カシムルノミナラス輒チ平  
 地ニ波瀾ヲ起シ爲ニ好果ヲ得ル能ハサルノ虞アルモ戸口調査ト云フトキハ領臺以來久  
 シク耳目ニ慣熟シタル文字ニシテ亦敢テ怪ムモノナシ故ニ極メテ平凡通俗ノ名ニ依リ  
 テ最新最良ナル國勢調査ノ實ヲ得ルニ若カスト爲シ今回ノ調査ニハ特ニ臨時戸口調査  
 ナル名稱ヲ使用セシ所以ナリ加之諸法令發布ノ後明治三十八年八月特ニ諭告ヲ發シ且  
 周知ノ便ヲ計リ漢譯ノ大印刷物縱六尺一寸二分 橫四尺一寸五分五千三百枚ヲ街庄社役場ハ勿論其ノ本他  
 島人ノ群集スル箇所ニ貼附シテ普ク衆庶ニ知ラシメタリ其ノ諭告文左ノ如シ

明治三十八年十月一日ヲ以テ臨時戸口調査ヲ本島ニ施行セムトス其ノ調査ノ事項タルヤ保甲  
 制度ノ戸口調査ニ大差ナシト雖其ノ目的ニ至リテハ大ニ異ナル所アリ抑保甲制度ノ戸口調査  
 ハ盜逃ヲ弭メ奸宄ヲ嚴ニスルニ過キサレノミ這回施行ノ戸口調査ハ一定時ニ於テ中外官民ヲ  
 論セス各人營生ノ情實逐名詳查シ以テ民人ノ狀態ヲ鑒察セムトスルニ在リ蓋シ人口ノ多少其

ノ構成及其ノ發達ヲ攻究セハ則チ國勢民情ノ歸嚮スル所ヲ審ニスルヲ得ヘシ此ニ因テ民人文  
 化ノ度ヲ察スヘク殖産興業ノ改進ヲ徵スヘク公衆利弊ノ伏スル所ヲ討ヌヘク彼我得喪ノ存ス  
 ル所ヲ明ニスヘシ之ヲ要スルニ各般行政ノ基礎タリ社會公衆ノ規準タルモノ之ヲ措テ他ニ求  
 ムヘカラス故ニ泰西各國ニ在リテハ夙ニ此ノ法ヲ適用シ每五年或ハ每十年ニ一查ス其ノ時ニ  
 方リテハ官民協力シ正確ノ調査ヲ遂行スルアリ願フニ本島ニ於テ此ノ種ノ調査ヲ施行スルハ  
 實ニ此ノ次ヲ以テ嚆矢トス而シテ其ノ調査ノ方法ハ吏員ヲ實地ニ派シ各戸ヲ歴訊シ逐名查問  
 セシムルニ在リ故ニ民庶宜シク此ノ意ヲ體シ查問ニ對シテ誠實ノ答言ヲ爲スヘシ若無恥ノ徒  
 本調査ノ何物タルヲ解セス或ハ新稅賦課ノ手段ナリトシ或ハ徵兵ノ準備ナリトシ謠言ヲ捏造  
 シ又ハ民心ヲ煽惑シ或ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ本調査ヲ妨ケムトスルカ如キ者アラハ法ニ照ラ  
 シ懲罰モ寬假セス民庶本調査旨趣ノ在ル所ヲ知悉シテ其ノ實效ヲ收メ以テ國利民福ノ増進  
 ヲ期スルニ努ムヘシ

臺灣總督男爵兒玉

(譯文)

劃切曉諭事照得明治三十八年十月一日擬將臨時調查戸口之法、施行本島、其應查事宜、與保甲之

編查、原無差別、雖然意之所存、迥不相同也、夫編查保甲之制、止爲弭盜逃、嚴奸宄、此次應行之戸口調務  
 者、限定日時、無論中外官民、就各人之營生情形、據實逐名詳查、以鑒民人狀態起見、此乃講求國計民生  
 之良策也、誠恐民間、未知本調務之要旨、無恥之徒、藉端詭傳、即是賦課新稅之手段、或供抽兵之備選、致  
 害全局、爲此亟行諭告、居民各色人等、知悉、爾等須知、由此法一經查明、人口之多少、及其構成發達各情  
 不但得審國勢民情之歸嚮、又可以察民人文化之程度、徵殖産興業之改進、討公衆利弊之隱伏、明彼我  
 得失所存、爲國爲民、裨益良多、總而言之、能爲行政各般之基礎、竝社會衆庶業務之規準者、措之、不待他  
 求也、故夙在泰西各國、按照此法、每五年或十年一查、爲例、當時必賴官民協辦、務期妥善、願本島於此項

調査施行、以此次爲嚆矢、至其查法、委派吏員、隨地挨戶、逐名查問、斷不容虛詞詐言、一經驗告之後、如有捏造謠言、煽惑民心、其餘種種設法、妨礙調務者、定即嚴密查出、照例懲罰、決不寬貸、凡在善良之民、皆當仰體、本調查之至意、藉收實效、以期國利民福之增進、是所厚望焉、切切特諭

右 諭 通 悉

明治三十八年八月二日

戶口調查準備委員及戶口調查評議員

十一 臨時臺灣戶口調查準備委員及戶口調查評議員 臨時戶口調查ニ必要ナル諸立案ハ明治三十八年三月ニ至リ略、完成ヲ告ケタルモ本調査ノ特設機關ニ關シ法制局ト見ル所ヲ異ニシ未タ其ノ組織ヲ見ルニ至ラス爲ニ實質的調査ニ關スル立案ノ公表ニ遲延ヲ來サムコトヲ虞レ同年五月大島警視總長祝財務局長等十名ニ臨時臺灣戶口調查準備委員ヲ命シ先ツ所帶票及同記入心得等ヲ審議セシメ同年五月二十九日臨時臺灣戶口調查部設置ノ後ハ該委員及他ノ職員ニ戶口調查評議員ヲ命シ尙他ノ立案ヲ審議セシメタリ而シテ前後諮詢ノ議案ハ左ノ如シ

議案

- 一 臨時臺灣戶口調查規則(府令案)
  - 二 臨時臺灣戶口調查事務取扱規程訓令案
  - 三 所帶票訓令案
  - 四 所帶票記入心得訓令案
  - 五 監督委員心得訓令案
  - 六 調查委員心得訓令案
- 右諮詢ノ結果確定セシモノ左ノ如シ

臨時臺灣戶口調查規則

臨時臺灣戶口調查規則 (明治三十八年六月 府令第三十九號)

- 第一條 明治三十八年十月一日臨時戶口調查ヲ施行ス但シ同日内ニ完了シ難キトキハ同月三日迄ニ施行スヘシ
- 天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期間ニ施行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ノ止ミタル後直ニ之ヲ施行スヘシ
- 第二條 臨時戶口調查ハ明治三十八年十月一日午前零時ニ於ケル現在者ニ就キ左ノ事項ヲ調査スルモノトス但シ蕃地ニ在ル蕃人ハ之ヲ調査セス
- 一 氏 名
- 二 所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係
- 三 種 族
- 四 男女ノ別
- 五 出生ノ年月日
- 六 緣事上ノ身分
- 七 本業名
- 八 本業ノ地位
- 九 副業名
- 十 副業ノ地位
- 十一 常用語
- 十二 常用以外ノ語
- 十三 讀ミ書キノ程度
- 十四 不具ノ種類(聾啞、盲、白痴及瘋癲ニ限ル)



- 十五 不具ノ原因
  - 十六 阿片煙吸食者
  - 十七 纏足者
  - 十八 出生地(内地人ニ限ル)
  - 十九 原籍(内地人ニ限ル)
  - 二十 國籍(外國人ニ限ル)
  - 二十一 渡臺ノ年(内地人ニ限ル)
  - 二十二 常住地(一時現在者ニ限ル)
- 前項ノ現在者ニアラサルモ常住者ト認ムヘキ者ニ付テハ氏名及男女ノ別ヲ調査シ其ノ所帶主ニ付テハ仍職業名及其ノ地位ヲ調査ス所帶主ニ限リ現在者ナルト現在者ニアラサル常住者ナルトナ問ハス住家ノ有様ヲ調査ス
- 第三條 保正、甲長、街庄社長及其ノ書記ハ臨時戸口調査ニ際シ當該職員ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ補助スヘシ
- 第四條 廳長ハ臨時戸口調査ニ際シ祭典其ノ他衆庶ノ移動ヲ來スヘキ行爲ニシテ調査ヲ阻害スルノ虞アリト認メタルトキハ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 臨時戸口調査ニ際シ調査ヲ忌避シ又ハ其ノ進行ヲ阻害スルノ行爲アリタル者
  - 二 臨時戸口調査ニ關シテ當該職員ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者
  - 三 人ヲ教唆シテ第一號又ハ第二號ノ行爲ヲ爲サシメタル者
- 第六條 第四條ノ命令ニ從ハサル者又ハ流言其ノ他ノ方法ヲ以テ臨時戸口調査ヲ妨ケムトスル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

臨時臺灣戸口調查事務取扱規程

(明治三十八年六月) 訓令第三百三十二號

- 第一條 各廳ニ於ケル戸口調査ノ事務ヲ管理セシムル爲戸口調査委員長一人ヲ置キ廳長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 戸口調査委員長ハ警察官吏派出所及之ニ相當スル廳直轄並支廳直轄區域内ニ約百戸ヲ標準トシテ各若干ノ調査區ヲ設クヘシ
- 第三條 河川港灣ニ付テハ便宜調査區ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 戸口調査委員長ハ適宜若干調査區ヲ聯合シテ監督區ヲ設クヘシ
- 第四條 調査區ニハ監督區域毎ニ一番ヨリ起シ番號ヲ附スヘシ
- 監督區ニハ一廳下通シ番號ヲ附スヘシ
- 第五條 調査區及監督區ハ其ノ境界明確ニシテ調査ニ便ナルヲ要ス
- 第六條 戸口調査委員長ハ明治三十八年七月十五日迄ニ監督區、調査區ノ番號、區域(街庄社土名)及其ノ戸口概數ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ
- 第七條 戸口調査委員長ハ調査區毎ニ一人ノ調査委員ヲ、監督區毎ニ一人ノ監督委員及若干ノ監督補助委員ヲ定ムヘシ
- 第八條 戸口調査委員長ハ前條調査委員、監督委員ノ外補缺ノ爲若干ノ豫備調査委員及監督委員ヲ定ムヘシ
- 第九條 戸口調査委員長ハ必要アリト認ムルトキハ調査委員ニ通譯ヲ附スルコトヲ得
- 第十條 戸口調査委員長ハ臺灣總督府所屬行政各官衙吏員、學校職員又ハ公醫ニシテ調査區内ノ事情ニ通曉シタル者ノ中ヨリ調査委員及監督委員トナルヘキ者ヲ選拔スヘシ
- 戸口調査委員長ハ警察官吏派出所及之ニ相當スル廳直轄、支廳直轄ノ巡查ノ中ヨリ監督補助委員トナルヘキ者ヲ選拔スヘシ

戸口調査委員長ハ明治三十八年七月二十五日迄ニ調査委員、監督委員及監督補助委員トナルヘキ者ノ官職及氏名ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ

第十一條 調査委員ト監督委員又ハ監督補助委員トハ兼務セシムルコトヲ得

第十二條 戸口調査委員長ハ明治三十八年七月十五日迄ニ調査委員、監督委員及監督補助委員トナルヘキ者ノ員數ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ

第十三條 戸口調査委員長ハ明治三十八年七月三十一日迄ニ調査委員、監督委員及監督補助委員トナルヘキ者ニ辭令書ヲ交付スヘシ

第十四條 戸口調査委員長ハ監督委員ニハ明治三十八年八月十五日迄ニ調査委員ニハ同年九月十五日迄ニ調査ニ關スル訓練及實地ノ指導ヲ爲スヘシ

第十五條 戸口調査委員長ハ監督區内便宜ノ地ニ監督委員事務所ヲ設クヘシ

第十六條 監督委員ハ其ノ監督區域内ニ於ケル實地調査完了ノ報告アリタルトキハ之ヲ直ニ戸口調査委員長ニ報告スヘシ

戸口調査委員長ハ各監督區域内ニ於ケル實地調査完了ノ報告アリタルトキハ之ヲ直ニ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ

第十七條 監督委員ニ於テ調査委員ヨリ所帶票及要計表ヲ受ケタルトキハ各記入事項ヲ對照検査シ誤謬脱漏アレハ直ニ訂正セシメ區内各調査委員ノ分ヲ一括シ之ニ監督委員要計表ヲ添附シ明治三十八年十月二十日迄ニ戸口調査委員長ヲ經由シテ之ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ差出スヘシ

第十八條 臨時臺灣戸口調査部ニ於テ前條ノ書類ヲ検査シ誤謬脱漏ヲ發見シタルトキハ監督委員若ハ監督補助委員タリシ者又ハ當該警察官吏派出所若ハ之ニ相當スル廳直轄、支廳直轄ノ巡查チシテ之ヲ訂正セシムヘシ

第十九條 戸口調査委員長ハ臨時臺灣戸口調査部長ヨリ左記ノ印刷物ヲ受ケタルトキハ之ヲ監督委員ニ交付スヘシ監督委員ハ監督委員心得及監督委員要計表ヲ除キ其ノ他ハ明治三十八年八月三十一日迄ニ之ヲ調査委員ニ交付スヘシ

印刷物交付ノ際ハ印刷物交付目錄ニ其ノ數量ヲ記入シ授受ノ證ト爲スヘシ

- 一 所帶票
- 二 調査委員要計表
- 三 監督委員要計表
- 四 所帶票記入心得
- 五 調査委員心得
- 六 監督委員心得
- 七 住家番號票
- 八 印刷物配付目錄
- 九 附箋紙

第二十條 臨時戸口調査ニ關スル書類ヲ發送スルトキハ其ノ毀損又ハ散逸ヲ防クニ足ルヘキ完全ノ包装ヲ爲スヘシ

第二十一條 調査委員心得、監督委員心得、所帶票様式、所帶票記入心得及要計表様式ハ別ニ之ヲ定ム

1950-1951

# 所 帶 票

(本票ハ記入心ニ依テリ記入スヘシ)

臨時臺灣戸口調査ニ關スル所帶票樣式 (明治三十八年六月  
訓令第三百三十五號)

廳	名	監督區番號	調查區番號	第 號
第 號	第 號	第 號	第 號	第 號
(里鄉澳)名		街(庄社)		

者 在 不				現 在 者																	順 番 號				
三	二	一	順番號	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一	二
			氏 名																					氏 名	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			男 女																					種 族	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			男 女																					男 女 別	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			氏 名																					生 出	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			男 女																					分 身	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			氏 名																					業 名	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			男 女																					本 業	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			氏 名																					地 位	得(欄内記入心ヲ見ヨ)
			男 女																					職 業 及	得(欄内記入心ヲ見ヨ)

男女總計 (此總計ハ二枚以上用キタル場合ニノミ記入スルモノトス)

番號

係(里鄉湧)名

街(庄社)名

土名

町丁目

住家番號第

號

所帶ノ

所帶票番號第

號

枚ノ

准所帶ノ種類及名稱

七 (欄内記入) 身分ノ上事縁

八 (欄内記入) 得七ヲ見ヨ 業名

九 (欄内記入) 得八ヲ見ヨ 地位

十 (欄内記入) 得九ヲ見ヨ 副業名

十一 (欄内記入) 得十ヲ見ヨ 地位

十二 常用語 (欄内記入) 得十ヲ見ヨ

十四 (欄内記入) 得心入見ヨ 度程ノキ書ニ讀

十五 種類原因 (欄内記入) 得十五ヲ見ヨ

十七 (欄内記入) 得心入見ヨ 者食吸煙片阿

Main data table with multiple columns and rows for recording information.

九 八 七 順番

氏名

男女

十二 十一 十 順番

氏名

男女

十四 十三 順番

氏名

男女

合計

上欄ニ記入シタル者ノ内 又別莊支店等ノ如キ所無 項ヲ記入スヘシ 氏名

丁目 住家番號第 ( ) 號 ( ) 所帶ノ  
 所帶票番號第 ( ) 號 ( ) 枚ノ

准所帶ノ種類及名稱

住家ノ有様 (所帶主ニ限ル)

地位	業	姓名	性別	年齢	籍貫	出生地	職業	備考
十	一							
十二	十三							
十四								
十五	十六							
十七								
十八								
十九								
二十								
二十一								
二十二								
二十三								

姓名	性別	年齢	籍貫	出生地	職業	備考
合	計	十四	十三			
氏名	男	女				
業本名	地	業副名	地	業	位	

上欄ニ記入シタル者ノ内所帶主アルトキハ更ニ左ノ事項ヲ記入スヘシ  
 又別荘支店等ノ如キ所帶ニシテ調査ノ時期ニ主人現在セサルトキハ其ノ主人ニ關シ左ノ事項ヲ記入スヘシ

男  
女

所帶票記  
入心得

所帶票記入心得 (明治三十八年六月)

此ノ心得中文字ニ箇點ヲ附セルハ原書ニ在リテハ朱書ナリ

一般ノ心得

所帶ノ定義

本來ノ所帶

一 臨時戸口調査ニ於ケル所帶トハ左記ノ二種ヲ謂フ  
甲 本來ノ所帶 住所及家事經濟ヲ共ニスル者ハ一所帶トス家事經濟ヲ共ニスル  
モ住所ヲ異ニスル者ハ亦各一所帶トス  
同一ノ住所ニ在ル者(同一住家ノ一室又ハ同一構内ノ別棟ヲ占有スル者ノ如キハ  
同一住所ノ者ニアラス)ハ家事經濟ヲ共ニスルモノト見做ス

例之ハ左ニ示スカ如シ、

同、一、ノ、住、所、ニ、在、リ、テ、衣、食、ヲ、共、ニ、ス、ル、一、家、族、ハ、勿、論、一、所、帶、ト、ス、同、一、構、内、又、ハ、  
一、棟、ノ、家、屋、内、ニ、在、ル、親、族、互、ニ、分、房、シ、テ、各、別、ニ、家、事、經、濟、ヲ、立、ツ、ル、者、ハ、同、一、所、帶、ト、  
異、ノ、間、ハ、一、房、毎、ニ、一、所、帶、ト、ス、

子、女、ト、家、事、經、濟、ヲ、共、ニ、ス、ル、隱、居、ノ、父、母、ニ、シ、テ、別、ノ、住、所、ニ、在、ル、者、ハ、一、住、  
所、毎、ニ、一、所、帶、ト、ス、

主、人、ト、同、一、ノ、住、所、ニ、在、ル、同、居、人、雇、人、來、客、ノ、類、ハ、主、人、ノ、所、帶、ニ、屬、ス、ル、モ、ト、  
見、做、ス、

主、人、ノ、所、有、ニ、係、ル、別、荘、支、店、租、館、等、ニ、在、ル、家、族、同、居、人、雇、人、來、客、ノ、類、ハ、一、別、荘、  
一、支、店、又、ハ、一、租、館、毎、ニ、一、所、帶、ヲ、成、ス、モ、ト、見、做、ス、

乙 准所帶 家事經濟ヲ共ニセサル者ノ集合スル箇所ニ在ル者ハ一箇所毎ニ一所  
帶トス

但シ同一ノ箇所ニ在ル者ト雖家事經濟ノ状態ヲ異ニスル一家族ハ准所帶ニ屬  
セス各之ヲ一所帶トス

准所帶中  
本來ノ所帶

准所帶

例之ハ、寄宿舎、旅店、下宿屋、木賃宿、病院、寺院、工場、監獄、行旅病人救護所、船舶(漁業者又ハ運漕業者等ノ住所ニ專用スルモノヲ除ク)等ニ在ル者ハ其ノ一場舎又ハ一船舶、毎ニ一所帶ト爲スヲ本則トシ、其ノ除外例トシテ、旅店、下宿屋ノ營業主ニ屬スル一家族又ハ下宿屋ノ一室ヲ借切り自炊ヲ爲ス一家族ノ類ハ准所帶ニ編入セス、各一所帶ト爲スカカシ

二 臨時戸口調査ハ各所帶ニ屬スル各人ニ關シ明治三十八年十月一日午前零時(九月三十日ヨリ十月一日ニ移ル夜半)現在ノ事實ヲ調査スルモノトス

三 蕃地ニ在リテハ内地人、本島人及外國人ハ之ヲ調査シ蕃人ハ之ヲ調査セス

四 船舶ニ在リテハ明治三十八年十月一日午前零時ニ港灣又ハ河川ニ碇泊シ及該時刻前ヨリ碇泊中ノモノニ限り之ヲ調査スヘシ

五 軍隊、軍艦、監獄、官立醫院及領事館ハ調査委員ニ於テ調査スルニ及ハス

六 臨時戸口調査ニ於ケル現在者トハ常住者(戸口調査簿ノ現在者)ナルト常住者以外ノ者ナルトヲ問ハス明治三十八年十月一日午前零時ニ所帶ニ現在シタル者ヲ謂フ即所帶主、家族、同居人、雇人ヨリ一時ノ來客ニ至ルマテ該時刻ニ所帶ニ現在シタル者、該時刻後ニ所帶ヲ去リタル者、死亡シタル者及該時刻前ニ出生シタル者ハ現在者トス

但シ左記ノ一ニ該當スル者ハ出先ノ所帶ニ記入セス各本人ノ所帶ニ現在シタルモノト見做シテ記入スヘシ

甲 通勤ノ雇人ニシテ當夜該時刻ニ主人ノ家ニ在リタル者

乙 當夜近隣ニ在ルモ他人ノ家ニ宿泊セスシテ該時刻ヲ經過シタル者

丙 平生一定ノ住所アル者ニシテ當夜官衙、會社、工場等ニ宿泊シ又ハ右等場合ニ於

調査ノ時期  
蕃地  
船舶  
軍隊、軍艦等  
現在者  
除外例  
通勤ノ雇人  
當夜一時不在者  
夜業従事者

不在者

七 臨時戸口調査ニ於ケル不在者トハ常住者ニシテ本調査ノ當時他出不在ノ者ヲ謂フ

八 所帶票ハ一所帶毎ニ各別ニ調製スヘシ

九 所帶票ニ記入スル文字ハ楷書ヲ以テ其ノ字體ヲ明確ニシ墨又ハ濃厚ナル黒「インキ」ヲ以テ書スヘシ若誤記ヲ訂正スルトキハ塗抹セス朱線ヲ以テ誤字ヲ消シ其ノ傍ニ墨書スヘシ

十 記入ノ事項同一ナルモ之ヲ略シ又ハ「同」字ヲ以テ表示スヘカラス

但シ不詳ナルモノハ不詳ト記入スヘシ

欄内記入心得

一 (第一欄) 氏名

甲 氏名ハ左ノ順序ニ依リ記入スヘシ

イ 本來ノ所帶ニ在リテハ所帶主、尊屬親、配偶者、卑屬親、附籍者、雇人、同居人、來客トス

ロ 准所帶ニ在リテハ先ツ寄宿人、船客等ヲ記入シ次ニ平常其ノ場合又ハ船舶ニ止宿スル役員、船員等ニシテ別ニ所帶ヲ成ササル者ヲ記入スヘシ

乙 氏名ハ戸口調査簿ニ登記ノ氏名ヲ記入スヘシ

但シ婦人ノ名ハ内地人ニ在リテハ片假名ヲ以テ記入シ本島人及清國人ニ在リテハ氏名ノ間ニ「氏」字ヲ挿入シ何氏某ト記入スヘシ

不在者  
所帶票ノ調製  
記入ノ文字墨汁及誤記訂正  
同一事項ノ記入方  
空欄ノ填記  
氏名



所帶主トノ續柄又ハ所帶主トノ關係

- 丙 出生後未タ名ヲ付セサル者アルトキハ「名ヲ付セス」ト記入スヘシ
- 二 (第二欄) 所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係
  - 甲 本來ノ所帶ニ在リテハ所帶主ハ所帶主ト記入シ其ノ他ハ所帶主ニ對スル親族ノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係ヲ記入スヘシ
  - 但シ同居人、雇人及來客ハ親族ノ續柄アルモ之ヲ記入セス單ニ同居人、雇人又ハ來客ト記入スヘシ
  - 例之ハ所帶主ハ父ナレハ父、長男ナレハ長男、妻ナレハ妻、招夫、妾、媳婦、仔、過房子、螟蛉子(招夫以下ハ本島人及清國人ニ限ル)等ナレハ招夫、妾、媳婦、仔、過房子、螟蛉子等親族ノ續柄アル者ハ各其ノ續柄ヲ記入シ同居人、雇人、植、媒、網、來、客等ナレハ各其ノ旨ヲ記入スルカ如シ
  - 乙 准所帶ニ在リテハ所帶トノ關係ヲ記入スヘシ
  - 例之ハ寄宿舎ノ生徒、旅店ノ旅客、船舶ノ船客等ハ生徒、旅客、船客等ト記入シ其ノ場、舎、又ハ船舶ノ役員、船員等ニシテ別ニ所帶ヲ成ササル者ハ校長、舎監、船長、船員等ト記入スルカ如シ
- 三 (第三欄) 種族
  - 甲 種族ハ内地人、本島人、福建人、廣東人、其ノ他ノ漢人、熱蕃人、生蕃人及外國人ニ區別シ左記ノ如ク略語ヲ以テ記入スヘシ
  - 區 別 略 語
  - 内地人 內
  - 福建人 福
  - 廣東人 廣

男女ノ別 出生ノ年月日 緣事上ノ身分

- 其ノ他ノ漢人 漢
- 熱蕃人(化蕃ヲ含ム) 熱
- 生蕃人 生
- 外國人(清國人ヲ含ム) 外
- 混血人ハ父ノ種族ニ依リテ記入スヘシ
- 四 (第四欄及第五欄) 男女ノ別
  - 甲 所帶票ニ記入シタル者男ナレハ第四欄ニ「男」ト記入シ女ナレハ第五欄ニ「女」ト記入スヘシ即第二欄ニ父トアレハ男タルコト、母トアレハ女タルコト分明ナルモ本欄ニハ尙必男女ノ別ヲ記入スヘシ
  - 乙 「男女合計」及「男女總計」ノ二行ニハ本欄ニ記入シタル男女ノ員數ニ限り之ヲ集算記入スヘシ即一所帶ニ所帶票一枚ヲ使用シタルトキハ「男女合計」ノ行ノミニ記入シ所帶票二枚以上ヲ使用シタルトキハ一枚毎ニ「男女合計」ニ記入シ更ニ其ノ各男女合計ヲ合算シタル員數ヲ最終ノ所帶票ノ「男女總計」ノ行ニ記入シ其ノ他ノ所帶票ノ「男女總計」ニハ「」ヲ填記スヘシ
- 五 (第六欄) 出生ノ年月日
  - 甲 各人ノ出生シタル年ノ年號月日ヲ記入スヘシ出生ノ年月日ヲ知ラサル者ハ何年(十二支)何歳ト記入シ何歳ナルカヲ知ラサル者ハ推定ヲ以テ何歳ト記入スヘシ
  - 乙 外國人ハ各其ノ本國ノ年號月日ニ依リ記入スルコトヲ得
- 六 (第七欄) 緣事上ノ身分
  - 緣事上ノ身分ハ未婚者、配偶者、寡、離婚者ノ五種ニ區別シ左記ノ如ク略語ヲ以テ記入スヘシ

區別	略語
未婚者	未
配偶者	配
寡	寡
離婚者	離

未婚者トハ本調査ノ時マテ未タ一度モ結婚シタルコトナキ男又ハ女配偶者トハ本調査ノ時妻(内地人ニ在リテハ内縁ノ妻ヲ含マス本島人及清國人ニ在リテハ招夫ノ婦ヲ含ム)アル男又ハ夫(内地人ニ在リテハ内縁ノ夫ヲ含マス本島人及清國人ニ在リテハ招夫ヲ含ム)アル女、寡トハ妻ニ死別レタル男、寡トハ夫ニ死別レタル女、離婚者トハ妻ニ生別レタル男又ハ夫ニ生別レタル女ナリ

但シ本島人及清國人ニ在リテハ媳婦仔ニシテ未タ結婚セサル者及之ニ對スル男ハ未婚者トシ妻及之ニ對スル男ハ配偶者トシ妻及總テノ妻ニ死別レタル男ハ寡トシ男ニ死別レタル妻ハ寡トシ妻及總テノ妻ニ生別レタル男又ハ男ニ生別レタル妻ハ離婚者トス

又一人ニシテ寡及離婚者ヲ兼ナル者ハ最近ノ事實ニ依リ寡又ハ離婚者ト記入スヘシ

七 (第八欄) 本業名

本欄ハ所帶主ニ限ラス家族同居人、雇人、來客ニ至ルマテ左記ノ區別ニ依リ職業アル者ハ各其ノ職業名ヲ記入シ職業ナキ者ハ單ニ無職業ト記入セス各其ノ生計ノ途ヲ記入スヘシ

在職文武官及准官吏	職業名	數種ノ職業アル者	臨時職業ヲ休止シ又ハ他業ニ從事スル者	本業ナキ者
甲 在職文武官及准官吏 在職文武官(休職、停職、待命等ヲ含マス)及准官吏(囑託及雇員ヲ含ム)ハ其ノ本官名又ハ本職名ノミヲ記入スヘシ	乙 職業名 職業名(在職文武官及准官吏ヲ除ク)ハ實際ノ稱呼ニ依リ其ノ細別ヲ記入スヘシ 例之、ハ同シク、物品販賣業、ニテモ米商、英服商、書籍商等ニ區別シ同シク雇人ニテモ掌櫃、記帳、出街、出庄、僕婢等ニ區別シ又等シク農業ニテモ普通、畑作ナルカ菜園、作ナルカ茶園、作ナルカチ區別スルカ如シ其ノ他、類推シテ詳細ニ記入スヘシ 本來職業名ニアラスシテ身分ヲ示ス稱呼ナルモ通例職業名ト併セ唱ヘラルル者ハ其ノ併セ唱フル稱呼ヲモ記入スヘシ 例之、ハ大工、棟梁、左官、親方、苦力頭等ト記入スルカ如シ	丙 數種ノ職業アル者 一人ニシテ二種以上ノ職業ヲ有スル者ハ收入ノ最多キモノヲ本業トシテ記入シ若收入ニ依リ難キトキハ重モニ一身ヲ委スルモノヲ本業トシテ記入スヘシ季節ニ依リ職業ヲ變スル者ハ之ニ準ス	丁 臨時職業ヲ休止シ又ハ他業ニ從事スル者 本來ノ職業アル者ハ本調査ノ際臨時休止シ又ハ臨時他ノ業ニ從事スル場合ト雖其ノ本來ノ職業ヲ記入スヘシ 但シ轉業ノ場合ハ其ノ轉業名ヲ記入スヘシ	戊 本業ナキ者 イ 一定ノ職業ナキモ所有ノ財産即土地、家屋ノ收益、公債、株券ノ利子其ノ他恩給、

	<p>扶助料ノ類ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ其ノ生計ノ基トナル收入ノ種類ヲ記入スヘシ</p> <p>例之ハ「小作料ニ依ル」「家作、收益ニ依ル」「株券、ノ、利子ニ依ル」「恩給ニ依ル」等ト、記入スルカ如シ</p> <p>ロ 家族又ハ同居人ニシテ平生所帯主又ハ父母、母、夫等ノ手助ヲ爲ス者ハ其ノ助ケル職業名ヲ記入シ手助ト附記スヘシ</p> <p>例之ハ「農業、畑作、ナレハ「農業、畑作、手助」ト記入スルカ如シ</p> <p>ハ 家族又ハ同居人ニシテ家事ノ傍ラ内職ヲ爲ス者ハ内職トシテ其ノ業名ヲ記入スヘシ</p> <p>例之ハ「豚ハ飼養、チ、内職トスルモノナレハ「内職、養豚」ト記入スルカ如シ</p> <p>ニ 前各項ニ該當セサル學生、生徒ハ無職業ト記入セス「學生」又ハ「生徒」ト記入シ家族又ハ同居人ニシテ専ラ家事ノミニ従事スル者及其ノ所帯内ノ者ニ養ハレル者ハ單ニ「家族」又ハ「同居人」ト記入スヘシ</p> <p>但シ他ノ所帯内ノ者ニ養ハレル者ハ其ノ養フ者ノ職業名又ハ生計ノ途ヲ併記スヘシ(例之ハ「何業、家族」「何業、同居人」又ハ「何收入ニ依ル學生」等ト記入スルカ如シ)</p> <p>ホ 救助等ニ依リ生活スル者ハ無職業ト記入セス「被救助」等ト記入スヘシ</p> <p>八 (第九欄) 本業ノ地位</p> <p>本欄ニハ左記ノ區別ニ依リ第八欄ニ記入シタル本業ニ對スル地位ヲ記入スヘシ</p> <p>甲 職業主又ハ業務ヲ主宰スル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「獨立ノ、農業、畑作人、ナレハ、職業主ト記入シ、會社、銀行等ヲ、主宰スル地位</p> <p>乙 人ニ使ハレル地位ニ在ル者</p> <p>イ 同シク人ニ使ハレル地位ニ在ル者ニテモ店員、職工等ヲ指揮監督スル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「商店、ノ、大番頭、支配人、會社、銀行、等、ノ、部長、課長、顧問等、各其ノ名稱ヲ記入スルカ如シ若一定ノ名稱ナキトキハ「人」ヲ使フ「雇人」又ハ「人」ヲ使フ「家族」ト記入スヘシ</p> <p>ロ 一定ノ人ニ使ハレルト臨時人ニ雇ハレルトニ論ナク庶務又ハ一定ノ技能ヲ以テ使ハレル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「商店、製造所等ニテ簿記ニ従事スル者ハ簿記者ト、記入シ、裁縫店ノ職人ハ職人ト記入スルカ如シ若一定ノ名稱ナキトキハ其ノ技能即「書」ヲ以テ人ニ使ハル」等ト、記入スヘシ</p> <p>ハ 家事又ハ雜役ノ爲ニ人ニ使ハレル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「家事ノ、ミ、ノ、雇人」ト、記入シ、雜役ニ使ハルル者ハ「雜役」ト、記入シ、一定ノ人ニ使ハレサル日傭、稼、日傭、苦力」等ト、記入スルカ如シ</p> <p>在職文武官、准官吏及本業ナキ者ノ地位ハ之ヲ記入スルニ及ハス</p> <p>九 (第十欄) 副業名</p> <p>本業ノ傍ラ尙副業者アル者ハ本業ノ記入方ニ準據シ其ノ業名ヲ本欄ニ記入スヘシ</p> <p>十 (第十一欄) 副業ノ地位</p> <p>本欄ノ記入方ハ本業ニ對スル地位ノ記入方ニ準據スヘシ</p> <p>十一 (第十二欄) 常用語</p>
--	--

	<p>扶助料ノ類ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ其ノ生計ノ基トナル收入ノ種類ヲ記入スヘシ</p> <p>例之ハ「小作料ニ依ル」「家作、收益ニ依ル」「株券、ノ、利子ニ依ル」「恩給ニ依ル」等ト、記入スルカ如シ</p> <p>ロ 家族又ハ同居人ニシテ平生所帯主又ハ父母、母、夫等ノ手助ヲ爲ス者ハ其ノ助ケル職業名ヲ記入シ手助ト附記スヘシ</p> <p>例之ハ「農業、畑作、ナレハ「農業、畑作、手助」ト記入スルカ如シ</p> <p>ハ 家族又ハ同居人ニシテ家事ノ傍ラ内職ヲ爲ス者ハ内職トシテ其ノ業名ヲ記入スヘシ</p> <p>例之ハ「豚ハ飼養、チ、内職トスルモノナレハ「内職、養豚」ト記入スルカ如シ</p> <p>ニ 前各項ニ該當セサル學生、生徒ハ無職業ト記入セス「學生」又ハ「生徒」ト記入シ家族又ハ同居人ニシテ専ラ家事ノミニ従事スル者及其ノ所帯内ノ者ニ養ハレル者ハ單ニ「家族」又ハ「同居人」ト記入スヘシ</p> <p>但シ他ノ所帯内ノ者ニ養ハレル者ハ其ノ養フ者ノ職業名又ハ生計ノ途ヲ併記スヘシ(例之ハ「何業、家族」「何業、同居人」又ハ「何收入ニ依ル學生」等ト記入スルカ如シ)</p> <p>ホ 救助等ニ依リ生活スル者ハ無職業ト記入セス「被救助」等ト記入スヘシ</p> <p>八 (第九欄) 本業ノ地位</p> <p>本欄ニハ左記ノ區別ニ依リ第八欄ニ記入シタル本業ニ對スル地位ヲ記入スヘシ</p> <p>甲 職業主又ハ業務ヲ主宰スル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「獨立ノ、農業、畑作人、ナレハ、職業主ト記入シ、會社、銀行等ヲ、主宰スル地位</p> <p>乙 人ニ使ハレル地位ニ在ル者</p> <p>イ 同シク人ニ使ハレル地位ニ在ル者ニテモ店員、職工等ヲ指揮監督スル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「商店、ノ、大番頭、支配人、會社、銀行、等、ノ、部長、課長、顧問等、各其ノ名稱ヲ記入スルカ如シ若一定ノ名稱ナキトキハ「人」ヲ使フ「雇人」又ハ「人」ヲ使フ「家族」ト記入スヘシ</p> <p>ロ 一定ノ人ニ使ハレルト臨時人ニ雇ハレルトニ論ナク庶務又ハ一定ノ技能ヲ以テ使ハレル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「商店、製造所等ニテ簿記ニ従事スル者ハ簿記者ト、記入シ、裁縫店ノ職人ハ職人ト記入スルカ如シ若一定ノ名稱ナキトキハ其ノ技能即「書」ヲ以テ人ニ使ハル」等ト、記入スヘシ</p> <p>ハ 家事又ハ雜役ノ爲ニ人ニ使ハレル地位ニ在ル者</p> <p>例之ハ「家事ノ、ミ、ノ、雇人」ト、記入シ、雜役ニ使ハルル者ハ「雜役」ト、記入シ、一定ノ人ニ使ハレサル日傭、稼、日傭、苦力」等ト、記入スルカ如シ</p> <p>在職文武官、准官吏及本業ナキ者ノ地位ハ之ヲ記入スルニ及ハス</p> <p>九 (第十欄) 副業名</p> <p>本業ノ傍ラ尙副業者アル者ハ本業ノ記入方ニ準據シ其ノ業名ヲ本欄ニ記入スヘシ</p> <p>十 (第十一欄) 副業ノ地位</p> <p>本欄ノ記入方ハ本業ニ對スル地位ノ記入方ニ準據スヘシ</p> <p>十一 (第十二欄) 常用語</p>
--	--

甲 本欄ニハ左記ノ區別ニ依リ略語ヲ以テ常用語ヲ記入スヘシ常用語トハ内地語、福建語、廣東語、蕃語、英語、獨逸語等平常其ノ家庭ニ於テ使用スル言語ヲ謂フ

區別 略語

内地語 內

福建語 福

廣東語 廣

蕃語 蕃

英語(又ハ獨等) 英(又ハ獨等)

乙 發音時期ニ達セサル年少者ハ母ノ常用語ヲ記入スヘシ

十二(第十三欄) 常用以外ノ語

常用語ノ外尙其ノ他ノ言葉ヲ話ス者ハ常用語ノ記入方ニ準據シ略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

十三(第十四欄) 讀ミ書キノ程度

讀ミ書キノ程度ハ假名ヲ標準トシ讀ミ書ク、讀ム、書クニ區別シ左ノ如ク略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

區別 略語

假名ヲ讀ミ且書キ得ル者 讀、書

假名ヲ讀ムコトノミヲ爲シ得ル者 讀

假名ヲ書クコトノミヲ爲シ得ル者 書

十四(第十五欄) 不具ノ種類

甲 不具者ハ左記ノ種類ニ限リ之ヲ記入スヘシ

不具ノ原因

雙啞 聾又ハ啞モ雙啞ト記入スヘシ

但シ老衰ニ依ル聾ヲ除ク

盲 兩眼ヲ盲シタル者

但シ老衰ニ依ル盲ヲ除ク

白痴 世人ノ一般ニ白痴ト認メ得ル者

瘋癲 世人ノ一般ニ瘋癲ト認メ得ル者

乙 一人ニシテ二種類以上ノ不具ヲ兼ヌル者ハ盲及白痴ト云フカ如ク記入スヘシ

十五(第十六欄) 不具ノ原因

甲 不具ノ原因ハ左記ノ區別ニ依リ略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

區別 略語

生來 生

疾病 疾

負傷 傷

乙 一人ニシテ二種類以上ノ不具ヲ兼ヌル者ハ其ノ各種類ニ對スル原因ヲ各別ニ記入スヘシ

十六(第十七欄) 阿片煙吸食者

本欄ニハ阿片煙吸食特許者ニ限リ「阿」字ヲ記入スヘシ

十七(第十八欄) 纏足者

本欄ニハ平常纏足セル者及一旦纏足シタル者ニシテ本調査ノ際既ニ解釋シタル者ニ限リ左記ノ如ク略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

區別 略語

出生地	原籍	國籍	渡臺ノ年	常住地
<p>十八 (第十九欄) 出生地(内地人ニ限ル)</p> <p>本欄ニハ内地人ニ限り左記ノ區別ニ依リ其ノ出生地ヲ記入スヘシ</p> <p>内地ニ於テ出生シタル者ハ 何府縣</p> <p>本島ニ於テ出生シタル者ハ 何廳</p> <p>外國ニ於テ出生シタル者ハ 何國</p>	<p>十九 (第二十欄) 原籍(内地人ニ限ル)</p> <p>本欄ニハ内地人ニ限り左記ノ如ク其ノ原籍ヲ記入スヘシ</p> <p>何府縣</p>	<p>二十 (第二十一欄) 國籍(外國人ニ限ル)</p> <p>本欄ニハ外國人ニ限り其ノ國籍ヲ記入スヘシ</p> <p>例之ハ清國人ナレハ清、英國人ナレハ英ト記入スルカ如シ</p>	<p>二十一 (第二十二欄) 渡臺ノ年(内地人ニ限ル)</p> <p>本欄ニハ内地人ニ限り領臺後始メテ渡臺シタル年(例之ハ二、十八年、三十年等)ヲ記入スヘシ</p> <p>但シ一旦内地ニ引上ケ更ニ渡臺シタル者ハ最終ノ年ヲモ併記スヘシ</p>	<p>二十二 (第二十三欄) 常住地(一時現在者ニ限ル)</p> <p>甲 本欄ニハ常住者ニアラスシテ本調査ノ際他ヨリ一時來レル宿泊者又ハ來客ニ對シ左記ノ區別ニ依リ其ノ常住地ヲ記入スヘシ</p> <p>何府縣</p> <p>常住地内地ニ在ル者ハ</p>

調査區畫	所帶所在地	住家ノ單位
<p>一 調査區畫</p> <p>各廳ニ於テ定メタル監督區及調査區ノ番號ヲ記入スヘシ</p>	<p>二 所帶所在地</p> <p>甲 廳名、堡里、鄉、灣名、街庄社名、土名、町丁目ハ所帶所在ノ行政區域ノ名稱ヲ記入スヘシ</p> <p>但シ蕃地ニ付テハ其ノ社名又ハ土名ヲ記入シ船舶ニ付テハ其ノ港灣名又ハ河川地先ノ總括名稱(例之ハ大稻埕、地先、艋舺、地先等)ヲ記入スヘシ</p> <p>乙 「男女合計」「男女總計」ノ行ニ第四欄及第五欄ノ記入方ニ準據シ男女ノ員數ヲ記入スヘシ</p> <p>欄外記入心得</p>	<p>住家ノ單位ハ左記ノ區別ニ依ルヘシ</p> <p>一 住家又ハ一船舶内ニ二所帶以上アルトキハ括弧ノ下ニ「一」「二」等ト記入シ且其ノ最初ノ所帶票ニ限り括弧内ニ所帶數ヲ記入スヘシ</p> <p>イ 獨立住家 母屋及其ノ附屬建物ヲモ包含シタル一構</p> <p>ロ 連接住家 外壁又ハ泥土ヲ以テ塗リタル境壁ノ間ニ在ル一構</p> <p>ハ 二箇以上ノ街庄社土名又ハ町丁目ニ跨ル住家ハ其ノ大部分ノ屬スル街庄社</p>

監督委員心得

第一條

監督委員心得 (明治三十八年六月訓令第三百三十三號)

監督委員ハ戸口調査委員長ノ指揮監督ヲ承ケ誠實且敏活ニ其ノ監督事務ヲ處理スヘシ

署名

五 署名

調査委員官職氏名ノ下ニハ所帶票毎ニ擔當調査委員ノ官職及氏名ヲ記入スヘシ  
例之ハ屬何ノ誰又ハ巡查何ノ誰ト署名スルカ如シ

准所帶ノ種類名稱

三 准所帶ノ種類名稱

本欄ニハ准所帶ノ種類及名稱ヲ記入スヘシ  
例之ハ「旅店何屋」「學校寄宿舎」「汽船何丸」等ト記入スルカ如シ

住家ノ有様

四 住家ノ有様(所帶主ニ限ル)

本欄ニハ所帶主ニ限リ其ノ現在者ナルト不在者ナルトヲ問ハス左記ノ區別ニ依リ  
住家ノ有様ヲ記入スヘシ

自己ノ業地ニ在ル自己ノ家屋ニ住居スル者ハ 持地持家

他人ノ業地ニ在ル自己ノ家屋ニ住居スル者ハ 借地持家

他人ノ業地ニ在ル他人ノ家屋ニ住居スル者ハ 借地借家

自己ノ業地ニ在ル他人ノ家屋ニ住居スル者ハ 持地借家

調査委員心得

調査委員心得 (明治三十八年六月訓令第三百三十四號)

第一章 服務

第一條 調査委員ハ上司ノ指揮監督ヲ承ケ誠實且敏活ニ擔當事務ヲ處理スヘシ

第二條 調査委員ハ臨時戸口調査ニ關スル諸規定ヲ精細ニ曉得シ實地調査ニ臨ミ粗漫又ハ凝滞ナキヲ期スヘシ

第三條 調査委員ハ實地調査ヲ爲スニ當リ人ノ隱微ヲ摘發スルカ如キ言行ナキヲ要ス

第四條 調査委員ハ各個人ニ關シ調査シタル事項ヲ猥リニ他人ニ漏洩スルコトヲ得ス

第五條 調査委員其ノ職務ニ違背シタルトキハ懲罰ニ處セラルヘシ

第二章 準備

第六條 調査委員ハ監督委員ヨリ左ノ員數ノ印刷物ヲ受領スヘシ

一 調査委員心得

二 所帶票

一部 擔當調査區内所帶枚數ノ  
二割増ニ相當スル枚數ノ  
一部

三 所帶票記入心得

- 四 調査委員要計表 三枚
- 五 住家番號票 擔當調査區内所帶枚數
- 六 附箋紙 若干枚
- 第七條 調査委員ハ實地調査前擔當調査區内ノ住家ニ番號ヲ附シ尙左ノ各號ノ調査ヲ爲スヘシ但シ住家ノ番號ハ住家番號票ニ記入シテ之ヲ貼附スヘシ
  - 一 實地調査ヲ施行スヘキ船舶ノ有無及其ノ隻數
  - 二 所帶及准所帶ノ各枚數
  - 三 人口ノ概數
- 前項第二號及第三號ノ調査ハ最近ノ戸口調査表ニ依ルコトヲ得
- 第八條 調査委員ハ旅人宿、木賃宿、船舶其ノ他現行戸口調査簿ニ登錄セサル所帶ニ付テハ豫メ其ノ管理者ニ所帶票ヲ交付シ各事項ノ下調ヲ爲サシムヘシ
- 第三章 實地調査
- 第九條 調査委員ハ擔當調査區内ノ各所帶ニ就キ一人毎ニ現行戸口調査簿ニ照合シテ所帶票ニ記入スヘキ各事項ヲ調査スヘシ
- 第十條 前條ノ調査ニ依リ現行戸口調査簿ノ誤謬又ハ異動ヲ發見シタルトキハ附箋紙ニ其ノ事項ヲ記載シ之ヲ該簿ノ相當欄内ニ貼附スヘシ
- 第十一條 第八條ニ依リ管理者ニ下調ヲ爲サシメタル場合ハ實地調査ノ際其ノ所帶票ヲ提出セシメ其ノ記入事項ノ正確ナルヤ否ヲ照査シ若誤謬又ハ脱漏アリタルトキハ直ニ之ヲ訂正スヘシ
- 第十二條 實地調査ハ明治三十八年十月一日日出ヨリ開始シ可成同日中ニ完了スヘシ
- 第十三條 調査委員ハ實地調査ヲ完了シタルトキハ直ニ監督委員ニ報告スヘシ

第四章 整理

- 第十四條 調査委員ハ第九條及第十條ノ調査ヲ爲シタルトキハ該戸口調査簿及附箋紙記載ノ各事項ヲ所帶票ニ記入スヘシ
- 前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ必其ノ事項ニ誤謬又ハ脱漏ナキヤ否ヲ照合スヘシ
- 第十五條 調査委員ハ各所帶票ノ整理ヲ了シタルトキハ之ニ依リテ調査委員要計表ヲ調製シ實地調査完了後七日以内ニ之ヲ監督委員ニ差出スヘシ
- 第十六條 調査委員ハ上司ヨリ其ノ擔當ニ係ル所帶票又ハ要計表ニ付推問ヲ受ケタルトキハ速ニ調査答申スヘシ

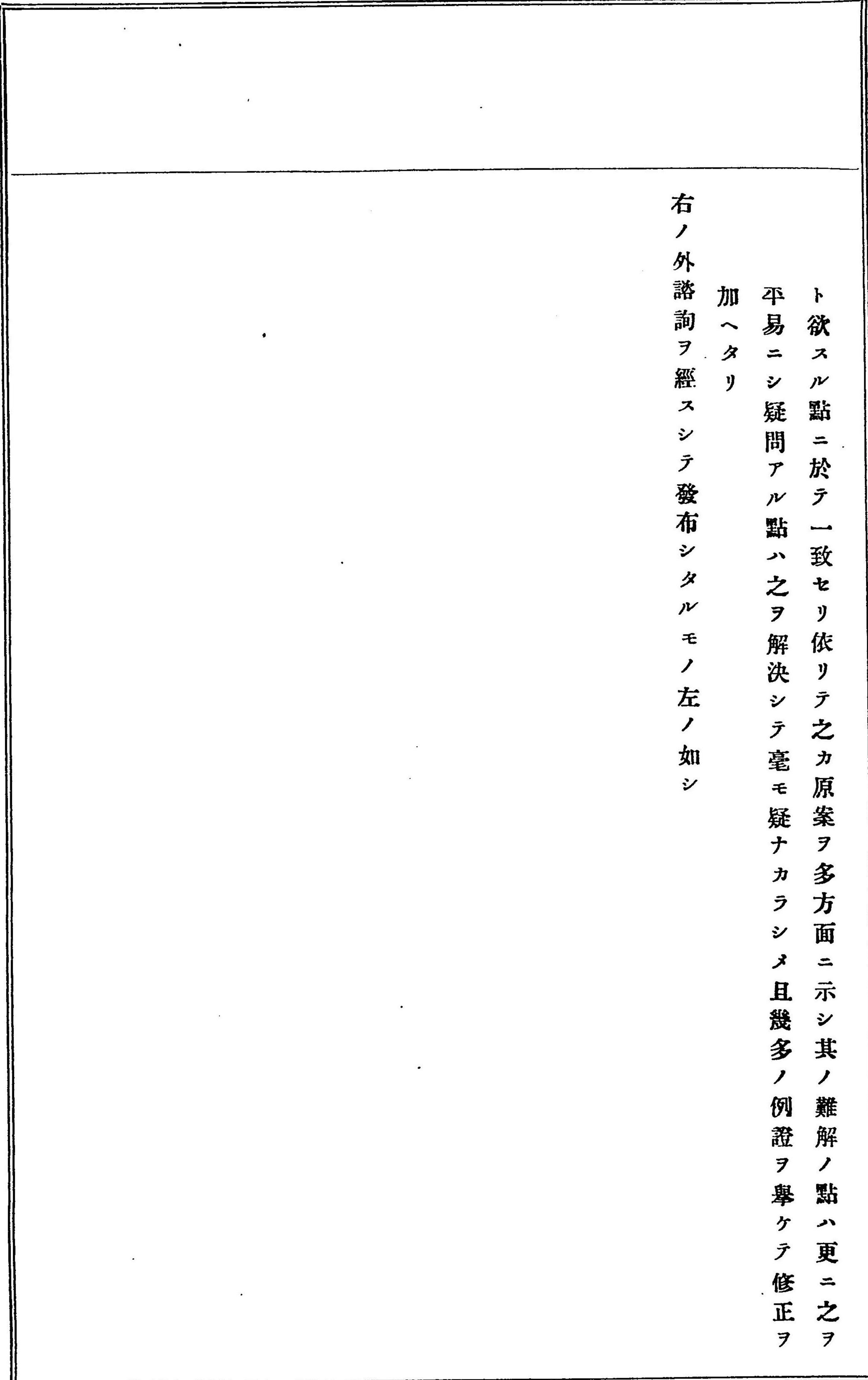
修正ノ要點

前掲ノ諸規則中評議員會ニ於テ修正セシ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 臨時臺灣戸口調査規則中罰則ニ關スル件ハ調査上實ヲ得ムカ爲制裁ノ範圍ヲ擴張シテ修正ヲ加ヘタリ
- 二 臨時臺灣戸口調査事務取扱規程ハ原案ニ在リテハ多少一般行政系統ノ機關ニ依ルノ組織ナリシモ全然特設機關ノ組織ニ修正セリ
- 三 所帶票中「種痘」ヲ削リ「讀ミ書キノ程度」ヲ加ヘタリ其ノ理由タル「種痘」ノコトハ衛生機關ニ於テ多少之ヲ知ルノ途アルモ「讀ミ書キノ程度」ハ特ニ調査セサレハ唯之ヲ知ル能ハサルノミナラス新教育ノ本島人間ニ普及ノ程度竝母國人トノ比較等ハ今日最必要ヲ認ム依リテ假名ヲ標準トシテ調査スルコトニ修正セリ
- 四 所帶票記入心得中所帶ノ定義其ノ種類及區別等ハ最必要ニシテ而モ最困難ナルヲ以テ議論百出セリ然レトモ要ハ最平易通俗ニシテ何人ニモ輒ク了解シ得ル様記述セム

ト欲スル點ニ於テ一致セリ依リテ之カ原案ヲ多方面ニ示シ其ノ難解ノ點ハ更ニ之ヲ平易ニシ疑問アル點ハ之ヲ解決シテ毫モ疑ナカラシメ且幾多ノ例證ヲ舉ケテ修正ヲ加ヘタリ

右ノ外諮詢ヲ經スシテ發布シタルモノ左ノ如シ



時  
間  
數  
百  
十  
時

時間數  
百十時

所帶票整理時間數  
自十月 至十月 日 日

自十月其、時、間、數、百、十、時、所、帶、票、整、理、時、間、數、自、十、月、至、十、月、日、日、



臨時臺灣戸口調査ニ關スル要計表様

廳	名
第	監督區番號
號	

調查委員要計表

堡里街庄社名	住居	住家	船	船	其	順番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	合計

右記入之通相違無之候也

明治三十八年十月 日

記入心得

- 一 本表ハ調査委員ニ於テ所帶票ニ依リ一調査
- 二 堡里街庄社名ノ欄ニハ一街庄毎ニ各其ノ名
- 三 實地調査時間數ハ實地ニ就キテ調査シタル

表樣式 (明治三十八年六月  
訓令第三百三十六號)

番號	調查區番號
號	號

實地調查時間數	所帶票整理時間數
自十月 日 至十月 日	自十月 日 至十月 日
百十時	百十時

船	數		所帶數		人		口								
	其ノ他	本來ノ所帶	准所帶	現在者	不在者	現在者	不在者								
	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
				常住者ニシテ現在スル者		常住者ニアラスシテ現在スル者		現常住者ニシテ現在スル者		現常住者ニアラスシテ現在スル者					

調査委員 官職氏名

監督補助委員 官職氏名

監督委員 官職氏名

也

一調査區毎ニ一枚ヲ調製スヘシ

其ノ名稱ヲ記入スヘシ但シ一街庄社ノ一部ナルトキハ何條何街ノ内又ハ何里何庄ノ内等ト記入シ港灣河川ナルトキハ何

シタル月日及其ノ延時間ヲ記入シ所帶票整理時間數ハ所帶票ノ整理ニ要シタル月日及其ノ延時間ヲ記入スヘシ

## 監 督 委 員 要 計 表

合計	十五 第 區	十四 第 區	十三 第 區	十二 第 區	十一 第 區	十 第 區	九 第 區	八 第 區	七 第 區	六 第 區	五 第 區	四 第 區	三 第 區	二 第 區	一 第 區	順 番 號	調 查 區 番 號	住 家 船 船 其	住 居
															一				
															二				
															三				

名	監 督 區 番 號
第	號
號	號

右記入之通相違無之候

明治三十八年十月 日

記入心得

- 一 本表ハ監督委員又ハ監督補助委員ニ於テ
- 二 検査時間數ハ調査委員要計表及所帶票ノ

検査時間數  
 自十月 日 日  
 至十月 日 日  
 百十時

數	所帶數		現在者		不在者		口
	本來ノ所帶	准所帶	現在者	不在者	現在者	不在者	
四	其他						
五	本來ノ所帶						
六	准所帶						
七	男	現在者ニシテ	現在者ニシテ	不在者	現在者ニシテ	不在者	
八	女	現在者ニシテ	現在者ニシテ	不在者	現在者ニシテ	不在者	
九	男	シテ現在スラス	シテ現在スラス	不在者	シテ現在スラス	不在者	
十	女	シテ現在スラス	シテ現在スラス	不在者	シテ現在スラス	不在者	
十一	男						
十二	女						
十三	男	現在者ニシテ	現在者ニシテ	不在者	現在者ニシテ	不在者	
十四	女	現在者ニシテ	現在者ニシテ	不在者	現在者ニシテ	不在者	
十五	男	シテ現在スラス	シテ現在スラス	不在者	シテ現在スラス	不在者	
十六	女	シテ現在スラス	シテ現在スラス	不在者	シテ現在スラス	不在者	
十七	男						
十八	女						

監督補助委員 官職氏名

監督委員 官職氏名

也

於テ各調査委員ヨリ差出シタル要計表及所帶票ヲ對照検査シ其ノ要計表ニ依リ之ヲ調製スヘシ  
 案ノ検査ニ要シタル月日及其ノ延時間ヲ記入スヘシ

調查區劃  
調查人員

十二 調查區劃ト調査人員 本調査ノ監督區調査區及監督委員同補助委員調査委員調査委員附通譯並各豫備委員ニ關シテハ臨時臺灣戶口調査事務取扱規程ニ規定シ又保正甲長街庄社長及書記ニ關シテハ臨時臺灣戶口調査規則ニ規定セリ其ノ調査ニ關スル區劃及人員ヲ表示スレハ左ノ如シ

調査區劃

官	衙	監督區數	調査區數
臺北廳	.....	六〇	五七九
基隆廳	.....	二八	二二七
宜蘭廳	.....	三五	一三七
花蓮廳	.....	二〇	一〇四
南投廳	.....	四四	二四六
桃園廳	.....	四九	二七八
新竹廳	.....	二四	一一二
苗栗廳	.....	四四	二〇五
臺中廳	.....	四七	二四一
彰化廳	.....	三四	一〇九
南投廳	.....	五〇	三一一
嘉義廳	.....	二五	三二八
臺南廳	.....	二〇	三三三
臺南廳	.....	一一	一〇八

官	衙	監督區數	調查區數
鳳山廳	...	三	二〇四
阿緞廳	...	一五	二〇〇
恒春廳	...	一一	一〇八
臺東廳	...	一〇	一〇四
澎湖廳	...	一一	八八
臺北醫院	...	一	一
新竹醫院	...	一	一
鳳山醫院	...	一	一
嘉義醫院	...	一	一
宜蘭醫院	...	一	一
臺南醫院	...	一	一
臺中醫院	...	一	一
臺東醫院	...	一	一
基隆醫院	...	一	一
澎湖醫院	...	一	一
臺中監獄	...	一	一
臺南監獄	...	一	一
臺北監獄	...	一	一
陸軍	...	一	一
海軍	...	一	一
計	七三二	一八九三	四三六二

普通調查區委員 (其一地方別)

廳	官等	監督委員	監督補助委員	調查委員	豫備委員	計
臺北	高等官 三三 判任官 三七 囑託、公醫、隘勇 一 履備員 六〇	△	一三四二	四五六	一四	二九
基隆	高等官 一一 判任官 一七 囑託、公醫、隘勇 一 履備員 一	△	一七五	二〇九	一	三一
宜蘭	高等官 一一 判任官 一七 囑託、公醫、隘勇 一 履備員 一	△	一三七	一三七	一	三三
深坑	高等官 二〇 判任官 二〇 囑託、公醫、隘勇 一 履備員 一	△	四五五	一〇三	一	五六
桃園	高等官 二〇 判任官 二〇 囑託、公醫、隘勇 一 履備員 一	△	八八九	二四六	一	二九
計			一八九三	四三六	六	四三六二

鳳山		蕃薯寮		臺南		鹽水港		嘉義		囑託、公警、隘勇 雇傭員
判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	計
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
△	.....	△	.....	△	.....	△	.....	△	.....	△
二	三	一	二	三	三〇	二〇	二〇	二五	二五	九
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
四四	一〇八	一〇八	二八	二八	三	五	五	九	九	六五
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一六七	二〇四	二〇四	一〇一	一四	二七	三五	三六	三二	二九	三三
.....	△	△	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	二九	一六	.....	.....	四三	二	二	六〇	四七	九七
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
四六	一八〇	二五八	二〇九	二八	二二	二	三九	三〇	九	二八

斗南		彰化		臺中		苗栗		新竹		廳官等
判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	計
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
△	.....	△	.....	△	.....	△	.....	△	.....	△
九〇	三四	一	三	三九	一八	四五	四五	二二	二二	二六
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
六五	五二	五二	七	七	九四	九四	五〇	五〇	六四	六四
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
二〇八	一〇九	一一	九八	二五	二九	二〇	一九〇	二〇六	二七	二四
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
八三	五〇	八	四	八一	一四	六六	一	六五	七	五八
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
七四	三六二	一九五	二〇	五二	一七五	四	一	三二	四	二八

職名	阿 嶽				恒 春				臺 東				澎 湖				總 計			
	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官		
事務官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
書記官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
警視官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
編修官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
教授官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
監官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
海事官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
技師	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
監視官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
助教授	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
通信事務官補	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
監督委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
監督補助委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
調査委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
豫備委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		
計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...		

待遇者ハ各相當欄ニ併記ス△ハ調査委員ヨリ兼務セルヲ示ス

普通調査區委員 (其ノ二官職別)

職名	阿 嶽		恒 春		臺 東		澎 湖		總 計	
	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官	高等官	判任官
事務官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
書記官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
警視官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
編修官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
教授官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
監官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
海事官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
技師	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
監視官	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
助教授	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
通信事務官補	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
監督委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
監督補助委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
調査委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
豫備委員	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...







名	稱	數稱	數	量	價	額
印刷物交付目錄		枚		八、〇〇〇		五、八〇〇
烏ノ子辭令用紙		同		一一、〇〇〇		二、三三〇
模造紙辭令用紙		同		一〇、二〇〇		三、一九〇
住家番號票		同		六〇〇、五〇〇		二、五三〇、〇〇〇
附箋用紙		同		二四〇、〇〇〇		四、五六〇、〇〇〇
臺灣親戚名稱圖		同		一〇、五〇〇		一、七〇〇、〇〇〇
年 齡 早 見 表		同		一〇、〇〇〇		六、七〇〇、〇〇〇
臺灣親戚名稱圖		同		五、三〇〇		四、四八、九〇〇
告 諭 文		同		二〇、〇〇〇		一、二〇〇、〇〇〇
所帶票記入例		同				六、五六七、一八五
總計						

郵便ノ便法  
視察及監督

十四 郵便ノ便法 臨時臺灣戶口調査部戶口調査委員長監督委員同補助委員調査委員等ノ間ヲ往復スル所帶票要計表其ノ他ノ諸用紙類ハ其ノ數多量而モ送受ノ間敏速ヲ要スルヲ以テ特ニ一種ノ徽章ヲ附シ郵稅後納ノ便法ヲ取り明治三十八年七月ヨリ同三十九年四月マテ之ヲ施行セシメ大ニ利益ヲ得タリ

十五 視察及監督 地方廳ニ於ケル準備ノ狀況ニ關シ視察セシムルノ必要アルヲ以テ先ツ明治三十八年七月十三日ヨリ交通不便又ハ遠隔ノ地方ヨリ視察ヲ始ム即チ七月ニ在リテハ澎湖廳ニ一名、臺東廳ニ一名、鳳山阿緞、蕃薯寮及恒春ノ四廳ニ二名、八月ニ在リテハ臺北、桃園、基隆、深坑及宜蘭ノ五廳ニ一名、斗六、嘉義、鹽水港及臺南ノ四廳ニ一名ヲ出張セシメ

地方部ノ準備

臺北地方  
委員長ノ報告

九月ニ入りテハ十月三日ニ互リテ監督ヲ兼ネ臺南及鹽水港ノ二廳ニ一名、宜蘭及深坑ノ二廳ニ一名、桃園、新竹及苗栗ノ三廳ニ一名、臺中、彰化及南投ノ三廳ニ一名、斗六及嘉義ノ二廳ニ一名、蕃薯寮、鳳山及阿緞ノ三廳ニ一名、臺北及基隆ノ二廳ニ一名、臺北廳ヨリ鳳山廳ニ至ル鐵道沿線ニ一名ヲ出張セシメタリ右ノ外十月一日ニハ主事二名ヲシテ臺北附近ヲ視察セシメタリ

明治三十八年十月一日實查ノ當日ハ內務省ヨリ出張ノ有吉臺灣課長ハ臺南ニ在リテ視察シ内閣ヨリ出張ノ高橋統計審査官ハ臺北ニ在リテ視察シ爾後前者ハ漸ク北進シ後者ハ漸ク南進シテ各廳ニ於ケル實查及整理中ノ狀況ヲ精査セリ

十六 地方部ノ準備 本部ニ於ケル準備ハ既ニ成ルモ地方ニ在リテハ更ニ廳長トシテ戶口調査簿ノ整理ヲ要シ又委員長トシテノ準備アリ以下監督委員又ハ調査委員ニ至ルマテ各準備事務アリ右ハ臨時臺灣戶口調査事務取扱規程 明治三十八年六月 監督委員心得 明治三十八年六月訓令 第一三三號 調查委員心得 明治三十八年六月 規定セリ而シテ其ノ準備事務ハ地方ニ依リ時ニ多少ノ伸縮アリ事務ニ幾分ノ精粗ナキニ非スト雖要スルニ一定標準ノ下ニ統一シタルヲ以テ各地方略、同一ナリト謂フヲ得ヘシ依リテ其ノ一例トシテ臺北廳戶口調査委員長佐藤友熊ノ報告ヲ左ニ掲ケ以テ全體ヲ概見スルノ資ニ供ス

甲 普通行政系統ニ於ケル準備  
一 戶口調査簿ノ整理  
元來警察ニ於ケル戶口調査簿ハ至リテ單純ニシテ調査ノ事項ハ專ラ警察取締上ノ用ニ供スルヲ限度トセリ故ニ其ノ調査ノ項目ハ僅々六七種ニ過キサリシモ客年十二月本島ニ於テ國勢調査ヲ施行スルコトニ府

議決定セシト同時ニ調査ノ基礎ヲ戸口調査簿ニ採ルコトトナリ從來戸口調査ニ於テ調査シツアル事項ノ外ニ十數種ノ調査事項ヲ追加セラレ明治三十八年三月末日迄ニ完成セシムヘキ旨ノ通達ニ接セリ仍テ本年一月ヨリ之カ整理ニ著手シ著々其ノ緒ニ就ケリ然ルニ本年十月一日ヲ期シ愈々國勢調査ヲ施行セラレコトニ確定シ諸般規則ヲ發布セラレルニ至リテ戸口調査ノ方法等全ク所帶票記入心得ヲ準用セラレルコトトナリ戸口調査簿ノ整理ハ一日モ忽ニスヘカラサルニ至レリ是ニ於テ乎委員部職員ヲシテ警察官吏ニ對シ所帶票記入心得ニ就キ講習ヲ爲サシメ調査事項ノ提覽ヲ計リ戸口調査簿記入事項一覽表ヲ調製シ之ヲ各人ニ配付シ七月初旬ヨリ調査ヲ督勵シテ實地ノ調査ニ著手シタリ而シテ七月末日迄ニ全部ノ調査ヲ了スルノ豫定ナリシモ調査事項ノ煩雜ナル一人ノ巡查ニテ一日ニ調査シ得ル所辛ウシテ平均三十戸ニ過キス此ノ如クニシテ管内六萬ヲ以テ數フル戸數ニ對シ毎戸ニ就キ調査ヲ了スルハ尋常一様ノ手段ヲ以テ遂行シ得ヘカラサルコトヲ認メ警察力ノ大部分ヲ擧ケテ調査ニ傾注シタリ而シテ實地調査ノ分ニ對シテハ監督者ニ於テ細密ナル檢閲ヲ爲シ不備ノ點ニ就テハ之ニ符箋ヲ施シ擔當巡查ニ還付シ一々實地ニ就テ訂正ヲ命シ再度監督者ニ差出サシメ再查ヲ爲シ尙不備ノ點アルトキハ又符箋ノ上還付スル等數回ヲ繰返シ辛ウシテ全部ノ調査ヲ終フルヲ得其ノ間實地調査ノ回數ハ少キモ三回多キハ五回若ハ六回ニ達セリ然ルニ異動ノ頻繁ナル實ニ驚クヘキ程ニテ特ニ臺北三市街ノ如キハ一回ノ調査ニ續テ二回ノ調査ヲ行フトキハ一戸トシテ多少ノ異動ナキモノハ殆ト稀ナリ左ナキタニ困難ナルニ一層困難ニ陥リタルモ熱心事務ニ従事シタル結果八月末日ニ至リ全部ノ整理ヲ了シ九月五日ヨリ委員部ノ檢閲ニ供スルノ運ニ至レリ

乙 委員部ニ於ケル準備

一 講習員ノ召集及廳長會議

明治三十八年十月一日ヲ期シ臺灣及澎湖列島ニ對シ臨時臺灣戸口調査ナル名目ノ下ニ國勢調査ヲ施行セラルルコトトナリ官制其ノ他諸規則ノ發布ヲ見ルニ至レリ盛ナリト云フヘシ  
總督府ニ於テハ諸般規則ノ發布ト共ニ調査事務練習ノ爲廳員二名ヲ召集スルコトトシ三十八年五月二十九日附ヲ以テ各廳長ニ通達セララル

官文第二七一號

臨時戸口調査ニ關スル諸規則及心得等訓練ノ爲來ル六月十一日ヨリ約一週間ノ豫定ヲ以テ當府内ニ講習會相開候間六月十日迄ニ當府ニ到著候様廳員二名派遣相成度尤モ右ニ要スル旅費ハ地方稅支辨ノ筈ニ付追テ精算額ヲ豫算ニ追加可相成候ニ付豫メ承知可相成依命此段及通達候也

明治三十八年五月二十九日

民政長官 後 藤 新一平

臺北廳長 佐 藤 友 熊殿

追テ本文廳員二名ノ内一名ハ臨時戸口調査ニ關シ主任ト爲スヘキ警部、一名ハ統計主務又ハ其ノ他適當ト認メラレタル者ヲ選出可相成儀ト承知相成度申添候也

屬兼警部 森 田 高 一 郎  
屬 江 口 形 太 郎

本廳ハ右ノ通達ニ基キ講習員トシテ左記二名ノ廳員ヲ派遣セリ  
右二名ノ廳員ハ六月十日出府同十八日所定ノ講習ヲ了シ歸廳シタリ總督府ハ更ニ地方官會議ヲ召集スルコトトナリ左ノ通達ヲ發セラル

民總第三、三九八號

來ル十六日ヲ期シ地方官會議被相開候ニ付右期日迄ニ出府可相成依命此段及通達候也

明治三十八年六月六日

民政長官 後 藤 新 平

臺北廳長 佐 藤 友 熊殿

追テ今回ハ主トシテ戸口調査ノ準備ニ關シ召集相成タル儀ニ有之爲念申進候也  
廳長五月十六日出府同月二十二日議事ヲ了シ歸廳シタリ次テ又總督府ニ於テハ主トシテ戸口調査ニ關シ總務課長及警務課長ヲ召集シ會議アリタリ總督府カ是等ノ擧ヲ爲ス蓋シ事務ノ統一ヲ期スルノ主旨ニ外ナラサルヘシ

二 委員部ノ設置

廳員ハ調査事務ノ講習ヲ了シテ歸廳シ廳長モ亦會議ヲ了シテ歸廳セルヲ以テ六月二十四日廳長室ニ於テ

會議ヲ開キ戸口調査委員長直屬ノ機關トシテ委員部ヲ設置スルコトトシ事務四名兼務六名都合十名ノ事務員ヲ廳員中ヨリ充用シタリ其ノ官職氏名左ノ如シ

兼務	警務課長警視	大山綱岳
兼務	總務課長屬	木村松之助
兼務	稅務課長屬	渡邊國重
兼務	警部	石橋正光
兼務	警部	小林利應
兼務	屬	今井昌次
專務	屬兼警部	岩本多助
專務	屬	森田高一郎
專務	警部	深町定次郎
專務	屬	江口形太郎
專務	屬	小野庄策

右ノ内屬渡邊國重ハ休職トナリ屬小野庄策ハ轉勤セリ

三 支廳長及直轄各監視區監督警部會議

委員部ノ設置ト共ニ本廳ニ於ケル準備事務ノ第一著トシテ第一種警察會議ヲ兼子主トシテ調査區域設定ニ關シ七月二十七日支廳長及直轄各監視區監督警部ノ會議ヲ召集シ臨時戸口調査ノ目的及機關ノ組織調査ノ順序方法並戸口調査簿ノ整理ニ關シ詳細ナル訓示ヲ爲シ次テ左ノ會議事項ヲ審議シ最後ニ總督府ヘ召集セラレ調査事務ノ講習ヲ受ケタル森田高一郎江口形太郎ノ兩屬ヲシテ所帶票記入心得ニ就キ大體ノ講話ヲ爲サシメタリ

會議ノ結果調査區ハ大體ニ於テ保甲ノ區劃ニ依リ一保ヲ以テ一調査區トナスコトニ決シ調査上ノ便益ニ從ヒ保甲ノ區劃ニ多少ノ修正ヲ加ヘ實地調査ノ上八月五日迄ニ報告スヘキコトニ決定シタリ

四 調査區劃ノ設定

支廳長等ノ報告ハ期日迄ニ到著セシヲ以テ戸口數ト面積ト地形トニ考ヘ且十分ノ審査ヲ遂ケ區劃ヲ定メタルモ戸口數ハ昨年末ノ調査ニ係ルヲ以テ更ニ八月末日ノ現在數ヲ調査シタリ此ニ至リテ調査區劃ハ確定シタルヲ以テ之ヲ印刷ニ附シ戸口調査事務取扱規程第六條ニ依リ七月十五日調査部長ヘ報告ヲ了シ同時ニ準備調査ノ任ニ當レル各支廳長及直轄各監視區監督警部ヘ配布シ準備調査ノ便益ニ供シタリ而シテ監督區ノ數ハ六十ニシテ調査區ノ數ハ實ニ五百七十九ノ多キニ達セリ

五 委員並通譯ノ選出

監督區及調査區ノ區劃既ニ決定シ之ニ要スル委員數亦確定セリ監督委員六十名調査委員五百七十九名都合六百三十九名ノ正員ト百名ノ豫備ヲ置クコトトシテ七百三十九名ノ委員ヲ要スルヲ以テ委員部ハ之レカ選定ニ著手シ先ッ廳及廳所屬各官衙學校職員中ヨリ選出シ得ヘキ委員數ヲ四百名ト定メ不足三百三十九名ヲ他官廳ニ仰クコトトシ他官衙長官ニ向テ委員長ヨリ一應ノ豫議ヲ爲シ然ル後左ノ協議書ヲ發セリ

臺北戸第一七號

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルル臨時戸口調査事務ニ關シ之ニ從事スヘキ人員管内ニ於テ七百三十九名ヲ要シ候處其ノ内四百名ハ臺北廳員ヨリ充用致候得共殘三百三十九名ハ民政部及民政所屬諸官衙ヨリ助力御願致候ニ付テハ乍御手數貴廳職員中ヨリ監督委員及調査委員タルニ最適任ト認メラルル人員何名ヨリ何名位御選擇ノ上其ノ官職氏名等左ノ例ニ依リ來ル七月十五日迄ニ御通報相煩度此段及御協議候也

明治三十八年七月十日

各官衙長官宛

左例

監督委員適任者調

官職	姓名	摘	要
		土語ニ通スルモノハ此ノ欄ニ其ノ旨記入セラレタシ	

調査委員適任者調

官職	姓名	籍	要
		土語ニ通スルモノハ此ノ欄ニ其ノ旨記入セラレタシ	

期日ニ至リ委員ノ官職氏名等悉ク通報シ來リシヲ以テ之ヲ本廳選出ノ委員ト合シ所要ノ七百三十九名ノ委員ヲ得タリ然ルニ委員中警察官吏及公學校職員ヲ除キテハ土語ニ通スルモノ至ツテ少ナク少クモ三百名ノ通譯ヲ要スルコトト爲レリ之ヲ民間ニ仰クハ容易ニ得ヘカラサノミナラス經費ノ點ニ於テ元來不能ノ事ニ屬ス故ニ之ヲ國語學校及醫學校ノ生徒管内各公學校第五年生第六年生若ハ卒業生中ノ希望者ヨリ充用スルコトトシ國語學校長及醫學校長ニ對シ選出方ヲ依頼セリ但シ其ノ人員ハ國語學校百二十六名醫學校三十五名ナリ

臺北戸第二八號

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルル臨時臺灣戸口調査ニ關シ臺北三市街及其ノ附近ニ配當スル調査委員附通譯約百六十名ヲ要シ候處右ハ他ニ補充ノ途モ無之候ニ付貴校在學生徒中ヨリ何名採用致度幸ニ御承諾ノ上ハ乍御手数數人名御通報相煩度此段及御依頼候也

明治三十八年八月十六日

臺北臨時臺灣戸口調査委員長 佐藤友熊

國語學校長醫學校長宛

尙管内各公學校長ヘモ同時ニ左ノ照會ヲ爲セリ

臺北戸第二八號

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルル臨時臺灣戸口調査ニ關シ地方ニ配當スル調査委員附通譯トシテ貴校在學生徒中ヨリ別記人員採用ノ豫定ニ付上級者ニシテ可成身體健全成績優等ノモノヲ選擇シ調査事項ノ通譯ニ差支無之様豫メ練習置相成度尙其ノ氏名ハ來ル八月三十一日迄ニ報告相成度此段及照會候也

明治三十八年八月十二日  
各公學校長宛  
左記

臺北臨時臺灣戸口調査委員長 佐藤友熊

八芝園公學校	二七	錫口公學校	二四
和尙洲公學校	一〇	新庄山脚公學校	二二
興直公學校	一五	枋橋公學校	三〇
老梅公學校	五	海厝公學校	五
滬尾公學校	一四	計	一五二

國語學校長及醫學校長ハ此ノ空前ノ大事業タル戸口調査ニ生徒ヲシテ參加セシムルハ大ナル名譽ナリトシテ直ニ快諾ヲ與ヘラレ氏名等ノ通報アリ又各公學校長ヨリモ報告ニ接シタルヲ以テ戸口調査部ノ編纂ニ係ル戸口調査用語ヲ各人ニ送付シ練習ノ便ニ供シタリ

調査委員監督委員及監督補助委員並通譯等ノ選出ヲ了シタルヲ以テ委員ニハ八月二十二日通譯ニハ九月七日辭令ヲ下付シタリ

六 委員ノ訓練

委員ノ訓練ニ關シテハ臨時臺灣戸口調査事務取扱規程第十四條ニ於テ左ノ如ク規定セリ

第十四條 戸口調査委員長ハ監督委員ニハ明治三十八年八月十五日迄ニ調査委員ニハ同年九月十五日迄ニ調査ニ關スル訓練及實地ノ指導ヲ爲スヘシ

ニ調査ニ關スル訓練シ然ル後調査委員ヲ訓練スルヲ順序トナスモノノ如シ又調査委員ノ訓練ヲ特ニ九月十五日迄ト規定セラレタルハ蓋シ實地調査ニ可成接近セシムルノ主旨ナルヘシト雖警察官ニ在リテハ準備調査上特ニ訓練急施ノ必要ヲ認ムルヲ以テ敢テ序次ヲ追ハス監督委員

調査委員ノ別ナク一堂ニ會シテ七月一日ヨリ最先ニ警察官吏次ニ本廳員次ニ他官衙員ト逐次開始スルコトトシ講師ハ森田、江口ノ兩屬專ラ之ヲ擔當シ訓練ノ方法ハ調査規則調査委員心得等ノ諸般規則ニ就キ一應ノ解釋ヲ爲シ特ニ所帶票記入心得ニ就テハ詳細ナル講話ヲ爲シ終リテ假定ノ問題ヲ與ヘ所帶票ニ記入セシメ一々之ニ評點ヲ附セリ

豫定ニ先ツコト二日即チ八月二十六日ニ至リ事務ノ訓練全ク終リテ告ケシヲ以テ特ニ各員ノ爲臨時戸口調査部主事水科七三郎ニ囑シ調査ノ目的方法等ニ就キ大體ノ講話ヲ請フコトトシ國語學校雨天體操場ヲ借り受ケ全員ヲ二組ニ分チ九月二日ヨリ三日ニ互リ二日間講演會ヲ開設セリ

七 各委員ニ擔當區ヲ命ス

調査事務ノ訓練終了セシヲ以テ各委員ノ擔當區ヲ定メ九月七日附ヲ以テ辭令ヲ交付シ同時ニ各支廳長及直轄各監視區監督警部ヲシテ監督委員ノ事務所ニ充用スヘキ適當ノ場所ヲ調査セシメ其ノ報告ニ依リテ事務所ヲ設置シタリ

八 委員及通譯ノ會同

各委員擔當區ノ決定ト調査委員附通譯ノ配當成ルト共ニ委員及通譯ヲ會シ事務ノ打合ヲ兼テ紹介ヲ爲スノ必要ヲ認メタルヲ以テ全員ヲ臺北ニ在住スルモノト地方ニ在ルモノトノ二組ニ分チ臺北ニ在住スル委員ニ對シテハ九月八日ヨリ同月九日ニ至ル二日間第二小學校ニ於テ會同セシメ地方在住者ニ對シテハ九月十一日書院街武德殿ニ於テ會同セシメ尤モ通譯ハ之ヲ各監督區ニ配當シ調査委員ニ對シテハ監督委員ヲシテ適宜配當セシムルコトトシタルヲ以テ九月十三日各監督委員ノミヲ第二小學校ニ召集シテ引渡ヲ爲シタリ

九 監督委員ニ對スル注意事項

規定ノ訓練ハ既ニ了シタルモ調査上記憶スヘキ事項ニ就テハ常ニ注意ヲ怠ラス時々監督委員ニ向テ通牒セリ

十 戸口調査簿ノ檢査

警察ニ於ケル戸口調査簿ノ整理ハ豫定ノ如ク八月末日迄ニ全部結了ノ旨報告ニ接セシヲ以テ委員部事務員森田、江口ノ兩屬ヲシテ九月五日ヨリ該簿ノ檢査ヲ爲サシメ同月二十日ニ至リ檢査了セリ檢査ノ方

法トシテハ各派出所及之ニ相當スル廳、支廳直轄ノ巡查ニ就キ其ノ擔當簿冊中一冊宛ヲ檢査スルコトトシテ不備ノ點ハ一々符箋ヲ附シテ訂正セシメタリ

十一 調査簿ノ授受及所帶票等ノ配布

戸口調査簿ノ授受ニ就テハ責任ノ分界ヲ極メテ明ニスル爲左記ノ方法ニ依リ先ツ廳長ヨリ戸口調査委員長ニ引渡ヲ爲シタリ

一 廳直轄ノ戸口調査簿ハ各監視區監督警部之ヲ委員部ニ携帶シ一々簿冊ノ紙數ヲ查閱シテ授受ヲ爲スコト

二 各支廳長ニ屬スル戸口調査簿ハ廳長代理トシテ支廳長ヨリ前項ノ手續ニ依リ戸口調査委員長代理ニ引渡スコト

九月二十四日前項ノ手續ニ依リ戸口調査簿ノ授受ヲ了セシヲ以テ之ヲ各調査區毎ニ分綴シ卷首ニ略圖ト調査事項ノ一覽表ヲ添附シ之ニ依リテ住家ノ所在ト調査事項ノ捷覽ニ供ヘ簿冊ニハ悉ク厚紙ヲ附シ表紙ノ中軸ニ戸口調査簿ト記入シ左肩ニ其ノ監督區名及調査區名右方ノ上部ニ調査區域同下部ニ紙數ヲ記入シ綴目ニハ封印ヲ施シ之ヲ各監督區ニ纏メ文庫ニ格納シ勉メテ授受上ノ紛亂ヲ防ケリ

所帶票住家番號票其ノ他ノ印刷物ハ各調査區毎ニ分チ油紙ヲ以テ十分ナル包裝ヲ爲シ之ヲ各監督區毎ニ一括シ之ニ監督委員事務所ノ貼札ヲ添ヘ戸口調査簿ト共ニ又文庫ニ納メタリ

準備全ク成リシヲ以テ九月二十五日本廳所在地擔當ノ監督委員ニハ委員部ニ於テ地方擔當ノ監督委員等ニハ各支廳ニ於テ受領書ヲ徴シ引渡ヲ爲シタリ

所帶票其ノ他印刷物ハ規定ニ依リ配布シタルモ尙萬一不足等ノ場合ヲ慮リ豫備トシテ本廳直轄ノ分ハ委員部及第二第三監視區警察官吏派出所ヘ地方ハ各支廳ヘ各々若干枚ヲ備ヘ置ケリ

十二 旅費規則ノ制定

明治三十八年九月二十日各委員ニ支給スヘキ旅費規則ヲ制定シ尋テ通譯ノ手當等ヲ定ム

十三 調査事務ノ監督

本廳管内ニ於ケル調査事務ハ九月二十八日ヨリ愈々實地ノ行動ヲ始メ各監督委員事務所モ當日ヨリ開設セラレ調査委員心得第七條乃至第八條ノ準備調査ヲ開始スルコトトナリシヲ以テ期ニ先ツコト一日即チ

九月二十七日三市街及士林支廳管内ノ各監督事務所ヲ巡視シ設備ノ整否及準備事務ノ實況ヲ視察セリ  
 實査及整理ニ當リテハ一層ノ注意ヲ以テ事務ノ監督上遺憾ナキヲ期セリ  
 十月一日即チ實査當日ニハ豫備委員中ヨリ二十人ヲ委員部ニ五名ヲ滬尾支廳ニ召集シ補缺ノ準備ヲ爲シ  
 特ニ當日ハ各委員ト委員長トノ照覆ヲ爲ス爲電話掛三名ヲ置クコトトセリ

十四 其ノ他雜件

委員及通譯ニ對シ辭令ヲ交付セシ後一日トシテ異動ヲ見サルコトナク其ノ時々部長ヘ報告シ一面ハ關係  
 者等ヘ通報ヲ爲ササルヘカラス之ヲ一々普通文書ノ取扱ニ依ルトキハ事務ノ敏活ヲ期スル上ニ遺憾少カ  
 ラサルヲ以テ部長ヘノ報告用トシテ異動報告書用紙關係者等ヘノ通報用トシテ通知書ナルモノヲ案出シ  
 又調査ニ際シ委員長トノ照覆等ハ可成電話ニ依ルコトトシ各監督委員ニ本廳備付ノ電話番號票ヲ配布シ  
 タリ

又臺南廳長山形脩人ハ明治三十八年九月左ノ告諭ヲ發シ調査ヲ受クル者ニ注意ヲ與ヘタリ

臺南地方  
委員長ノ  
告諭

臺南廳告諭第二號

臨時臺灣戶口調査ハ來十月一日ヲ以テ施行セラルルコトハ一般民衆ノ浴ク諒知スル所ナラム其ノ目的タ  
 ルヤ既ニ本年八月二日臺灣總督ノ諭告ニ詳ナルヲ以テ今茲ニ贅言セサルモ其ノ目的ヲ貫徹スルニハ調査  
 委員ノ調査ヲシテ最敏活ニ正確ニ之ヲ遂行セシムルニ在リ而シテ民衆ノ義務モ亦茲ニ在ルヤ多言ヲ俟タ  
 ス抑々本調査ハ動モスレハ錯誤ノ生シ易キ事業ニシテ一步ヲ過マタハ其ノ害ノ及フ所猶本廳下ノミニ止  
 マラサルナリ故ニ其ノ之ヲシテ完璧ヲ得セシムルト否トハ民衆ニ於テ其ノ義務ヲ盡スト盡ササルトニ賴  
 テ分タル一般民衆深ク此ノ意ヲ體シ調査ノ完璧ヲ得セシムコトヲ望ム今茲ニ其ノ盡ササルヘカラサル  
 義務ノ梗概ヲ左ニ掲ク

- 一 調査委員ハ十月一日日出ヨリ同月三日マテノ内ニ毎戸ニ就キ調査スルヲ以テ其ノ期間調査ノ濟マ  
 サル間ハ家人ノ可成の外出ヲ爲ササルコト
- 但シ止ムヲ得ス外出スルトキハ調査ニ對シ答辯シ得ヘキモノヲ殘シ置クコト

地方委員部訓  
練ノ遲速

- 二 調査委員ノ尋問ニ對シテハ最迅速ニ且明瞭ニ答辯シ徒ラニ時間ヲ要セサル様注意スヘキコト
- 三 不在者其ノ他ノ來客宿泊者等ニ就テハ氏名、生年月日、職業、行先地、常住地等ヲ書留メ置キ遺  
 漏ナク且錯誤ナキ様注意スヘキコト

臺南廳長 山 形 脩 人

明治三十八年九月二十二日

尙地方ニ於ケル各委員訓練指導ノ遲速ヲ舉クレハ左ノ如シ

臺	北	八	月	二	十	六	日
基	隆	八	月	三	十	一	日
宜	蘭	八	月	三	十	一	日
深	坑	八	月	十	二	三	日
桃	園	九	月	十	二	四	日
新	竹	八	月	二	十	四	日
苗	栗	八	月	十	五	日	
臺	中	八	月	十	五	日	
彰	化	九	月	十	五	日	
南	投	九	月	十	一	日	
斗	六	七	月	十	五	日	
嘉	義	八	月	二	十	三	日
鹽	水	九	月	一	日		
臺	南	九	月	十	三	日	
蕃	寮	九	月	十	三	日	
鳳	山	九	月	十	二	日	

結 了 月 日





被調査者ノ實況

ヲ爲シタルモノニ在リテハ單ニ其ノ異動分子ヲ詳查セハ他ハ前日ト異ナラス殊ニ人民ハ極メテ靜肅ニ調査ヲ受ケタルヲ以テ各地舊正月元日ノ如クナリシ唯、人民ノ一部ニ一種ノ誤解アリテ原籍地ニ於テ調査ヲ受クルニ非サレハ本島人ニ非スト認メラレムコトヲ恐レ官憲又ハ保甲ノ説諭ニ服セス輕舉歸來シタルモノアリタルハ遺憾ノ現象トス然レトモ大勢上ヨリ通觀スレハ其ノ少數ナルハ特ニ此ノ種ノ調査ヲ爲シタルモノノ中ニ就キ多數ノ異動アリト認メタル鳳山廳ニ徵スルモ決シテ大體ニ影響ナキヲ證スルニ足ル是レ偶々以テ本島人カ如何ニ本調査ヲ重要視シタルヤヲ察スヘシ殊ニ保正甲長ヲ始トシ各戸皆調査委員ヲ歡迎シテ誠實ノ答ヲ爲シ速ニ查了セラレムコトヲ切望シ其ノ後レムコトヲ憂フル者アルニ至リテハ寧ロ愛スヘキニ堪ヘス故ヲ以テ本調査ニ際シ虛偽ノ答申ヲ爲シ府令ノ制裁ヲ受ケタルモノ全島中僅ニ二人アリシノミ

障 碍

事情此ノ如キヲ以テ實查ハ概ネ豫定以上ノ速度ヲ以テ進行シタリ但基隆、宜蘭及深坑各廳方面ニ降雨アリシ爲調査上稍、困難ヲ感セシト蕃薯寮廳ノ一部ニ蕃害アリシ爲事變ノ場合ニ處スルノ除外例ヲ適用シタリ當時我カ國ハ露國ト交戰中ナルニ拘ラス此ノ大事業ヲ斷行シタルニ調査ノ當日ニ至リ本島ニ於テハ一面文明的ノ國勢調査ヲ施行スルト同時ニ一面蕃人ヲ擊退シ而シテ後全部ノ調査ヲ結了シタルハ實ニ好成绩ト謂ハサルヘカラス左ニ各地方ニ於ケル調査ノ進度ヲ示サム

調査ノ進度

完了月日	完	了	區	域
	普	通	調	查
	特	別	調	查

嘉義地方委員長ノ報告

今地方ニ於ケル實地調査ノ一端ヲ示サムカ爲嘉義廳戶口調査委員長岡田信興ノ報告ヲ左ニ掲ク

十一月一日	阿祿、臺東、澎湖各廳	臺北、新竹、基隆、臺中、臺南、嘉義、鳳山、宜蘭、臺東、澎湖各廳
二日	深坑、桃園、斗六、鹽水港、臺南、鳳山、恒春各廳	醫院、臺北、臺南各監獄及陸海軍隊
三日	臺北、基隆、宜蘭、新竹、苗栗、臺中、彰化、南投、嘉義各廳	臺中監獄
二十五日	蕃薯寮廳 大部分ハ三日ニ了リタルモ第十及第十一監督區ニ蕃害アリシ爲九日ニ至リ第十一監督區第九調查區ノ外查了シ同調査區モ二十五日ニ完了セリ	

實地調査ノ第一日タル十月一日ハ朝來天氣晴朗ニシテ風塵ナシ各調査委員ハ前夜來其ノ受持區内便宜ノ地ニ出張シ居リ黎明ヲ埃テ保甲役員又ハ街庄長ヲ先導トシ豫定ノ線路ニ依リ實查ニ著手シ各戸各人ニ就キ戶口調査簿ト對照氏名續柄種族、男女別、生年月日等ノ各事項ヲ慎重ニ尋問シ甲家ヨリ乙家、乙ヨリ丙ト順次調査ノ步ヲ進ム各戸人民ハ到ル處疾ニ調査委員ノ來著ヲ待受ケ慎重ノ敬意ヲ表シテ之ヲ迎ヘ調査委員ノ問ニ對シ敏捷ニ應答スル等人民自ラ調査ノ便ヲ計ルコトニ注意セシ爲何等ノ支障阻碍ナク其ノ進行豫想外ニ抄取り人家密接セル市街地ノ如キハ初一日ヲ以テ大部分ノ實查ヲ了ヘ庄村部落ニシテ調査區域ノ稍、廣濶ナル地方ハ第二日ニ涉リ蕃地又ハ蕃界附近ノ調査區ト雖第三日ノ午前中ニハ廳下全部ノ調査完了ヲ告クルニ至レリ此ノ間各監督委員ハ最敏活ノ行動ト周到ノ注意ヲ取り各調査區ニ涉リ實查ノ適否ヲ監督勵ニ努メタルノ結果最圓滿ニ實查ノ終了ヲ見ルニ至レリ蓋シ這回ノ調査ハ豫定計畫ノ通遂行サレ全廳各區共調査定刻ニ於ケル正確ナル人口調査ノ實ヲ失ハサリシハ本委員長ノ固ク信スル所ナリ

### 第四章 整理

要旨

茲ニ謂フ所ノ整理トハ調査委員ニ於テ實地調査ノ後七日以内ニ所帶票ニ所定ノ事項ヲ記入照查シ該所帶票ニ依リ調査委員要計表ヲ作成シ共ニ其ノ完備ヲ認メタル上當該監督委員ニ提出シ監督委員ハ調査委員ノ整理事務ヲ監督シ且其ノ調査記入シタル所帶票及要計表ヲ檢査シ不備ノ點アルトキハ之ヲ調査委員ニ訂正セシメ然ル後監督委員要計表ヲ作成シ明治三十八年十月二十日迄ニ戶口調査委員長ヲ經由シテ之ヲ臨時臺灣戶口調查部長ニ提出シ調査部ニ於テ之ヲ檢査シテ不備ヲ發見シタルトキハ當該責任者ヲシテ訂正セシムル迄ノ事務ヲ總稱ス

故ニ茲ニ所謂整理ノ事務ハ實查ノ終了ト共ニ始マリ訂正ノ完了ト共ニ終ルモノトス且又監督委員ト調査委員間連絡上ノ必要ヨリ概テ監督委員事務所ニ於テ其ノ事務ヲ取扱ヒ早出遲退以テ其ノ整理ニ從事シ中ニハ徹宵シテ其ノ進程ヲ早メタル等各地皆熱心ニ從事シタルハ多トスル所ナリ各廳ヨリ所帶票及要計表ノ最終提出期及本部ニ於テ之カ最終受理期ハ左ノ如シ

所帶票及要計表提出及受理月日

官	衛	最終提出月日	最終受理月日
普	基隆廳	十月十八日	十月十九日
臺	臺北廳	十月十三日	十月十三日

所帶票及要計表提出及受理

區查調別特	區 查 調 通																							
	臺南醫院	臺中醫院	基隆醫院	新竹醫院	臺北醫院	澎湖廳	臺東廳	恒春廳	阿緞廳	鳳山廳	蕃薯寮廳	臺南廳	鹽水港廳	嘉義廳	斗六廳	南投廳	彰化廳	臺中廳	苗栗廳	新竹廳	桃園廳	深坑廳	宜蘭廳	
十月二日	十月一日	十月一日	十月四日	十月六日	十月二十一日	十月二十四日	十月二十六日	十月二十七日	十月二十五日	十月二十一日	十月二十二日	十月二十七日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十一月九日
十月二日	十月一日	十月一日	十月四日	十月六日	十月二十三日	十月二十六日	十月二十七日	十月二十七日	十月二十三日	十月二十三日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十九日	十一月十一日

官 衙	最終提出月日		最終受理月日	
	月	日	月	日
嘉義醫院	十	一	十	一
鳳山醫院	十	一	十	一
宜蘭醫院	十	二	十	一
臺東醫院	十	一	十	一
澎湖醫院	十	五	十	五
臺北監獄	十	六	十	六
臺中監獄	十	二	十	二
臺南監獄	十	二	十	二
陸軍	十	十三	十	十三
海軍	十	一	十	九

本表最終提出月日トハ各廳監督委員ヨリ戸口調査委員長ヲ經テ最終ニ戸口調査部ニ提出シタル月日又最終受理月日トハ前記ノモノヲ最終ニ戸口調査部ニ於テ受理シタル月日トス

特別調査區設置ノ理由  
 監獄及軍隊  
 領事館

右醫院監獄及軍隊ハ之ヲ本部長ニ直屬シ特別調査區ト爲セリ其ノ事由左ノ如シ  
 一 醫院ニハ重病傷者ヲ收容スルヲ以テ醫院長ニ於テ適任者ヲ擧ケテ調査委員ト爲シ且患者安靜ノ時ニ調査スルヲ妥當ト認メタルコト  
 一 監獄及軍隊ハ別乾坤ナルヲ以テ外來調査委員ニ於テ調査ヲ爲スニ困難ノ事情ナシトセス依リテ監獄長又ハ軍隊長指揮ノ下ニ調査セシムルノ得策ナルヲ認メタルコト  
 又領事館ハ委員長ノ管理ニ屬スルモ普通調査委員ヲ以テスルトキハ言語事情等ノ能ク疏

戸口數

通セサル爲進行ヲ阻害スルノ虞ナキヲ保セス依リテ外國語ニ熟達シタル外事係ノ者ニ特命シテ之ヲ擔任セシムルノ自他便益ナルヲ認メタルコト  
 今要計表ニ依リテ得タル各廳ノ戸口ヲ表示スレハ左ノ如シ

戸口表

廳	住 居 數			所 帶 數			現 在 人 口			常 住 人 口	
	住家	船舶	其ノ他	計	計	計	男	女	計	計	
臺北	一九七五〇	二六	二	一九九七八	三三三	五五五二四	二五三一九	一三三九〇	二九〇一〇	一三五四四	二一七九〇
基隆	一七七六五	九	〇	一七八八四	一〇〇	三三三三三	一六四五一	五〇九二	一七五五二	一三三三三	一三三三三
宜蘭	一八三六一	二	〇	一八三八五	四	二二二二二	一〇九七一	五〇三〇	一一二七九	六〇八八	一〇〇三三
深坑	六六六三	三	〇	六六九六	三	八七三三	三九七九	二〇三〇	四〇一〇	二〇八八	四九六〇
桃園	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
新竹	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
苗栗	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
彰化	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
南投	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
嘉義	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
臺南	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
臺中	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
臺東	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
澎湖	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
臺北監獄	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
臺中監獄	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
臺南監獄	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
陸軍	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三
海軍	一一一〇九	一	〇	一一一〇九	一〇	一〇一〇一	五九七九	二〇三〇	一〇一〇一	二〇八八	一〇〇三三

總計	澎湖	臺東	恒春	阿緞	居住數			所帶數			現在人口		常住人口		
					住家	船舶	其ノ他	本來所帶	准所帶	計	男	女	計	男	女
四六六四九	八、五〇〇	九、〇〇二	二、九七八	二、九八八	七	五	二	三、二九四	三、四〇〇	六、六九四	三、三〇三	三、三九一	六、六九四	三、三〇三	三、三九一
七七七	五	九	五	三	二	二	二	一、一〇四	九、一九九	一〇、一〇三	一〇、二〇七	一〇、三一一	二〇、五一八	一〇、二〇七	一〇、三一一
八七	二	九、〇〇〇	二、九八三	二、九八九	四	二	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
四六七三三	八、五七八	九、〇〇〇	二、九八三	二、九八九	五、八二二	二、八	二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
五八二二一	一、一〇四	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
二、九八四	一、一〇四	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
五八、五五五	一、一〇四	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
一、六〇〇	二、七四五	三、三六九	一、〇〇六	一、〇〇二	八、六三〇	二、八	二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
二、九八四	二、八	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
五八、五五五	一、一〇四	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
一、六〇〇	二、七四五	三、三六九	一、〇〇六	一、〇〇二	八、六三〇	二、八	二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
二、九八四	二、八	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
五八、五五五	一、一〇四	九、一九九	三、四〇七	三、四〇一	二、九八四	二、八	二	五、八二二	二、八	八、六三〇	八、六三〇	八、六三〇	一七、二六〇	八、六三〇	八、六三〇
一、六〇〇	二、七四五	三、三六九	一、〇〇六	一、〇〇二	八、六三〇	二、八	二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

又誤謬脱落等不備件數ヲ訂正報告セシメタル遲速ハ検査著手ノ早晚交通ノ便否訂正ノ多少ニ依リ同カラスト雖各廳ニ對スル最終ノ照會及其ノ回答ヲ表示スレハ左ノ如シ

廳	最終照會發送年月日	最終回答到達年月日
臺北	明治三十八年十二月八日	明治三十九年一月四日
基隆	同	同
宜蘭	同	同
花蓮	同	同
彰化	同	同
南投	同	同
斗六	同	同
苗栗	同	同
新竹	同	同
桃園	同	同
深坑	同	同
宜蘭	同	同
基隆	同	同
宜蘭	同	同
花蓮	同	同
彰化	同	同
南投	同	同
斗六	同	同

彰化地方委員  
長ノ報告

地方ニ於ケル整理事務即チ所帶票及要計表作成ニ關スル一斑ヲ示サムカ爲彰化廳戶口調査委員長加藤尙志ノ報告ヲ左ニ掲ク

廳	調查員	所帶票記入數	平均枚數	調査日	報告日
臺南	...	...	...	...	...
嘉義	...	...	...	...	...
鹽水	...	...	...	...	...
臺南	...	...	...	...	...
蕃薯寮	...	...	...	...	...
鳳山	...	...	...	...	...
阿緞	...	...	...	...	...
恒春	...	...	...	...	...
臺東	...	...	...	...	...
澎湖	...	...	...	...	...
其他ノ諸官衙	...	...	...	...	...

- (イ) 各調査員ノ所帶票記入數ハ一人一日平均三十枚乃至四十枚位ナリシモ中ニハ一人一日六十枚以上ノ記入ヲ爲シタルモノアリ而シテ後者ニ屬スルモノハ記入事項粗略ニ流レタル爲検査ノ際數多書替ヲ爲サシムルノ必要ヲ生シ最終ニ至リテ他ヨリ却テ後レヲ取リタル有様ナリシカ九日ニ至リ全部ノ記入整理ヲ見ルニ至レリ
- (ロ) 所帶票検査ハ左ノ方法ニ依リタリ
  - 第一回ハ各調査委員所帶票ヲ記入スルト同時ニ其ノ記入済ニ係ルモノヲ各監督委員ニ於テ一々之ヲ檢閲シ一日(晝夜十三時間位)ニ百枚乃至百五十枚ヲ検査シタリ
  - 第二回ハ各監督補助委員ヲシテ之ヲ檢セシメ第三回ハ各調査員要計表ヲ調製後監督委員ニ於テ検査シタリ而シテ第一回ノ監督委員検査ハ殊ニ精密ニ検査シ記入違等アレハ直ニ訂正ヲ命スル等嚴密ニ之ヲ行ハシメタリ
- 三 検査中錯誤シタルモノノ重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

検査手續

(イ)(ロ)(ハ)(ニ) 所帯主ト家族ノ續柄ヲ誤リタルモノ  
 (第八欄(本業名)第九欄(本業ノ地位)ノ記入ニ於テ誤リタルモノ)  
 第三欄(種族)ト第七欄(身分)ト往々活字ヲ以テ捺シタル爲轉倒シタルモノ  
 以上ノ外所帯主不在ノ場合又ハ不動文字ニ付活字ヲ以テ捺シタル箇所或ハ合計欄其ノ他ノ箇所ニ於テ往  
 往脱漏又ハ誤記等アルヲ發見シタリ

地方部ニ於ケル所帯票及要計表ノ検査手續ハ左記ノ如ク規定シタリ而シテ中央部ニ於ケル  
 検査モ亦此ノ手續ヲ準用セリ故ニ同一標準ニ依リテ少クモ二回ノ検査ヲ爲シタルニ同シ

所帯票及要計表検査手續 (明治三十八年七月 戸第八六號通達)

第一 所帯票検査手續

一般ノ注意

- 一 監督委員又ハ監督補助委員ニ於テ所帯票ヲ検査スルトキハ先ツ左記ノ注意ヲ爲スヘシ
  - 二 記入ノ文字明確ナリヤ
  - 三 略字又ハ「同」ノ字ヲ記入シタルモノナキヤ
  - 四 記入ノ事項ナキ欄ニ「」ノ填記アリヤ
  - 五 成ルヘク主欄ニ依テ検査スルヲ要ス然レトモ検査ノ順序トシテ跡戻セサルヲ善シトスルカ故  
 ニ主欄ノ検査ハ前ノ關係欄ニ於テ検査済トナルコトアリ此ノ場合ニ於テハ交互ニ重ノ検査ヲ  
 爲スニ及ハス
  - 六 各欄對照検査ノ證トシテ當該事項ニ鉛筆(黑色ニ限ル)ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ
  - 七 調査委員兼監督委員ノ調査シタル所帯票ハ監督補助委員ニ於テ之ヲ検査スヘシ
- 欄内ノ検査  
 現在者ノ部

第一欄 氏名

- 一 本欄ニ「」ヲ填記スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第二欄第三欄第四欄第五欄及第六欄ト對照ヲ要ス  
 但シ歸化人又ハ混血兒ニ在リテハ第三欄對照ノ外尙第二十欄又ハ第二十一欄ヲ對照スヘ  
 シ
  - 三 第二欄トノ對照  
 男子ノ名ニシテ第二欄ニ妻、長女等女性固有ノ續柄、女子ノ名ニシテ父、次男等男性固有ノ續柄  
 ノ記入ナキヤ
  - 四 第三欄トノ對照  
 婦人ノ名ヲ片假名ニテ記入シタルモノ第三欄ニ内トアリヤ  
 氏名ノ間「氏」ノ字ヲ挿入シタルモノ第三欄ニ福、廣、漢、熟又ハ外(第二十一欄ニ清ト)トアリヤ  
 氏名トモ片假名ヲ以テ記入シタルモノ第三欄ニ生又ハ外トアリヤ  
 但シ清國人又ハ韓國人ニシテ漢文字ヲ以テ記入シタルモノハ此ノ限リニアラス
  - 五 第四欄及第五欄トノ對照  
 男子ノ名ニシテ第五欄ニ女、女子ノ名ニシテ第四欄ニ男ト記入ナキヤ  
 片假名ヲ以テ名ヲ記入シ又ハ氏名ノ間「氏」ノ字ヲ挿入シタルモノ第五欄ニ女トアリヤ
  - 六 第六欄トノ對照  
 「名」ヲ附セス「ト」アルモノ出生後多クノ日數ヲ經過シタルモノナキヤ
- 第二欄 所帯主トノ續柄又ハ所帯主若ハ所帯トノ關係
- 一 本欄ニ「」ヲ填記スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第一欄對照ノ外尙第四欄第五欄第六欄第七欄第八欄第二十欄第二十一欄第二十三欄

- 三 第四欄及第五欄トノ對照  
及不在者ノ欄並欄外准所帶ノ種類及名稱、住家ノ有様(所帶主)ト對照ヲ要ス  
本欄ニ父、兄、招夫等男性固有ノ續柄ヲ記入シタルモノ第四欄ニ男ト記入アリヤ  
本欄ニ母、妻、妾等女性固有ノ續柄ヲ記入シタルモノ第五欄ニ女ト記入アリヤ
- 四 第六欄トノ對照  
父ノ年、子ノ年ヨリ少ナク弟ノ年、兄ノ年ヨリ多キ等ノコトナキヤ
- 五 第七欄トノ對照  
本欄ニ招夫、妻、妾、媳婦ト記入シタルモノ第七欄ニ配ト記入アリヤ
- 六 第八欄トノ對照  
本欄ニ所帶主ト記入シタルモノ第八欄ニ職業名又ハ生計ノ途ノ記入アリヤ  
來客、船客、旅客等ト記入シタルモノニシテ第八欄ニ家族、同居人、學生等トアルモノハ其ノ養フ者ノ職業名又ハ生計ノ途ノ附記アリヤ
- 七 第二十欄トノ對照  
本欄ニ在ル内地人ニシテ所帶主又ハ父、母、妻、子等家族ノ續柄アルモノ第二十欄ニ記入ノ原籍地皆ナ同一ナリヤ
- 八 第二十一欄トノ對照  
本欄ニ在ル外國人ニシテ所帶主又ハ父、母、妻、子等家族ノ續柄アルモノ第二十一欄ニ記入ノ國籍皆ナ同一ナリヤ
- 九 第二十三欄トノ對照  
本欄ニ來客、旅客、船客等一時ノ現在者タルコトヲ表明スル關係ヲ記入シタルモノ第二十三欄ニ常住地ノ記入アリヤ

- 十 不在者欄トノ對照  
本欄ニ所帶主トノ續柄又ハ關係ノ記入アリテ所帶主ノ記入ナキトキ不在者所帶主ノ欄ニ記入アリヤ
  - 十一 欄外准所帶ノ種類及名稱トノ對照  
本欄ニ所帶トノ關係(例之ハ旅客、船客、下宿人等)ヲ記入シタルトキハ准所帶ノ種類及名稱欄ニ記入アリヤ
  - 十二 欄外住家ノ有様トノ對照  
本欄ニ所帶主ノ記入アリタルトキハ住家ノ有様欄ニ記入アリヤ
- 第三欄 種族
- 一 本欄ニ「」ヲ填記スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第一欄ト對照ノ外尙第十七欄第十八欄第十九欄第二十欄第二十一欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス  
但シ歸化人又ハ混血兒ニ在リテハ本欄ニ記入ノ種族別ニ拘ラス第二十欄第二十一欄ニ注意スヘシ
  - 三 第十七欄トノ對照  
本欄ニ内又ハ外(第二十一欄ニ清ト)ト記入シタルモノ第十七欄ニ「阿」ト記入ナキヤ
  - 四 第十八欄トノ對照  
本欄ニ内又ハ外(第二十一欄ニ清ト)ト記入シタルモノ第十八欄ニ「系」又ハ「解」ト記入ナキヤ

- 五 第十九欄トノ對照  
本欄ニ内ト記入シタルモノ第十九欄ニ出生地ノ記入アリヤ
  - 六 第二十欄トノ對照  
本欄ニ内ト記入シタルモノ第二十欄ニ原籍ノ記入アリヤ
  - 七 第二十一欄トノ對照  
本欄ニ外ト記入シタルモノ第二十一欄ニ國籍ノ記入アリヤ  
但シ歸化人又ハ混血兒ハ此ノ限リニアラス
  - 八 第二十二欄トノ對照  
本欄ニ内ト記入シタルモノ第二十二欄ニ渡臺ノ年ノ記入アリヤ  
但シ第十九欄記入ノ出生地本島内ニ在リテ引續キ在住ノ者、領臺以前ノ渡臺者ニシテ引續  
キ在住ノ者及常住地本島外ニアル者即チ旅行中ノ者ニハ渡臺ノ年ナシ
- 第四欄 男
- 一 本欄ニハ「男」ノ外記入スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第一欄第二欄ト對照ノ外尙第五欄第七欄第八欄第九欄第十欄第十一欄及第十八欄ト  
對照ヲ要ス
  - 三 第五欄トノ對照  
本欄ニ文字ノ記入アリタルトキ第五欄三「一」ノ填記アリヤ
  - 四 第七欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第七欄ニ寡トナキヤ
  - 五 第八欄第九欄第十欄及第十一欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第八欄第九欄第十欄及第十一欄ニ產婆、下女等女性特有ノ職業名又ハ

- 地位ノ記入ナキヤ
  - 六 第十八欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第十八欄三「系」又ハ「解」トノ記入ナキヤ
- 第五欄 女
- 一 本欄ニハ「女」ノ外記入スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第一欄第二欄ト對照ノ外尙第四欄第七欄第八欄第九欄第十欄及第十一欄ト對照ヲ要  
ス
  - 三 第四欄トノ對照  
本欄ニ文字ノ記入アリタルトキハ第四欄三「一」ノ填記アリヤ
  - 四 第七欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第七欄ニ寡トナキヤ
  - 五 第八欄第九欄第十欄及第十一欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第八欄第九欄第十欄及第十一欄ニ下男、作男等男性特有ノ職業名又ハ  
地位ノ記入ナキヤ
- 第六欄 出生ノ年月日
- 一 本欄ニハ「一」ヲ填記スルコトナシ
  - 二 年號月日ヲ記入シタルモノ其ノ年號ニ相違ナキヤ(例之ハ天保十五年、安政七年、元治二年ト云  
フカ如キモノナキヤ)(年齡表參照)
  - 三 年齡ノ上ニ十二支ヲ冠シタルモノ其ノ十二支ト年齡ト符合スルヤ(年齡表參照)
  - 四 本欄ハ第一欄第二欄ト對照ノ外尙第七欄第八欄第九欄第十欄第十一欄第十二欄第十四欄第  
十七欄第二十一欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス



- 五 第七欄トノ對照  
年少者ニシテ第七欄ニ配、踪又ハ寡等ト記入ナキヤ
  - 六 第八欄第九欄第十欄及第十一欄トノ對照  
年少者ニシテ第八欄第九欄第十欄第十一欄ニ相當ノ年齢、勞力ヲ要スル職業名又ハ地位ノ記入ナキヤ
  - 七 第十二欄トノ對照  
發音時期ニ達セサルモノニシテ第十二欄ニ記入ノ常用語母ノ常用語ト相違ナキヤ
  - 八 第十四欄トノ對照  
相當年齢ニ達セサルモノニシテ第十四欄ニ「讀書」讀「又」書ト記入ナキヤ
  - 九 第十七欄トノ對照  
阿片烟吸食特許年齡(二十歳)ニ達セサルモノニシテ第十七欄ニ「阿」ト記入ナキヤ
  - 十 第二十一欄トノ對照  
外國ノ年號月日ヲ記入シタルモノ第二十一欄ニ國籍ノ記入アリヤ
  - 十一 第二十二欄トノ對照  
出生ノ年月日ニシテ第二十二欄ニ記入セル渡臺ノ年ヨリ遅キモノナキヤ
- 第七欄 緣事上ノ身分
- 一 本欄ニ「一」ヲ填記スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第二欄第四欄第五欄第六欄ト對照ノ外尙第十八欄ト對照ヲ要ス
  - 三 第十八欄トノ對照  
本欄ニ「一」ト記入シタルモノ第十八欄(本島人、清國人)ニ「系」又ハ「解」ト記入ナキヤ
- 第八欄 本業ノ業名

- 一 本欄ニ記入ノ職業名ハ其ノ實ヲ代表スルニ足ル小分類以下ノ適切ナル稱呼ナルヤ(例之ハ漢然商業、工業、雜業等ト記入ナキヤ)
  - 二 本欄ハ第二欄第四欄第五欄第六欄ト對照ノ外尙第九欄第十欄第十四欄及第十七欄ト對照ヲ要ス
  - 三 第九欄トノ對照  
在職文武官、准官吏及本業ナキ者ノ外本欄ニ記入シタル職業名ニ對スル地位ヲ第九欄ニ記入アリヤ
  - 四 第十欄トノ對照  
本欄ニ在職文武官、准官吏及本業ナキ者トシテ記入シタルモノ第十欄ニ副業名ノ記入ナキヤ
  - 五 第十四欄トノ對照  
本欄ニ記入シタル職業名ニシテ官吏、准官吏、學生其ノ他相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スルモノナルトキ第十四欄ニ「一」ヲ填記ナキヤ
  - 六 第十七欄トノ對照  
本欄ニ記入シタル官職名(例之ハ巡查補ノ如キ阿片烟吸食ヲ許サレサルモノ)ニシテ第十七欄ニ「阿」ト記入ナキヤ
- 第九欄 本業ニ對スル地位
- 一 本欄ニハ第八欄ニ記入シタル職業名ニ對スル地位ノ外記入スルコトナシ
  - 二 本欄記入ノ地位ハ其ノ職業主ナルカ役員ナルカ勞動者ナルカ即チ職業ノ主宰者ナルカ同シク雇人ニテモ人ヲ使フ雇人ナルカ人ニ使ハルル雇人ナルカ等ヲ表明スルニ足ル適切ノ稱呼ナルヤ
  - 三 本欄ハ第二欄第四欄第五欄第六欄第八欄ト對照ノ外尙第十四欄ト對照ヲ要ス

第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル地位ニシテ相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スヘキモノナルトキ第十四欄ニ「」ノ填記ナキヤ

第十欄 副業ノ業名

- 一 本欄ニハ第八欄ニ職業名第九欄ニ其ノ地位ヲ記入シタルモノノ外記入スルコトナシ
- 二 本欄記入ノ職業名ハ其ノ實ヲ代表スルニ足ル小分類以下ノ適切ナル稱呼ナルヤ(例之ハ漠然商業、工業、雜業等ト記入ナキヤ)

- 三 本欄ハ第四欄第五欄第六欄第八欄第九欄ト對照ノ外尙第十一欄第十四欄ト對照ヲ要ス
- 四 第十一欄トノ對照

第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル職業名ニシテ相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スヘキモノナルトキ第十四欄ニ「」ノ填記ナキヤ

第十一欄 副業ニ對スル地位

- 一 第十欄ニ記入シタルモノニシテ本欄ニ「」ヲ填記スルコトナシ
- 二 本欄記入ノ地位ハ其ノ職業主ナルカ役員ナルカ勞動者ナルカ即チ職業ノ主宰者ナルカ同シク雇人ニテモ人ヲ使フ雇人ナルカ、人ニ使ハルル雇人ナルカ等ヲ表明スルニ足ル適切ノ稱呼ナルヤ

- 三 本欄ハ第四欄第五欄第六欄第十欄ト對照ノ外尙第十四欄トノ對照ヲ要ス
- 四 第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル地位ニシテ相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スヘキモノナルトキ第十四欄ニ「」ノ

填記ナキヤ

第十二欄 常用語

- 一 本欄ニハ第十五欄ニ雙啞トアルモノニアラサレハ「」ヲ填記スルコトナシ
- 二 本欄記入ノ常用語ハ唯一種ニ限ル
- 三 本欄ハ第六欄ト對照ノ外尙第十五欄トノ對照ヲ要ス
- 四 第十五欄トノ對照

本欄ニ常用語ヲ記入シタルモノ第十五欄ニ雙啞ト記入ナキヤ但シ雙ニシテ啞ニ至ラサルモノヲ除ク

第十三欄 常用以外ノ語

- 一 常用語以外ニ二以上ノ語ヲ話スモノアルトキハ本欄ニ二種以上ノ語ヲ記入スルヲ要ス
- 二 本欄ニハ第十二欄ニ記入シタルモノニアラサレハ記入スルコトナシ
- 三 本欄ハ第六欄及第十二欄ト對照ヲ要ス

第六欄トノ對照

發音時期ニ達セサル幼者ニシテ本欄ニ何等カノ記入ナキヤ

第十二欄トノ對照

第十四欄 讀ミ書キノ程度

- 一 本欄ハ第六欄第八欄第九欄第十欄第十一欄ト對照ノ外尙第十五欄ト對照ヲ要ス
  - 二 第十五欄トノ對照
- 本欄ニ讀ミ書ト記入シタルモノ第十五欄ニ「盲及白痴」等ト記入スルノ類ナキヤ

第十五欄 不具ノ種類

- 一 本欄ニハ雙啞、盲、白痴、瘋癲ノ外記入スルコトナシ
  - 二 本欄ハ第十二欄第十四欄ト對照ノ外尙第八欄第九欄及第十六欄ト對照ヲ要ス
  - 三 第八欄及第九欄トノ對照  
本欄ニ記入シタル不具者ノ從事シ能ハサル職業名ヲ第八欄又ハ第九欄ニ記入ナキヤ
  - 四 第十六欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第十六欄ニ不具ノ原因ノ記入アリヤ
- 第十六欄 不具ノ原因
- 一 本欄ニハ生、疾又ハ傷ト記入アリヤ
  - 二 本欄ハ第十五欄ト對照ヲ要ス
  - 三 第十五欄トノ對照  
第十五欄ニ記入シタル二種以上ノ不具ニ對シテハ各別ニ其ノ原因ノ記入アリヤ
- 第十七欄 阿片煙吸食者
- 一 本欄ハ第三欄第六欄第八欄ト對照ノ外尙第二十一欄ト對照ヲ要ス  
但シ歸化人、混血兒ニ在リテハ尙第二十欄ト對照ヲ要ス
  - 二 第二十一欄トノ對照  
本欄ニ「阿」ト記入シタルモノ第二十一欄ニ清トアリヤ
- 第十八欄 纏足
- 一 本欄ハ第三欄第四欄第七欄ト對照ノ外尙第五欄第二十欄及第二十一欄ト對照ヲ要ス
  - 二 第五欄トノ對照  
本欄ニ「糸」又ハ「解」ト記入シタルモノ第五欄ニ女ト記入アリヤ
  - 三 第二十欄トノ對照

- 四 第二十一欄トノ對照  
本欄ニ「糸」又ハ「解」ト記入シタルモノ第二十欄ニ原籍ノ記入ナキヤ
- 第十九欄 出生地
- 一 本欄ハ第三欄ト對照ノ外尙第二十欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス
  - 二 第二十欄トノ對照  
本欄ニ出生地ヲ記入シタルモノ第二十欄ニ原籍ノ記入アリヤ
  - 三 第二十二欄トノ對照  
本欄ニ出生地ヲ記入シタルモノ第二十二欄ニ渡臺ノ年ノ記入アリヤ  
但シ出生地本島内ニ在リテ引續キ在住ノ者、領臺前ノ渡臺者ニシテ引續キ在住ノ者及常住地本島外ニアル者即チ旅行中ノ者ニハ渡臺ノ年ナシ
- 第二十欄 原籍
- 一 本欄ハ第一欄第二欄第三欄第十七欄第十八欄第十九欄ト對照ノ外尙第二十一欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス
  - 二 第二十一欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第二十一欄ニ「」ノ填記アリヤ
  - 三 第二十二欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第二十二欄ニ渡臺ノ年ノ記入アリヤ  
但シ第十九欄ニ記入シタル出生地本島内ニ在リテ引續キ在住ノ者、領臺前ノ渡臺者ニシテ引續キ在住ノモノ及常住地本島外ニアル者即チ旅行中ノ者ニハ渡臺ノ年ナシ
- 第二十一欄 國籍

一 本欄ハ第二欄第三欄第六欄第十七欄第十八欄第二十欄ト對照ノ外尙第二十二欄ト對照ヲ要ス

二 第二十二欄トノ對照  
本欄ニ記入シタルモノ第二十二欄ニ「」ノ填記アリヤ

第二十二欄 渡臺ノ年

一 本欄ニ明治二十八年以前ノ年號記入ナキヤ

二 本欄ハ第三欄第六欄第十九欄第二十欄第二十一欄ト對照ノ外尙第二十三欄ト對照ヲ要ス

三 第二十三欄トノ對照  
本欄ニ渡臺ノ年ヲ記入シタルモノ第二十三欄ノ常住地本島外ニ在ルモノナキヤ

第二十三欄 常住地

一 本欄ハ第二欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス

二 常住者ノ現在者ニシテ本欄ニ常住地ノ記入ナキヤ

男女合計

一 本欄ハ各所帶票毎ニ記入アリヤ

二 第四欄ニ記シタル男ノ字ノ數ト合計男ノ欄ノ數ト符合スルヤ

三 第五欄ニ記シタル女ノ字ノ數ト合計女ノ欄ノ數ト符合スルヤ

四 男女ヲ合シタル數ハ順番號最終ノ數ト符合スルヤ

男女總計

一 本欄ハ一所帶ニ所帶票二枚以上ヲ使用シタル場合ニ於テ最終ノ所帶票ノミニ記入シ其ノ他ノ所帶票ニ「」ノ填記アリヤ(欄外所帶票番號ノ欄括弧内ノ枚數及括弧ノ下對照)

二 本欄男總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票合計男ノ欄ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

三 本欄女總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票合計女ノ欄ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

四 男女ヲ合シタル總數ハ最終ノ所帶票順番號ノ終リノ數ニ其ノ他ノ所帶票ノ枚數ニ二十ヲ乘シタル數ヲ加ヘタルモノト符合スルヤ

常住地ノ男女合計

一 男合計ノ數ハ第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル第四欄ノ男ノ數ト符合スルヤ

二 女合計ノ數ハ第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル第五欄ノ女ノ數ト符合スルヤ

三 男女ヲ合シタル數ハ第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル數ト符合スルヤ

常住地ノ男女總計

一 本欄ハ一所帶ニ所帶票二枚以上ヲ使用シタル場合ニ於テ最終ノ所帶票ノミニ記入シ其ノ他ノ所帶票ニ「」ノ填記アリヤ(欄外所帶票番號ノ欄括弧内ノ枚數及括弧ノ下對照)

二 本欄男總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票第二十三欄合計男ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

三 本欄女總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票第二十三欄合計女ノ欄ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

四 男女ヲ合シタル總數ハ所帶票同一番號ノ所帶票第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル數ト符合スルヤ

不在者ノ部

一 現在者ト對照シ同一氏名ノ者ナキヤ

二 男子ノ氏名ニシテ女ト記入ナキヤ

三 片假名ヲ以テ名ヲ記入シ又ハ氏名ノ間ニ「氏」ノ字ヲ挿入シタルモノ男ト記入ナキヤ

四 合計男ノ數ハ男ノ欄ニ記入シタル數ト符合スルヤ

- 五 合計女ノ數ハ女ノ欄ニ記入シタル數ト符合スルヤ
- 六 男女ヲ合シタル總數ハ順番號ノ最終ノ數ト符合スルヤ
- 七 第二欄ニ所帶主トノ續柄又ハ關係ヲ記入シ所帶主ノ記入ナキトキ更ニ不在所帶主ノ欄ニ氏名、職業名又ハ生計ノ途及職業ニ對スル地位ノ檢査ハ第八欄第九欄第十欄第十一欄參照)
- 八 支店、別莊ノ類ニ在リテハ不在所帶主ノ欄ノミニ其ノ主人ノ氏名、職業名又ハ生計ノ途及職業ニ對スル地位ノ記入アリヤ
- 九 不在所帶主ノ欄ニ記入シタルトキハ欄外住家ノ有様ノ欄ニ記入アリヤ

欄外ノ檢査

- 一 調査區畫
  - 廳名、監督區番號及調査區番號ノ欄ニ「」ヲ填記スルコトナシ
  - 調査區番號ハ各監督區毎ニ第一番ヨリ之ヲ起シ缺番號又ハ重複番號アルコトナシ
- 二 所帶所在地
  - 本欄ニハ堡里(臺南、蕃薯寮、阿緞、恒)郷(臺東)灣(澎湖)街、庄、社名、土名、町(澎湖)丁目等ノ記入適當ナリヤ
  - 本欄ニ社名又ハ土名ノミヲ記入セルハ蕃地ニ屬スルモノナリヤ
  - 本欄ニ港灣名又ハ河川地先ノ總括名稱ヲ記シタルモノニ在リテハ住家番號ノ欄ニ船何丸(名稱トキハ)等ト記入アリヤ
  - 住家番號ノ欄ニ「」ヲ填記スルコトナシ
  - 住家番號括弧内ニ所帶數ヲ記入シタルトキハ括弧ノ下ニ「」ト記入アリヤ
  - 括弧内ノ所帶數ハ住家番號欄ニ記入シタル同一番號又ハ同一名稱ノ船ノ括弧ノ下ニ記入シタル

- 三 准所帶ノ種類及名稱
  - 本欄ニ種類及名稱ヲ記入シタルモノニシテ欄内第二欄ニ所帶主又ハ所帶主トノ續柄若ハ關係ノ記入ナキヤ
  - 本欄ニ記入シタルモノノ船舶ナルトキハ所帶所在地ノ欄ニ港灣名又ハ河川地先ノ總括名稱及住家番號ノ欄ニ船何丸等ノ記入アリヤ
  - 本欄ニ記入シタルモノニシテ住家ノ有様ノ記入ナキヤ
- 四 住家ノ有様
  - 本欄ニ記入シタルモノ欄内現在者又ハ不在者ノ欄ニ所帶主トシテノ記入アリヤ
  - 本欄ニ記入シタルモノ所帶所在地ノ欄ニ地名及住家番號ノ欄ニ番號ノ記入アリヤ
- 五 署名
  - 調査委員官職氏名ノ下ニハ所帶票毎ニ官職氏名ノ記入アリヤ
- 六 日附
  - 明治三十八年十月ノ下ニ所帶票毎ニ日附ノ記入アリヤ

第二 調査委員要計表檢査手續

一般ノ注意

監督委員又ハ監督補助委員ハ要計表ノ檢査ヲ爲スニ當リ先ツ左ノ注意ヲ要ス

- 一 各欄ノ調査ニ著手スル前所帶票チ一調査區毎ニ所帶票欄外所帶所在地欄ニ記入シタル街、庄社名別ニ依リ之ヲ選メ本表欄内第一欄記入ノ堡、里、街、庄、社名ト突合シタル後街、庄、社名毎ニ各欄ノ検査ヲ爲スヘシ  
但シ河川港灣ニシテ別ニ調査區ヲ設ケラレタルモノハ街、庄、社別ノ例ニ依ル
- 二 本表ハ一調査區毎ニ一枚ヲ調製セシヤ
- 三 記入ノ文字明確ナリヤ
- 四 記入計數ノ不分明ナルモノ即チ「一〇」チ「三〇」チ「一〇」チ「二〇」チ「三〇」ト等ノ如キ疑ハシキモノナキヤ
- 五 記入計數ナキ欄ニハ「」ノ填記アリヤ
- 六 各欄検査ノ證トシテ當該欄ニ鉛筆(黒色ニ限ル)ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ  
欄内ノ検査
- 第一欄 堡里街庄社名
  - 一 本欄記入ノ街庄社名一街、庄、社ノ一部ナルトキハ「何堡何街ノ内」等ト記入アリヤ
  - 二 本欄ニ港灣名又ハ河川地先名ヲ記入シタルモノハ第二欄及第四欄ニ「」ノ填記アリヤ
- 第二欄 住家數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外住家番號欄ニ番號ヲ記入シタル家ノ數ト符合スルヤ  
但シ全家不在者ノ住家アルトキハ其ノ數ヲ除ク
- 第三欄 船舶數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外住家番號欄ニ記入シタル船舶ノ數ト符合スルヤ
- 第四欄 其ノ他ノ住居數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外住家番號欄ニ番號又ハ船舶ト記入シタルモノヲ除キタルモノノ數ニ符合スルヤ

ルモノノ數ニ符合スルヤ

第五欄 本來ノ所帶數

- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外所帶票番號欄ニ番號ヲ記入シタル所帶ノ數ヨリ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アルモノヲ除キタルモノノ數ト符合スルヤ  
但シ全所帶不在者ノ所帶アルトキハ其ノ數ヲ除ク

第六欄 准所帶ノ數

- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アルモノノ數ト符合スルヤ  
但シ全所帶不在者ノ准所帶アルトキハ其ノ數ヲ除ク

第七欄 本來ノ所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル男ノ數

- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄内男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

第八欄 本來ノ所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル女ノ數

- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄内男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

第九欄 本來ノ所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル男ノ數

- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十欄 本來ノ所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル女ノ數

- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十一欄 本來ノ所帶ニ在ル不在者男ノ數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入ナキ各所帶票ノ不在者合計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十二欄 本來ノ所帶ニ在ル不在者女ノ數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入ナキ各所帶票ノ不在者合計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十三欄 准所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル男ノ數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄内男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十四欄 准所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル女ノ數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄内男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十五欄 准所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル男ノ數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十六欄 准所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル女ノ數
  - 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

- 一 調査區畫
    - 一 廳名監督區番號、調査區番號ハ所帶票欄外記入ノ廳名監督區番號、調査區番號ト符合スルヤ
  - 二 實地調査時間數
    - 一 開始ノ日ハ一日トアリヤ
    - 一 但シ天災事變等ノ爲メ調査ヲ延期シタルトキハ其ノ調査ニ著手シタル日ノ記入アリヤ
    - 一 終了ノ日ハ遅クモ三日トアリヤ
    - 一 但シ天災事變等ノ爲メ調査ヲ延期シタルトキハ其ノ終了ノ日ノ記入アリヤ
  - 三 所帶票整理時間數
    - 一 開始ノ日ハ實地調査終了ノ日又ハ翌日ト同一ナリヤ
    - 一 終了ノ日ハ實地調査終了ノ日ヨリ七日以上ヲ經過セサルヤ
- 合計
- 一 合計各欄ノ員數ハ其ノ内譯ノ員數ヲ集算シタルモノト符合スルヤ
- 欄外ノ検査
- 一 調査區畫
  - 一 廳名監督區番號、調査區番號ハ所帶票欄外記入ノ廳名監督區番號、調査區番號ト符合スルヤ
- 第十七欄 准所帶ニ在ル不在者ノ男ノ數
- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アル各所帶票ノ不在者合計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第十八欄 准所帶ニ在ル不在者女ノ數
- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アル各所帶票ノ不在者合計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 合計
- 一 合計各欄ノ員數ハ其ノ内譯ノ員數ヲ集算シタルモノト符合スルヤ
- 欄外ノ検査
- 一 調査區畫
  - 一 廳名監督區番號、調査區番號ハ所帶票欄外記入ノ廳名監督區番號、調査區番號ト符合スルヤ
- 第十九欄 准所帶ニ在ル不在者ノ男ノ數
- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第二十欄 准所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル男ノ數
- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄内男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第二十一欄 准所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル男ノ數
- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ
- 第二十二欄 准所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル女ノ數
- 一 本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヨリ一時現在者即チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

所帶票整理ニ要シタル時間數ノ記入アリヤ又其ノ記入ノ時間數ハ適實ナリヤ

四 署名

調査委員官職氏名ノ下ニハ調査委員トシテ調査ニ從事シタル者ノ官職氏名ノ記入アリヤ

五 日附

明治三十八年十月ノ下ニ記入ノ日附ハ實地調査終了ノ日ヨリ七日以上ヲ經過セサルヤ

第五章 検査及製表

第一節 検査

要旨

所帶票及要計表ノ各監督委員ヨリ戸口調査委員長ヲ經由シテ本部ニ集中スルヤ可及的迅速ニ且精細ノ検査ヲ爲シ時機ヲ逸セスシテ之ヲ訂正セシムルノ必要アリ而シテ之ニ要スル検査員ハ統計ノ素要アルモノナラサルヘカラス少クトモ臨時戸口調査殊ニ所帶票及要計表所定ノ事項ヲ能ク理解シタルモノナラサルヘカラス故ニ其人選ニ難キニモ拘ラス從來任用セシ舊共立統計學校ノ卒業者東京統計講習會ノ修業者又ハ新ニ採用セシ地方廳ニ在リテ委員長ヲ補佐シタル臺灣總督府統計講習會ノ修業者等ヲ以テ其ノ任ニ當ラシメタリ而モ尙必要ノ數ヲ滿スコト能ハス依リテ中途ヨリ夜ヲ以テ日ニ繼キ其ノ検査ニ從事セシメタリ即チ所帶票ノ検査ハ明治三十八年十月二十日ヨリ同三十九年一月二十九日マテ百二日間(内十二月一日以後ハ毎夜午後九時マテ執務セリ)ニ於テ完了スルヲ得タル所以ナリ其ノ結果左ノ如シ

所帶票検査成績

各廳別成績

廳	從事延人員	所帶數	不備件數	所帶數百ニ對スル不備件數
臺	二〇八	五五、六七四	八〇、七三三	一四・五〇
基隆	三九	二二、九二五	七、一五四	三・二二
宜蘭	五一	二〇、八五二	二、六〇九	一二・五



検査旬報

所帯票検査旬報

此ノ表ヲ一見セハ検査ニ依リテ不備事項ノ如何ニ訂正セラレタルカヲ知ルニ足ラム

合計	水													從事延人員	所帯數	不備件數	所帯數百ニ對スル不備件數				
	其ノ	澎湖	臺東	恒春	阿山	鳳山	蕃寮	鹽港	嘉義	斗南	彰化	臺中	苗栗					新竹	桃園	深坑	
八二六	一	二五	二八	四	二二	二八	八	三九	五二	二七	四三	二二	三九	五三	三七	二九	五二	二八	八九〇三	一八〇四	二〇二六
五八五、四四〇	八三六	一一、一九六	九、二六三	三、四一五	三、五三三	三、六九五	九、七六三	四、一五〇	五、三二六	四、一七三	四、三三三	一、三八七	五、二八八	三、八二八	二、六〇三	三、一四二	三、一〇一	三、二〇一	八、九〇三	二、七七一	七、五五九
七、二七四	七八	一、五五一	一、〇四四	五二八	一、一四五	一、四二三	二、四二三	四、〇〇〇	六、〇七七	四、四〇〇	二、三七六	五、八六六	二、一一一	五、五九五	三、五三五	三、五三五	七、五五九	一、八〇四	二、七七一	二、七七一	七、五五九
一一、一七	九三三	一、三八五	一、一三七	一、五四六	一、五四六	一、六三三	六、五五	五、八九	九、六四	一、一四一	五、四四五	四、二二六	三、九九	一、四六七	一、三五四	一、三五四	二、四〇五	八、六六	八、六六	二、四〇五	一、四六七

要計表ノ検査

此ノ表ヲ一見セハ最初ノ一句ニ在リテハ一日一人ノ平均検査數ハ僅ニ百三十七所帯ニ過キ  
 サリシモ漸次累加シテ最終ノ一句ニハ千二百六十四所帯ヲ算スルニ至レリ蓋シ分業的熟練  
 ノ效ト勤務時間ヲ延長セシ結果ニ起因スルモノトス  
 又要計表ノ検査ハ明治三十八年十二月四日ヨリ同三十九年一月十一日マテ一人、同年一月十  
 二日ヨリ三月二十九日マテ二人ヲ以テ從事セシメ之ヲ了セリ

旬	旬別	就業日數	從事延人員	検査済所帯數	一日一人平均
第一旬	至從三十八年十月二十日	九	五〇	六八二八	一三六、五六
第二旬	至從同十一月十日	八	六九	一五、一八八	二二〇、一一
第三旬	至從同十一月二十日	七	七〇	二〇、一七八	二八八、二六
第四旬	至從同十一月三十日	八	八七	三〇、九六二	三三五、五六
第五旬	至從同十二月十日	九	一〇三	六四、八二七	六三五、五八
第六旬	至從同十二月二十日	一〇	一二九	一三、六八一	九五八、七七
第七旬	至從同十二月二十七日	七	九三	七三、五四五	七九〇、八〇
第八旬	至從三十九年一月十六日	五	五七	五三、〇二四	九三〇、二五
第九旬	至從同一月二十日	一〇	一〇七	一一〇、一一〇	一、一三三、五三
第十旬	至從同一月二十九日	七	六一	七七、〇九六	一一三、三九〇
計		八〇	八二六	五八五、四四〇	七〇八、七七

第二節 製表

第一 小票作成

單名票  
形式

所帶票ノ検査既ニ終リタル以上ハ第一回戸口調査ノ結果ヲ製表スルノ第一著手トシテ目錄式ノ所帶票ヨリ計牌式ノ單名票ヲ作成セサルヘカラス今回臨時臺灣戸口調査部ニ於テ使用シタル單名票ノ形式ハ左ノ如シ

單 名 票

氏名順號	常用語
種族	常用以外ノ語
男女ノ別	讀ミ書キノ程度
出生年月日	年.....月.....日(出生年月日不詳ナレハ).....歲
緣事ノ上分	不(種類)..... 具(原因).....
有業者無業ノ別	
本業名	} (注 無業家族) ナレハ所帶主ノ } (意 家事雇人)
本業ノ地位	
副業名(内職)	阿片煙吸食者.....
副業ノ地位	纏足者..... 解纏足者.....
廳番號	出生地.....
監督區番號	原籍.....
調查區番號	國籍.....
堡番號	渡臺ノ初.....年 終.....年
街庄社番號	
所帶票番號	常住地.....

(原紙ノ文字及線ハ代赅)

(實物大)

作成

單名票ノ作成ハ單ニ單名票ノ謄寫ヲ以テ終ルモノニアラス先ツ所帶票記入ノ職業及地位ニ對シ相當符號ヲ記入セシメ然ル後始テ寫字生ヲシテ所帶票ヨリ既定ノ符號ヲ單名票用紙ニ記入セシメ次ニ校正員ヲシテ之ヲ原票ニ照査セシムルヲ以テ終ト爲ス然レトモ尙萬一ノ誤謬ヲ避ケムカ爲更ニ他ノ検査員ヲシテ關係事項例之ハ職業ト地位ノ關係纏足者ト體性ノ關係暨啞ト用語ノ關係内地人ト原籍若ハ渡臺ノ關係又ハ外國人ト国籍ノ關係等相互關係ノ果シテ適實ナルヤ否絶對的ニ有得ヘカラサル事項ノ記入ナキヤ否ヲ對觀検査セシメ然ル後始テ之ヲ集計セシムルノ順序トシ明治三十九年二月五日著手同年十一月十六日完了セリ其ノ成績左ノ如シ

成績

單名票作成成績

種別	著手月日	結了月日	期間	最多時人員		延人員		備考
				一日	半日	一日	半日	
所帶票職業及地位符號打	二月五日	二月八日	四日	九人	...	三六人	...	午前九時ヨリ午後十時マテ執務
單名票謄寫	二月十九日	四月十九日	六〇日	三三	...	四四七	...	午前七時ヨリ午後十時マテ執務
單名票校合	二月十九日	四月二十日	六三日	二〇	...	四二七	...	午前九時ヨリ午後十時マテ執務
單名票スタンプ押	二月二十日	五月八日	七八日	四	...	一九五	...	四月二十二日迄ハ午前九時ヨリ午後十時マテ執務 四月二十三日以後三十日マテハ午前八時ヨリ午後四時マテ執務
單名票検査	六月十日	七月十六日	一六〇日	八	...	五八六	...	八月ヨリ午後四時マテトス

「スタンプ」押トハ單名票ニ在ル廳番號ヨリ街庄社番號ニ至ル番號ヲ同時ニ押字器ヲ以テ押捺スルヲ謂フ是レ寫字ヲ省クノ便法ナリ

所帶單位票

單名票ハ其ノ名ノ自明スルカ如ク個人ヲ單位トシテ觀察スルノ用ニ供スルモノナリ然ルニ今次ノ戸口調査ニハ所帶其ノモノヲ單位トシテ觀察スヘキモノ少カラス例之ハ住居數住家ノ有様所帶數所帶ノ種類所帶人員所帶構成別所帶主ノ職業及地位ノ如キ是ナリ是等ニ對シテハ更ニ所帶單位票ヲ作成スルノ必要アリ而シテ臨時臺灣戸口調査部ニ於テ使用シタル所帶單位票ノ形式ハ左ノ如シ

形式

所帶單位票

住家番號 (其他ノ種類) .....		
所帶票番號 .....		
一 住居中 ノ所帶數 .... (.....)		
一 所帶中 ノ住居數 .....		
住家ノ有様 ....地...家		
所帶主 ノ種族 .....		
所帶主ノ 本業名 .....		
所帶主ノ 本業地位 .....		
所帶ノ 種類 .....		
廳番號 監督區號 監番 調番 保番 街番	1. 所帶主 族	
	2. 家	
	3. 家事上ノ雇人	
	4. 職業上ノ雇人	
	5. 同居人	
	6. 來客	
現在者		
總數	男	女

(原紙ノ文字及線ハ代緒)

(實物大)

作成及成績

所帶單位票ノ作成ハ明治三十九年四月二十六日ヨリ著手シ同年九月二十五日完了セリ其ノ成績左表ノ如シ

所帶單位票作成成績

種別	著手月日	終了月日	期日	從事人員	
				最多時人員	延人員
單位票謄寫準備	四月二十日	六月二十日	六二日	八	四九六
單位票謄寫	四月二十六日	八月六日	一〇三日	二	五三〇
單位票校合	四月二十六日	九月二十二日	一五〇日	七	一〇〇〇
單位票スタンプ押	五月九日	九月二十五日	一四〇日	一	一四〇

諸心得及注意  
事項  
職業及地位  
略符記入心得

以上ニ關スル諸心得及注意事項等ヲ左ニ掲ク

職業及地位略符記入心得

第一 總則

- 一 職業分類ノ各目ニ入ルヘキ職業名ハ個人的職業ヲ目的トシテ各其ノ主題ノ下ニ類集スヘシ但シ官吏ノ内鐵道ニ關スルモノ、郵便電信及電話ニ關スルモノ、電氣ニ關スルモノ、醫治及公衆衛生(防疫及檢疫ヲ含ム)ニ關スルモノ、教育ニ關スルモノ、專賣ニ關スルモノ等ハ「一六九目」ヨリ分離シテ各相當目ニ編入スヘシ
- 二 本島ニ於テ公共團體ト認ムルモノハ左記ノ種類ニ限ル
  - 一 埠頭組合
  - 一 街庄社

- 一 保甲
- 三 「一七五目」(其ノ他ノ自由業ニ入ルヘキモノハ左記ノ種類トス)
  - 一 日本赤十字社
  - 一 武徳會
  - 一 市場
  - 一 屠獸所
  - 一 衛生組合
  - 一 慈惠院ノ類
  - 一 農會、農業組合(廳令ニ依ル)
  - 一 米商組合、糖業組合(廳令ニ依ル)
  - 一 消防組
  - 一 内地人組合
  - 一 以上類似ノ自由業ニ従事スル者
- 四 職業上ノ地位ヲ分チテ左記ノ五種ト爲ス
  - 但シ内職名及内職ノ地位ハ副業相當欄ニ記入スヘシ
  - 一 職業主
  - 一 役員
  - 一 手助家族
  - 一 労働者
  - 一 家事雇人
- 五 符號ハ片假名ヲ以テ、番號ハ日本數字(一、二、三等)ヲ以テ明確ニ朱記スヘシ
- 六 職業名及地位ニ關シ本心得ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ其ノ都度係長ニ協議決定スヘシ

シ

第二 職業

- 一 所帶票ニ在ル本業名ハ其ノ本業欄ニ、副業名(内職ヲ含ム)ハ其ノ副業欄ニ職業分類目ノ番號ヲ朱記スヘシ
- 二 有業者、無業家族、家事雇人ニ對シテハ本業欄ノ上ニ左記下段ノ符號ヲ朱記スヘシ
  - 一 有業者 ウ
  - 一 無業家族 ム
  - 一 家事雇人 ヤ
- 第三 地位
  - 一 本業及副業ノ地位ハ左ノ區別ニ依リ下段ノ數字ヲ朱記スヘシ
    - 一 職業主 一
    - 一 役員 二
    - 一 手助家族 三
    - 一 労働者 四
    - 一 家事雇人 五
  - 二 内職ノ地位ハ職業主トス
    - 但シ内職名ニシテ絶對ニ役員又ハ労働者タルモノハ各其ノ地位ニ從フ
  - 三 官吏ノ地位ハ左ノ區別ニ依リ記入スヘシ
    - 一 高等官(待遇者ヲ含ム)ハ 一
    - 二 行政官(准官ヲ含ム)ハ 二
    - 三 判任官(准官ヲ含ム)ハ 三
    - 四 嘱託雇員以下ハ 四

- 一 政府專郵 其ノ事業ノ長官及高等官ハ一
- 二 府局電報 同上ノ判任官(准官ヲ含ム)ハ二
- 三 營業(鐵道等) 同上ノ囑託雇員以下ハ 四

第四 記入例

一 職業又ハ地位ニ關スル符號及番號ノ記入方ハ左記ノ例ニ依ルヘシ

業	本	職	業	及	其	地	位
田	畑	作	業	主	米	小	三
田	畑	作	助	三	商	三	商
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム	ム
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ
下	田	畑	作	家	事	五	履
	畑	作	人	作	四	男	人

寫字生規程

寫字生規程

- 第一條 人口靜態單名票並所帶單位票ノ謄寫ニ從事スル者ハ當該主任官ノ指揮監督ヲ承クヘシ
- 第二條 就業時間ハ午前七時ヨリ午後十時迄トス
- 第三條 退參、早退、終動ハ主任官ニ届出ヘシ
- 第四條 就業時間内ニ於ケル外出、應接等ハ主任官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 人口靜態單名票若ハ所帶單位票ノ謄寫ニ要スル所帶票ハ每始業時十分前主任官ヨリ受領シ終業時十分前ニ之ヲ主任官ニ返納スヘシ

- 第六條 前條ノ所帶票ハ鄭重ニ取扱ヒ吹竄塗抹シ又ハ汚損スルヲ得ス
- 第七條 用紙ハ一定ノ書籍ニ藏置シテ汚損セサル様注意シ部外ニ搬出スルヲ得ス
- 第八條 一調査區ノ謄寫ヲ終リタルトキハ豫テ交付ノ帶紙ヲ施シ枚數及謄寫終了月日ヲ記入シ捺印ノ上主任官ニ提出スヘシ帶紙樣式左ノ如シ

謄	寫	月	日	枚	數	謄	存	數	捺	印
寫	今									

第九條 寫字生ハ退廳ノ際豫テ交附ノ寫字生日報用紙ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ主任官ニ提出スヘシ其ノ樣式左ノ如シ

○	○	寫	字	生	日	報	(	月	日)
名	監	區	調	單	名	枚	數	枚	合
稱	督	番	査	價	票	紙	殘	課	月
號	號	號	號	額	廢	數	課	課	日

寫字生

- 第十條 膳寫料ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第十一條 膳寫料ノ支給ハ毎月二十四日迄ノ分ヲ二十五日ニ請求書ヲ主任官ニ提出シ各自會計課ヨリ受領スヘシ但シ校合未済ノ分ニ對シテハ膳寫枚數ノ二割引ヲ以テ料金ヲ支給シ翌月分ニ於テ其ノ過不足ヲ精算ス
- 第十二條 誤寫等ノ爲メ廢紙ニ屬シタルモノ膳寫總枚數(一箇月毎ニ)百分ノ二ヲ超過シタルトキハ其ノ超過枚數一枚ニ付二枚分ノ膳寫料及誤譯件數一件毎ニ一枚分ノ膳寫料ヲ支給金額ヨリ控除ス
- 第十三條 誤寫等ノ爲メ廢紙ニ屬シタルモノ及殘用紙ハ一調査區ノ膳寫ヲ了リタルトキ之ヲ主任官ニ提出シ新ニ用紙ノ交付ヲ受ケヘシ
- 第十四條 活字其ノ他ノ印判ヲ以テ膳寫ニ代用スルコトヲ得ス
- 第十五條 中途ニシテ寫字生ヲ辭セムトスル者ハ現在セル寫字生ノ内ヨリ殘務引受人ヲ定メ双方連署ヲ以テ主任官ニ届出ヘシ
- 第十六條 膳寫ノ方法ハ別ニ定ムル所ノ單名票膳寫心得若ハ所帶單位票膳寫心得ニ依ルヘシ
- 第十七條 各月優等ノ者ニハ終業ノ際特ニ賞與スルコトアルヘシ
- 第十八條 寫字生ニハ宿舍若ハ宿舍料ヲ支給セス

單名票膳寫心得

第一 總則

- 一 單名票ノ膳寫ハ本心得ニ依リ膳寫スヘシ
- 二 單名票ハ所帶票現在人員一人毎ニ一枚ヲ膳寫スヘシ
- 三 膳寫ノ際疑義アルトキハ主任官ニ質問スヘシ
- 四 字體ハ楷書ニテ正確ニ點線上ニ認ムヘシ
- 五 膳寫ノ文字ハ一字タリトモ改竄塗抹スルヲ許サス

單名票膳寫心得

- 六 膳寫「ペン」ヲ用フヘシ但シインキヲ官給トシインキ蓋及ペン先竝ペン軸ヲ自辨トス
- 七 膳寫ノ數字ハ總テ左記字體ノ亞刺比亞數字ヲ用フヘシ  
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 八 所帶票ニ不詳ト記載セルモノハ當該點線上ニ×ヲ記入スヘシ
- 九 所帶票ニ記入ノ事項ナキモノハ何等ノ記入ヲ要セス

第二 氏名順號

- 一 氏名順號ニハ所帶票氏名ノ上欄ニ印刷セル數字ヲ記入スヘシ

第三 種族

- 一 種族ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

内 ナ  
 福 フ  
 廣 カ  
 漢 ハ  
 熱 シ  
 生 セ  
 外 ケ  
 第四 男女ノ別  
 一 男女ノ別ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ  
 男 ナ  
 女 ニ

第五 出生ノ年月日

一 出生ノ年月日ハ所帯票記載ノ通り數字ヲ以テ記入スヘシ  
 但シ年號ハ左記下段ノ略字ヲ以テ記入シ何年何歳若ハ單ニ何歳トアルモノハ單名票何歳ノ前ノ  
 點線上ニ數字ヲ以テ何歳ト記入スヘシ

(明治ノ二字ハ  
 全部省略ス)

明治	廣	慶應	元治	文久	萬延	安政	嘉永	弘化	天	文政	文化	未	配	課	寡	離
廣	元	文	万	安	嘉	弘	天	文	文	文	未	ハ	ミ	メ	リ	シ

一 縁事上ノ身分ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

第六 縁事上ノ身分

- 第七 有業者、無業家族、家事雇人
  - 一 有業者、無業家族、家事雇人ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ
- 有業者
  - ウ
- 無業家族
  - ム
- 家事雇人
  - ヤ

第八 本業名

一 本業名ハ所帯票本業名ニ附セル數字ヲ記入スヘシ

第九 本業ノ地位

一 本業ノ地位ハ所帯票本業ノ地位ニ附セル數字ヲ記入スヘシ

第十 副業名及内職

一 副業名及内職ハ本欄ニ記入スルモノニシテ本心得第八ニ準シ記入スヘシ

第十一 副業ノ地位

一 副業ノ地位ハ本心得第九ニ準シ記入スヘシ

第十二 常用語及常用以外ノ語

一 常用語及常用以外ノ語ハ左記ノ種類ニ限り下段ノ符號ヲ用ヒ其ノ他ハ所帯票記載ノ通り記入  
 スヘシ但シ常用以外ノ語數種アルトキハ本文ニ依リ各別ニ記入スヘシ

内	福	廣	蕃	清
ナ	フ	カ	ハ	シ



第十三 讀ミ書キノ程度

一 讀ミ書キノ程度ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

讀書	ヨカ
讀	ヨ
書	カ

第十四 不具ノ種類及原因

一 不具ノ種類及原因ハ左記下段ノ符號ヲ以テ種類ト原因トチ相對シテ記入スヘシ其ノ數種アルトキモ亦之ニ準ス

雙啞	ロ
盲	メ
白痴	ハ
瘋癲	フ
生	セ
疾	シ
傷	フ

第十五 阿片煙吸食者

一 阿片煙吸食者ハ「ア」ト記入スヘシ

第十六 纏足者、解纏足者

一 纏足者、解纏足者ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

解	カ
系	テ

第十七 出生地及原籍

一 出生地及原籍ハ左記ノモノニ限り下段ノ略字ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

東京東	三重三	高知高	富山富	石川石	桃園桃
京都京	静岡静	愛知愛	岡山岡	香川香	新竹竹
兵庫兵	岐阜岐	愛媛媛	福岡福	北海道海	苗栗苗
新潟新	巖手岩	長野野	福井井	臺北北	彰化彰
埼玉埼	青森青	長崎長	福島島	臺中中	斗六斗
群馬群	秋田秋	宮崎宮	廣島廣	臺東台	嘉義嘉
千葉千	佐賀佐	宮城城	徳島徳	臺南南	鹽水港
滋賀滋	熊本熊	山梨梨	鹿兒島鹿	南投投	蕃薯寮蕃
茨城茨	沖繩沖	山形形	島根根	基隆基	鳳山鳳
栃木栃	大阪大	山口山	鳥取鳥	宜蘭宜	阿緞阿
奈良奈	大分分	和歌山和	神奈川神	深坑深	恒春恒
澎湖澎	(右ノ上段府縣廳ノ字ヲ略セリ)				

第十八 國籍

一 國籍ハ清國人ニ限り左記下段ノ符號ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

清

第十九 渡臺ノ年

一 渡臺ノ年一回ノモノハ初ノ行ニ二回ノモノハ初終ト各別ニ所帶票記載ノ通數字ヲ以テ記入スヘシ

第二十 常住地

單名票校合手續

- 一 常住地ノ内地及本島内ニ在ル者ハ心得第十七ニ準シ記入シ其ノ外國ニ在ル者ノ内清國ニ在ル者ハ心得第十八ニ準シ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ
  - 第二十一 廳番號、監督區番號、調査區番號、街庄番號
  - 第二十二 所帶票番號
- 一 所帶票番號ハ所帶票記載ノ數字ヲ記入スヘシ
- 一 係員ハ校合スヘキ單名票及所帶票ヲ係長ヨリ受領スヘシ
- 二 校合ノ手續ハ單名票體寫心得ニ依リ各自單獨ニ單名票ト所帶票トヲ對照スヘシ
- 三 校合ノ際誤記ヲ發見シタルトキハ左式ニ依リ之ヲ附箋ニ明記シ當該欄ニ貼附スヘシ
  - 附箋記載様式
- 一 一調査區ノ校合ヲ結了シタルトキハ所帶票順ニ單名票ヲ整頓シ之ニ帶紙ヲナシ誤謬ノ件數及單名票枚數ヲ記入シ捺印ノ上體寫主任ニ交付スヘシ但退廳時迄ニ校合ノ結了セサルモノハ五分前係長ニ返付スヘシ
- 五 寫主任前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ當該寫字生ヲシテ誤記ヲ訂正セシメ係長ニ提出スヘシ
- 六 係長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ番號打專務者ヲシテ押字器ヲ使用シ青色單名票ニ記載セル番號ヲ當該欄ニ押捺セシムヘシ
- 七 係各ハ員自左式ノ校合功程日報ヲ作り毎日校合シタル單名票數及校合ノ際發見シタル誤謬件數ヲ登錄シ毎日退廳時十分前ニ之ヲ係長ニ提出スヘシ

單名票校合注意事項

所帶單位票略符記入心得

- | 名   | 區 | 番 | 號 | 調 | 査 | 區 | 番 | 號 | 單 | 名 | 票 | 枚 | 數 | 誤 | 謬 | 件 | 數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| <b>單名票校合注意事項</b>  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 一 内地人ニ在テハ必ス出生地及原籍ノ記入ヲ要ス   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 二 内地人ニ在テハ左ノ場合ヲ除クノ外必ス渡臺ノ年アリ <ul style="list-style-type: none"> <li>甲 出生地臺灣ナルトキ</li> <li>乙 一時現在者ニシテ常住地内地ナルトキ</li> </ul>   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 三 職業欄ニ於テ手助即チ「三」ノ符號アルモノハ本業欄ニ限ルモノトス若シ副業欄ニ「三」ノ地位記入アルトキハ其ノ業名番號及地位番號共ニ削除スヘキモノトス  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 四 職業欄ニ就テ左ノ注意ヲ要ス <ul style="list-style-type: none"> <li>(一) 「ウ」トアルトキハ必ラス職業番號及其ノ地位ノ記入アルコト而シテ地位ノ番號ハ「一」「二」「三」四ノ内ナルコト</li> <li>(二) 「ム」トアルトキハ地位ノ記入アルコトナシ</li> <li>(三) 「ヤ」トアルトキハ其ノ地位必ス五ナルコト</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| <b>所帶單位票略符記入心得</b>  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 第一 總則   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 一 所帶單位票體寫ノ準備トシテ所帶票ニ略符ヲ記入ス   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 二 略符ヲ記入スヘキ所帶票ハ現在所帶ニ限ル   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 三 略符ヲ記入スヘキ事項左ノ如シ  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

- 一 所帯主ノ種族
- 二 所帯ノ種類
- 三 所帯ノ構成別
- 四 略符ノ記入ハ所帯票中指定ノ箇所ニ對シテ明確ニ朱書スヘシ
  - 第二 所帯主ノ種族
- 五 所帯主ノ種族ハ本來所帯ニシテ其ノ所帯主不在ナルトキニ限り其ノ氏名並其ノ所帯構成者ノ種族等ヲ參酌シ其ノ所帯主又ハ主人ノ種族ヲ所帯票不在者ノ下部氏名欄(即チ氏名ト印刷セル中間空白ノ箇所)ニ記入スヘシ  
但シ別荘支店ノ類ニシテ主人現在セサルトキハ之ヲ所帯主不在者ト見做ス
  - 第三 所帯ノ種類
- 六 所帯ノ種類ハ本來所帯ニ限り一人所帯、親族所帯及混合所帯ニ細別シ左記下段ノ略字ヲ所帯票氏名欄最初ノ下部餘白ニ記入スヘシ
  - 一 一人所帯 一
  - 二 親族所帯 シ
  - 三 混合所帯 コ
- 七 一住居中ノ所帯數ニ關スル本來所帯及准所帯ノ符號ハ左ノ區別ニ依リ所帯票住家番號右側ノ餘白ニ記入スヘシ
  - 一 一住居内ニ在ル所帯總テ本來所帯ナルトキハ何等ノ符號ヲモ記入スヘカラス
  - 二 一住居内ニ在ル所帯總テ准所帯ナルトキハ「シ」ト記入スヘシ
  - 三 一住居内ニ在ル所帯本來所帯及准所帯ナルトキハ「ホシ」ト記入スヘシ
- 八 本來所帯ノ細別符號ハ左記ノ標準ニ依リ所帯票氏名欄最初ノ下部餘白ニ記入スヘシ

- 一 一人所帯 一人所帯トハ所帯構成者一人ニシテ現在スルモノヲ謂フ  
所帯主不在ナルトキ又ハ別荘支店ノ類ニシテ主人現在セサルトキハ假令現在者一人ナルモ之チ一人所帯トセス其ノ關係ニ依リ親族所帯又ハ混合所帯トスヘシ  
但シ不在者ノ關係ハ所帯主又ハ主人以外ニ及ボササルモノトス
- 二 親族所帯 親族所帯トハ所帯構成者二人以上ニシテ左記範圍ノモノヲ謂フ
  - 六親等内ノ血族
  - 甲 内地人、外國人(清國人ヲ除ク)所帯 配偶者
  - 三親等内ノ姻族
  - 乙 本島人、清國人所帯 家事上又ハ職業上ノ雇人  
同居人(寄留者ヲ含ム) 除キタル以外ノ家族  
來客(宿泊者ヲ含ム)
  - 丙 所帯主内地人又ハ外國人(清國人ヲ除ク)ナルトキハ甲ニ、所帯主本島人又ハ清國人ナルトキハ乙ニ依ルヘシ
- 三 混合所帯 混合所帯トハ前二種以外ノ所帯ヲ謂フ
- 第四 所帯構成別
- 九 所帯構成別ハ本來所帯ニ限ル  
所帯構成別ノ符號ハ其ノ所帯ニ於ケル所帯主トノ續柄又ハ關係若ハ所帯トノ關係ヲ檢シ左記下段ノ數字ヲ所帯票第二欄最初ノ中央ニ記入スヘシ但シ所帯主不在ナルトキ又ハ別荘支店ノ類ニシテ主人現在セサルトキニ限り其ノ所帯主又ハ主人ヲ所帯構成者ノ一員(一寫帶出)ト見做シ之カ記入ヲ要ス

所帯主

一

所帶單位票  
膽寫心得

- 一 家族(附籍者ヲ含ム)
- 二 家上ノ雇人
- 三 職業上ノ雇人(營業上ノ雇人ヲ含ム)
- 四 同居人(寄留者ヲ含ム)
- 五 來客(宿泊者ヲ含ム)
- 六

所帶單位票膽寫心得

第一 總則

- 一 所帶單位票ノ膽寫ハ本心得ニ依ルヘシ
  - 二 所帶單位票ハ一所帶毎ニ一枚ヲ膽寫スヘシ
  - 三 膽寫ノ際疑義アルトキハ主任官ニ質問スヘシ
  - 四 文字ハ楷書ヲ以テ明確ニ點線上ニ認ムヘシ
  - 五 膽寫ノ文字ハ一字タリトモ改竄塗抹スルヲ許サス
  - 六 膽寫ニ「ベン」ヲ用フヘシ但シ「インキ」ヲ官給トシインキ壺及ベン先竝ベン軸ヲ自辨トス
  - 七 膽寫ノ數字ハ總テ左記字體ノ亞刺比亞數字ヲ用フヘシ  
O I T S B A G U T S G
- 第二 住家番號(其ノ他ノ種類)
- 一 本欄ニハ住家ニ在リテハ所帶票ニ記載セル住家番號ヲ記入スヘシ但シ住家番號二箇以上アルトキハ最右側ヨリ順次横列ニ記入スヘシ
  - 二 所帶票ニ記載セル住家番號ニシテ枝番ヲ附セルモノアルトキハ左記ノ例ニ依リ記入スヘシ例之ハ所帶票記載ノ住家番號一三ノ一、一三ノ二、一三ノ三トアルトキハ 13-1 13-2 13-3 ト記入スルカ如シ

三 所帶票ニ住家番號ヲ記載セスシテ假小家、船何丸等ト記入セルモノアルトキハ左記ノモノニ限り下段ノ略字ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

- 假小家 假
- 船(筏ヲ含ム) 舟
- 洞窟 洞

第三 所帶票番號

一 本欄ニハ所帶票ニ記載セル所帶番號ヲ記入スヘシ但シ枝番ヲ附セルモノアルトキハ第二第二項ノ例ニ依リ記入スヘシ

第四 一住居中ノ所帶數

一 本欄ニハ一住居中ニ一所帶ノミナルトキハ括弧外ノ點線上ニ/ト記入シ二所帶以上アルトキニ限り所帶票住家番號第號ノ下括弧内ニ記入セル數字即チ二、三等ヲ括弧外ノ點線上ニ記入シ所帶票住家番號右側ノ餘白ニ朱記セル「シ」又ハ「シホ」ヲ括弧内ノ點線上ニ記入スヘシ

第五 一所帶中ノ住居數

一 本欄ニハ一所帶ニシテ數住家ヲ有スルモノ即チ所帶票住家番號欄ニ記載ノ番號二箇以上アルモノニ限り其ノ數ヲ記入スヘシ

第六 住家ノ有様

一 本欄ニハ所帶票ニ依リ左記下段ノ符號(片假名)ヲ記入スヘシ

- 持地持家      モ地モ家
- 持地借家      モ地カ家
- 借地持家      カ地モ家
- 借地借家      カ地カ家

○印ヲ附セルハ單位票ニ印刷ノ不動文字ナリ

第七 所帶主ノ種族

一 本欄ニハ所帶主ニ限リ左記下段ノ符號ヲ記入スヘシ但シ所帶主不在ノ場合ニハ左側下段ノ氏名欄ニ朱記セル符號ヲ記入スヘシ

内 ナ  
福 ン  
廣 カ  
漢 ハ  
熟 シ  
生 セ  
外 ク

第八 所帶主ノ本業名

一 本欄ニハ所帶主ニ限リ所帶票本業名ニ附セル數字ヲ記入スヘシ但シ所帶主不在ノ場合ニハ所帶票左側下段ノ本業名欄ニ朱記セル數字ヲ記入スヘシ

第九 所帶主ノ本業地位

一 本欄ニハ所帶主ニ限リ所帶票本業ノ地位ニ附セル數字ヲ記入スヘシ但シ所帶主不在ノ場合ニハ前項但書ニ同シ

第十 所帶ノ種類

一 本欄ニハ所帶票氏名欄最初ノ下部餘白ニ朱記セル左記下段ノ略字ヲ記入スヘシ但シ准所帶ニ在リテハ所帶票欄外准所帶ノ種類及名稱ノ下ニ記入セル其ノ種類ノミヲ記入スヘシ

一人所帶 一

親族所帶 シ

混合所帶 コ

第十一 所帶構成別

一 本欄ニハ所帶票第二欄最初ノ中央ニ朱記セル左記下段ノ數字ニ依リ右側各空欄ノ右上部隅ヨリ左下部隅ニ向ヒ斜線ヲ畫引スヘシ

所帶主 一

家族 二

家事上ノ雇人 三

職業上ノ雇人 四

同居人 五

來客 六

第十二 現在者

一 本欄男及女ノ行ニハ所帶票男女合計又ハ總計(所帶票二枚以上使)ノ男及女ノ數ヲ記入シ本欄總數ノ行ニハ既ニ記入シタル男女ノ總數ヲ記入スヘシ

第十三 廳番號、監督區番號、調查區番號、堡里番號、街庄社番號

一 廳、監督區、調查區、堡里、街庄社ノ各番號ハ記入スルニ及ハス

第二 原表集計

要旨

集計原表ハ單名票ヨリスルモノ二十四種、單位票ヨリスルモノ六種ニシテ無慮三十種トス而シテ集計ノ方法ハ單名票ト單位票トニ論ナク各原表ニ對シテ分類シ計票シ記表シ検査ス然

集計原表ノ様式

ル後整理スルノ順序ニシテ明治三十九年六月二十六日ヨリ臺北廳以下各廳ニ對シ逐次計票  
 集算ニ著手シタルニ其ノ功程豫定以上ニ進捗シタルニ依リ第七表有業者ノ職業及職業上ノ  
 地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數ハ最初臺北臺中及臺南ノ三市街ニ限リタルモ更ニ各廳  
 別ヲ加ヘ職業目別ノ表章ヲシテ遺憾ナカラシムルヲ期セリ  
 集計原表ノ様式左ノ如シ但シ本様式ノ編成ハ事實集計ノ前ニ係ルヲ以テ其ノ後ノ結果ニ比  
 スレハ多少ノ相違アルヲ免レス是レ勢ノ止ムヲ得サル所ナリ

臨時戸口調査

集計原表様式

目次

第一表	各年齢者ヲ生年種族及體性ニ分チタル人口	應別
第二表	一歳以下ノ幼兒ヲ月數種族及體性ニ分チタル人口	應別
第三表	本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族體性、年齢及縁事ニ分チタル人口	應別(職業項)
第四表	本業從屬者ノ屬スル職業及職業上ノ從屬關係ヲ種族體性、年齢及縁事ニ分チタル人口	應別(職業項)
第五表	副業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族體性、年齢及縁事ニ分チタル人口	應別(職業項)
第六表	副業ヲ有スル本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ副業、種族體性及縁事ニ分チタル人口	應別(職業項)
第七表	有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數	應別及三市街(職業目)
第八表	言語ノ種類ヲ常用語、副用語、種族及體性ニ分チタル人口	應別
第九表	言語ノ種類ヲ種族體性及年齢ニ分チタル人口	應別
第十表	讀ミ書キノ程度ヲ種族體性及年齢ニ分チタル人口	應別
第十一表	不具ノ種類ヲ種族體性及縁事ニ分チタル人口	應別
第十二表	不具ノ種類ヲ種族體性及職業ニ分チタル人口	應別(職業項)
第十三表	不具ノ種類及原因ヲ種族體性及年齢ニ分チタル不具數	應別
第十四表	阿片煙膏吸食者ヲ種族體性、年齢及縁事ニ分チタル人口	應別
第十五表	阿片煙膏吸食者ヲ種族體性及職業ニ分チタル人口	應別(職業項)

第十六表	纏足者ヲ種族、年齢及縁事ニ分チタル人口	應別
第十七表	纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口	應別(職業項)
第十八表	解纏足者ヲ種族、年齢及縁事ニ分チタル人口	應別
第十九表	解纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口	應別(職業項)
第二十表	最初渡臺ノ内地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口	應別(職業項)
第二十一表	二回以上渡臺ノ内地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口	應別(職業項)
第二十二表	内地人ヲ出生地、原籍及體性ニ分チタル人口	應別
第二十三表	外國人ヲ國籍及體性ニ分チタル人口	應別
第二十四表	住居ノ種類ヲ所帶ノ種類及所帶數ニ分チタル員數	支應別
第二十五表	本來所帶ヲ所帶ノ種類及種族ニ分チ一人所帶ヲ種族ニ分チタル員數	支應別
第二十六表	准所帶ヲ其ノ種類ニ分チタル員數	支應別
第二十七表	混合所帶(本來所帶中ノ)ヲ所帶ノ構成及種族ニ分チタル員數	支應別
第二十八表	住家及住地ノ權利關係ヲ所帶主ノ種族、職業及職業上ノ地位ニ分チタル員數	支應別(職業項)
第二十九表	所帶ノ人員ヲ所帶ノ種類及體性ニ分チタル人口	支應別
第三十表	種族ヲ體性ニ分チタル人口	支應及堡里別





第二表

一歳以下ノ幼兒ヲ月數、種

種族	男	總數	一箇月	二箇月	三箇月	四箇月	五箇月
	女						
總數	總數						
	男						
內地人	男						
	女						
本島人	男						
	女						
外國人	男						
	女						

第五章 検査及製表

族及體性ニ分チタル人口

(縣別)

六箇月	七箇月	八箇月	九箇月	十箇月	十一箇月	十二箇月	不詳

第五章 検査及製表

第三表

本業者ノ職業及職業上ノ地位

款地種體	項位族性	總數					自零歲至十歲			總
		總數	配偶者	未婚者	離婚者	不詳	總	自	至	
總數	總數	內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
	獨立	內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
	役員	內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
	手助家族	內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
	職工其ノ他	內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
	第一款 農業牧畜林業漁業等 (六款迄)	總數	內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總
							十歲以下	十歲以下	十歲以下	
獨立		內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
役員		內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
手助家族		內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		
職工其ノ他		內地人	男女	男女	男女	十歲以下			總	
						十歲以下	十歲以下	十歲以下		

第五章 検査及製表

一四九

ヲ種族、體性、年齢及縁事ニ分チタル人口

(總別)(職業項)

自十歲至									
數	十歲	十一歲	十二歲	十三歲					
自十六歲至									
數	十六歲	十七歲	十八歲						
二十一歲至二十五歲		自二十六歲至三十歲		自三十一歲至三十五歲		自三十六歲至四十歲			
自五十六歲至六十歲		自六十一歲至六十五歲		自六十六歲至七十歲		七十一歲以上		不詳	

第五章 検査及製表

一四八

第四表

本業從屬者ノ屬スル職業及職業トノ從屬關

款地種體	項位族性	總數					自至			總	
		總數	配偶者	未婚者	離婚者	不詳	自至	零	歲		
總數	職業ナキ	內地人	男女								
			男女								
		外地人	男女								
			男女								
		家事雇人	内地人								
	外地人										
	總數										
	第一款 農業牧畜林業漁業等	職業ナキ	內地人	男女							
				男女							
			外地人	男女							
男女											
家事雇人			内地人								
		外地人									
		總數									
第一項 農業牧畜養蠶等		職業ナキ	內地人	男女							
				男女							
			外地人	男女							
	男女										
	家事雇人		内地人								
		外地人									
		總數									

第五章 檢查及製表

一五一

係ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分テタル人口

(區別)(職業項)

自 十 一 歲 至			
數	十 一 歲	十 二 歲	十 三 歲
自 十 六 歲 至			
數	十 六 歲	十 七 歲	十 八 歲
二十一歲	自二十六歲	自三十一歲	自三十六歲
二十五歲	至三十歲	至三十五歲	至四十歲
自五十六歲	自六十一歲	自六十六歲	七十一歲以上
至六十歲	至六十五歲	至七十歲	不詳

第五章 檢查及製表

一五〇



第六表

副業ヲ有スル本業者ノ職業及職業上ノ地

款 項	本位 業上ノ 地	種 族	體 性	副																					
				總 數						第 數															
				總 數	配 偶者	未 婚者	離 婚者	寡 者	不 詳	總 數	配 偶者	未 婚者	離 婚者	寡 者	不 詳										
總 數  (六款迄)	本	內地人	男																						
			女																						
		本島人	男																						
			女																						
		外國人	男																						
			女																						
	業	獨立	總	男																					
				女																					
			總																						
		役員	總	男																					
				女																					
			總																						
職工其他	總	男																							
		女																							
	總																								

第五章 検査及製表

一五五

位ヲ副業種族體性及縁事ニ分チタル人口

(總別)(職業項)

業 名	業																							
	一 款						第 二 款																	
	農業牧畜養蠶等			林業及狩獵			漁業及製鹽			總 數														
第一項 農業、牧畜、林業、漁業等	本	總	男																					
			女																					
		第一項 農業、牧畜、林業、漁業等	男																					
			女																					
		總	男																					
			女																					

第五章 検査及製表

一五四



第八表

言語ノ種類ヲ常用語、副用語、

種類	總數			内地人			本				
	總數	男	女	總數	男	女	漢			福	
							總數	男	女		男
常用語	總數										
土	内地語										
	語	總數									
		福建語									
		廣東語									
		漢語									
	外	總數									
		清語									
		英語									
		佛語									
	國	獨語									
韓語											
語	語語										
	不詳										
副	聲										
	啞										
副	用										

第五章 検査及製表

(一子取ル電ヲルモノ)

種族及體性ニ分チタル人口

(區別)

島人								外國人			
人					熱蕃		生蕃		總數	男	女
建	廣	東	其ノ他		男	女	男	女			
女	男	女	男	女					男	女	男

第五章 検査及製表









第十二表

不具ノ種類ヲ種族、體性

種 種 體	種 族 性	下ニ掲グル職							
		總數	第一款				第二		
			總數	農業、牧畜、養蠶等	林業及狩獵	漁業及製鹽			
總數	總數								
	內地人	男							
		女							
	本島人	男							
女									
外國人	男								
	女								
種 類	種 類	總數							
		總數							
		盲	男						
			女						
		聾	男						
			女						
		啞	男						
			女						
		白痴	男						
			女						
癩	男								
	女								

第五章 検査及製表

一六七

(ニ種ヲ兼ナル者、四種ヲ兼ナル者、三種ヲ兼ナル者)

及職業ニ分チタル人口

(應別)(職業項)

業ニ従事スル者										
款		第三款			第四款			第五款	第六款	第七款

第五章 検査及製表

事セサルモ其ノ職業ニ屬スル者										
款		第三款			第四款			第五款	第六款	第七款

一六六

